

科目名	マナー&ホスピタリティ		教員名	河崎 峰子	
Subject	Manner & Hospitality				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	◎	○	◎	◎
科目の概要	マナー・ホスピタリティの基礎を学び、グローバル社会を見据え、日本人・外国人共に対応できる人材になるため、知識だけではなく、学んだことを行動に移せる実践力を培っていきます。日常生活の中からホスピタリティ溢れる事例を探し、気づきができるように習慣づけ、またマナーを通したコミュニケーション力の大切さを認識します。そして美歳学において、マナーとホスピタリティを通して美しく歳を重ねることも意識します。				
授業の目標	授業を通して、己を知り、他者を理解することで、真のマナーとホスピタリティを追求し、大人になる礎を習得します。その為に、ビジネスマナーの基礎を学び、コミュニケーション力向上のため、信頼関係構築の5つのポイント（挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・態度）を掘り下げ理解し、社会人基礎力向上する。また知識を得た証として「おもてなしマイスター」資格取得も目指します。				
時間外学習 （予習・復習）	「おもてなしマイスター」の資格取得も念頭に入れた予習復習を励行してください。具体的には、知識を習得しているかの確認の為の小テストを数回授業内で実施しますので、各授業のポイント을 毎回自宅で復習して下さい。予習は次回授業予定の単元のテキストを事前に読み込んでください。また課題レポート提出を求める際は、自宅にて作成し、メール等で送付してもらいます。その際メールの送付の仕方、手紙の書き方を復習し、実践してもらいます。				
教科書・教材	教科書	「おもてなしマイスター」の教科書			
	教材	・ プリントを適宜配布。			
	使用設備・備品	CD、DVD、ビデオ再生機。			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	授業参加意欲 20%、レポート 15%、筆記試験 65%の比率で評価します。 授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	「おもてなしマイスター」			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション マナーとホスピタリティとは何かを学ぶ。	15 回で何を学んでいくかを理解する。また「おもてなしマイスター」の資格の説明。	予習としてテキストを一回読む。(60 分)
第 2 回	信頼関係の基本 5 原則 (挨拶と表情を学ぶ)	第一印象の大切さを理解し、良い挨拶を理解する。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 3 回	信頼関係の基本 5 原則 (身だしなみ・言葉遣いを学ぶ)	身だしなみとおしゃれの違いがわかる。言葉の大切さを理解できる。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 4 回	信頼関係の基本 5 原則 (言葉遣いを学ぶ)	敬語を理解する。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 5 回	信頼関係の基本 5 原則 (クッション言葉を学ぶ)	クッション言葉を学び、コミュニケーション力を向上する。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 6 回	信頼関係の基本 5 原則 (態度や立ち居振る舞いを学ぶ)	立ち姿、座り方、物の授受、指し示し、案内ができるようになる。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 7 回	信頼関係の基本 5 原則 (立ち居振る舞いを深く学ぶ)	よりスムーズに立ち姿、座り方、物の授受、指し示し、案内ができるようにする。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 8 回	信頼感の伝わるビジネス動作でコミュニケーション力を培う。	名刺の扱い方、紹介のマナーを理解し、実践してみる。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 9 回	信頼感の伝わるビジネス動作で会社内での対応を学ぶ。	お茶の出し方、訪問来客の対応のマナーを理解し、実践する。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 10 回	信頼感の伝わるビジネス動作としてグローバルな知識を得、ビジネスの常識に触れる。	席次、国旗等について理解する。	授業で習った「おもてなしマイスター (接客)」のポイントを復習し、予習は、テキスト熟読を 30 分程度行う。
第 11 回	文書について学ぶ	社内文書・社外文書・メールについて理解する。	文書を作成し、添付してメールする。(60 分以上)
第 12 回	基本的マナーとして食事の仕方を学ぶ	洋食・和食のいただき方を知る。	文書の復習を再度行い、実践できるようにする。はし遣いを実際の食事の際に確認する。
第 13 回	基本的マナーとして日本文化を学ぶ	通過儀礼と日本のしきたりについて理解する。	日本のしきたりを自分でも調べ、授業の内容をより深く理解する。(60 分)
第 14 回	基本的マナーとして冠婚葬祭の知識を得る	結婚・葬儀・贈答等について理解する。	冠婚葬祭の経験を自分なりに纏めてみる。祝儀袋・不祝儀袋を实际自宅でも包んでみる。(60 分)
第 15 回	まとめ	15 回の振り返り。大人としてマナーを習得する必要性を理解する。	15 回を振り返り試験に向けて自学習する。(60 分以上)

科目名	接客・接客法		教員名	河崎 峰子	
Subject	Service and Reception				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	◎	○	◎	◎
科目の概要	お客様の気持ちを察し、深掘りすること、お客様の期待に応えること、そして「おもてなし」とはどのようなことかを理解します。また人に「おもてなし」をして喜んでいただけることが、自分の喜びとなることに気づき、仕事とは・プロフェッショナルとは、を考えていきます。加えて世代の違いも意識することで、美歳学との連動でも説いていきます。また異文化の方々にも対応できるグローバルを意識した「おもてなし」が実践できることも目指します。				
授業の目標	グローバル社会の中のサービス産業に携わる者として、即戦力の「おもてなし」ができ、気持ちの良いコミュニケーションを実践できることで、サービス産業の活性化と生産性向上に役立つ人材になるための知識習得と意識向上する。具体的には「おもてなしマイスター」のベシクマイスター資格取得を目指します				
時間外学習 (予習・復習)	「おもてなしマイスター」の資格取得も意識した予習復習をしてください。復習は、授業のポイントとなる項目の理解を深めて下さい。理解度を確認する為に小テストを数回実施しますので準備してください。予習は、次回の授業の内容がスムーズに理解する為に、配布されたプリントを事前に読み込んでください。(各回の予習復習は概ね 60 分から 90 分を見込みますが、時間に捉われ過ぎず、理解を深めることを重視して下さい。)				
教科書・教材	教科書	「おもてなしマイスター」の教科書			
	教材	必要に応じてプリントを配布します。			
	使用設備・備品	CD、DVD、ビデオ再生機。			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	授業参加意欲 20%、レポート 15%、筆記試験 65%の比率で評価します。 授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。				
本科目履修と関連する資格	資格名	「おもてなしマイスター」			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 接客・接客とは何かを学ぶ。	授業の進め方を周知し、 この授業の全体像を把握する。	次回の「人間の欲求」プリントを読み、予習して予備知識を得る。(60 分以上)
第 2 回	人間の欲求について学ぶ	マズロー欲求階層説について理解する。	自分の欲求は何か強いのか纏めてみる。「顧客満足」のプリントを事前に読み予習する。
第 3 回	接客を理解し、顧客満足について学ぶ。	CS・ES・CD を理解する。	授業で習った「おもてなしマイスター（接客）」のポイントを復習し、「言葉遣い」のプリントを事前に読み予習する。
第 4 回	接客・接客の演習（言葉遣い）を学ぶ	接客に相応しい言葉遣いを事例を交えて再確認する。	授業で習った「おもてなしマイスター（接客）」のポイントを復習し、「敬語」のプリントを事前に読み予習する。
第 5 回	接客・接客の演習（敬語）を学ぶ	敬語を意識したロールプレイをする。	授業で習った「おもてなしマイスター（接客）」のポイントを復習し、「電話応対」のプリントを読み予習する。
第 6 回	電話応対を学ぶ	接客のスキルとして求められる電話応対を事例で学ぶ。	授業で習った「おもてなしマイスター（接客）」のポイントを復習し、「電話応対」の事例を考える。
第 7 回	電話応対を習得する	電話応対をロールプレイして習得する。	「おもてなしマイスター（接客）」のポイントを復習し、「電話応対」のロールプレイの練習をする。
第 8 回	お客様心理を考える。	事例を考え、CD とクレームになぜつながるかを討議する。 （グループワーク）	授業で習った「ポイントを復習し、グループワークで気付いたことを纏める。
第 9 回	5 つのお客様心理をととは何かを学ぶ	お客様の気持ちを深掘して考える。	授業で習ったポイントを復習し、クレームの経験を纏める。
第 10 回	クレーム対応	クレームに対しての基本的な考え方を理解する。	授業で習ったポイントを復習し、クレームのメカニズムを理解する。「プロの 5 意識」のプリントを読み予習する。
第 11 回	プロ意識とはどのようなものがあるか学習する	プロの 5 意識を理解する。	授業で習ったポイントを復習し、周りでプロだと感じた人を書きまとめる。
第 12 回	プロとはどのような人か、事例で学ぶ	DVD を鑑賞しレポートにまとめる。	授業で習ったポイントを復習し、レポートを仕上げる。「異文化の接客」のプリントを読み予習する。
第 13 回	異文化接客を学ぶ	異文化の接客を演習して習得する。	おもてなしマイスターの「異文化間コミュニケーション」のポイントを復習をする。
第 14 回	異文化接客ケース研究	文化的な背景を考慮し、外国人の接客について話し合い理解する。（グループワーク）	おもてなしマイスターの「外国人の接客」のポイントを復習し、グループワークで気づいたことを纏める。
第 15 回	まとめ	おもてなしマイスターの資格試験を意識した振り返り。	おもてなしマイスター（異文化間コミュニケーション）の復習を行う。

科目名	色彩学		教員名	栗本 佳典	
Subject	Studies of Color				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	△	—
科目の概要	美容をはじめ、デザインの現場から普段の生活の場まで、さまざまな状況で必要とされる色彩の役割や考え方について学びます。 色の分類から配色、カラーイメージなどについて学習内容の解説を行った後、実際にカラーチップやポスターカラーを使って演習を行い課題を提出します。				
授業の目標	演習などを通して色彩の基礎をしっかりと身につけるとともに、色に対する認識力や発想力、イメージ力を養う。さらに、幅広い色彩感覚を身につけ、美容をはじめさまざまな場面で必要となる色彩に対する判断力や表現力を高める。 また、課題提出時に学生と教員で相互評価を行うことにより、自己を振り返る機会を得る。				
時間外学習 (予習・復習)	月に一回程度、展覧会などを見に行き、作品における色彩の使用法や表現法を探ってください。また、ファッション雑誌を見たりウィンドウショッピングするときなどでも常に色を意識して色彩に対する感覚を磨いてください。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	提出課題の理解度および完成度８０％、授業態度２０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と関連する資格	資格名	色彩検定（A.F.T）			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	色を感じる仕組みや色と人間とのかかわりを知る。	
第 2 回	光と三原色	色料の三原色や光の三原色など、色を再現する方法を知る。	
第 3 回	補色と配色	美容のさまざまな場面で登場する補色について理解する。	色鉛筆使用
第 4 回	色名	色名の成立について理解を深めるとともに、オリジナルの色名を考え発想力を高める。	ポスターカラー使用
第 5 回	三属性とカラーシステム	正確に色を分類するための基準を知り、微妙な色の違いを見分ける力を身につける。	PCCS チャート使用
第 6 回	色彩のトーン	明度、彩度から生まれるトーン分類の表示方法を理解する。	TONE チャート使用
第 7 回	トーンイメージ	トーンによるイメージの表現力を身につける。	ポスターカラー使用
第 8 回	配色法①	配色の基本的な考え方を身につける。	カラーカード使用
第 9 回	配色法②	配色の効果や調和を利用できる力を身につける。	カラーカード使用
第 10 回	カラーウォッチングおよび色彩再現	さまざまな物の色を観察し作ること、色作成の力を高める。	ポスターカラー使用
第 11 回	対比、同化と色彩心理	色と視覚との関係を知る。また、色が人の心理に与える影響を理解する。	色鉛筆使用
第 12 回	イメージワードと色彩	イメージ作りに必要となる、色の表現力を身につける。	色鉛筆使用
第 13 回	パーソナルカラー	ベースカラーおよびパーソナルカラーの基本的な考え方を理解する。	カラーカード使用
第 14 回	年齢による色認識と日本の色彩文化	年齢と色認識との関係、および日本文化における色の特徴を知る。	カラーカード使用
第 15 回	まとめ	色彩構成を作成し表現力を高めるとともに自己の作品を開発する力を養う。	色鉛筆使用

科目名	日本文化（茶道）		教員名	河原 宗孝	
Subject	Traditional Art (Tea Ceremony)				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	○	○	◎
科目の概要	社会で活躍するためには、専門的な知識や技術の習得のみならず、洗練された接客マナーが求められます。各回とも講義と実技（点前の稽古）呈茶を組み入れ、裏千家茶道の盆略点前を学習し、最後には自分で点てられるようにします。尚、呈茶には、毎回季節を感じるお菓子とお茶を頂きます。				
授業の目標	「道・学・実」を三位一体で学ぶことを通し、美の裏方としての人間形成が図れる。中でも「和敬静寂」を学ぶことを通して、精神面の成長が図れる。 東京オリンピック開催を控え、おもてなしの心を学ぶとともに、お茶の正しい点て方と頂き方を習得できる。				
時間外学習（予習・復習）	裏千家の盆略点前を学習するうえで、各回の復習は非常に重要なものとなります。お茶の正しい頂き方、帛紗捌きの予習復習等、毎回１時間程度の学習が必要です。授業以上を望んでいる学生には部活動として無料で本校茶室愛治庵において指導しています。				
教科書・教材	教科書	『茶の湯で学ぶ美』 河原宗孝 著 （株）淡交社			
	教材	帛紗セット			
	使用設備・備品	盆略点前に必要な道具、和室、愛治庵			
	参考文献	月刊誌『淡交』『なごみ』ビデオ『利休の茶』『15代鵬雲斎大宗匠とジェーン先生の対談』『茶の湯自在』			
評価方法	筆記試験（50％）実技試験（15％）受講態度（35％）の総合評価				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	名札、腰紐、白いソックス、髪を束ねるゴムの用意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	茶道裏千家許状『初級』。 時間外学習を受講した学生で希望者には『中級』の許状取得可。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	講義 入門の心得、教材の配布、許状説明 実技 お菓子お茶の頂き方、お茶の点て方、自服	お菓子とお茶の頂き方を覚えることができる。	日本のマナーを覚える。お茶の正しい頂き方の復習
第2回	講義 禅語「喫茶去」、英会話(1) 実技 床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方、自服	茶道に関係のある禅語を理解できる。① 「喫茶去」の読み方と意味を覚える。英語力を高められる。①	禅語「喫茶去」の復習。床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方の復習
第3回	講義 炉、風炉、立礼、開炉について 実技 割稽古(1) 帛紗の扱い、帛紗捌き、自服	季節の移り変わりを知り、日本の四季を実感できる。①	帛紗の扱い、帛紗捌きの復習
第4回	講義 禅語「薫風自南来」、歴代家元(1) 実技 割稽古(2) 棗、茶杓について、自服	「薫風自南来」の読み方と意味を覚える。	帛紗の扱い、帛紗捌きの復習 棗・茶杓の清め方の復習
第5回	講義 「和敬静寂」、歴代家元(2)、英会話(2) 実技 割稽古(3) 茶巾のたたみ方、茶筌通し	茶道の根本原理を学ぶことができる。英語力を高められる。②	帛紗の扱い、帛紗捌きの復習 棗・茶杓の清め方の復習
第6回	お茶室の勉強と感想文を書く、呈茶	茶室の名前、由来、特徴を覚える。	和室でのマナー、正しいお茶の頂き方の復習
第7回	講義 ビデオ『利休の茶』『15代鵬雲斎大宗匠とジェーン先生の対談』 実技 自服	千利休の精神を理解できる。愛自庵の由来を知る。	帛紗さばき、棗と茶杓の清め方を復習
第8回	講義 お客様に好かれる方法、お客様が求める美容師とは 実技 盆略点前(1)、友達に点てる	理想とする美容師観を養える。①	盆略点前の復習
第9回	講義 プロとして最小限知っておくべき事 実技 盆略点前(2)、友達に点てる	理想とする美容師観を養える。②	盆略点前の配置図を覚える
第10回	お茶会に招かれたお客様の勉強、呈茶	お茶会に招かれた時のマナーを覚える。	和室でのマナー、正しいお茶の頂き方の復習
第11回	講義 「利休遺偈」、歴代家元(3)、英会話(3) 実技 盆略点前(3)、友達に点てる	「利休遺偈」の読み方と意味を覚える。英語力を高められる③	盆略点前の復習
第12回	講義 ビデオ『茶の湯自在』 実技 自服	ビデオを使いお茶事を学ぶ。ビデオを通し、お茶事のお客ぶりを体感できる。	お茶事の流れの復習
第13回	講義 季節を感じるとは 実技 盆略点前(4)、友達に点てる	季節の移り変わりを知り、日本の四季を実感できる。②	盆略点前の復習
第14回	講義 利休七則、歴代家元(3) 英会話(4)、茶の用語抄 実技 盆略点前(5)、友達に点てる	世界に通じる茶道を学べる。英語力を高められる④	利休七則を覚える、お茶用語の英単語と会話を覚える。盆略点前の復習
第15回	講義 禅語「一期一会」の読み方と意味、総復習 実技 帛紗捌き、棗、茶杓の清め方、友達に点てる	「一期一会」読み方のと意味を覚える。	正しいお茶の頂き方、帛紗捌き、棗・茶杓の清め方の予習、復習

科目名 Subject	日本文化（華道） Traditional Art (Flower Arrangement)		教員名	松崎 光瞳	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	人間と自然に於ける共存の正しい在り方を華道という造形芸術で学び、それを再構築することにより日本の伝統文化を継承する。				
授業の目標	一般教養としての日本の華道史、及び生活芸術としての華道を学び、その華道の精神と技術の習得を通して美意識を高めることができる。それと共に、自然との共生を大切にする華道精神を理解することで、人間同士の共生を改めて考え、コミュニケーション能力やホスピタリティ精神の必要性を実感できるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	毎回の授業で学ぶ構成図や構成表の復習、花芸作品の再構成を行う				
教科書・教材	教科書	花芸 安達流 演習ノート 「水」、補足のプリント配布			
	教材	演習ノート、筆記道具、色鉛筆、タオル、ノリ			
	使用設備・備品	花器、花鋏、剣山、花盆、花巾、色鉛筆			
	参考文献	花芸安達流安達瞳子著書全書			
評価方法	平常点２０％、毎回の課題点３０％、試験５０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	花芸 安達流 入会「水」の終了証			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 花寄せ	華道の授業に臨む心構えを学び、同時に初めて花芸作品の制作ができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布プリントの見直し
第 2 回	花芸作品を制作するにあたってのプロセスの大切さを学ぶ	結果を出すことの大切さと同時にそのプロセスの大切さを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 3 回	その季節の行事に合わせ、歴史や文化を学び、花芸作品を制作する	日本古来の文化や風習を学ぶことで、伝承美を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 4 回	花芸作品を制作するために必要な構成図を理解する	正面図と平面図の必要性和見方を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 5 回	花材の自然な姿を尊重し作品を生けることを学ぶ	人と自然との共生を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 6 回	花芸作品の美的バランスを学ぶ	造形空間について、日本と西洋の美的感覚の違いや、具体的なバランスを学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 7 回	安達流の構成三原則の一つ、〈五態〉を学ぶ	生態学、形態学から、その形状に合った態を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 8 回	安達流の構成三原則の一つ、〈文法〉を学ぶ	花芸作品を作成するにあたり、花材に役を定めることを理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 9 回	花道史と花ばさみの扱いを学ぶ	華道の歴史を歴史的背景と共に理解できるようになる。	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 10 回	植物の生態について学ぶ	植物の生理現象である水揚げの仕組みなどを学び、植物の管理法を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 11 回	文法の授業で学んだ〈主要三格〉の力関係の比率を学ぶ	主要三格の力関係〈コンポジション〉における美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 12 回	花材と花器のバランスを学ぶ	前回までの授業で学んだ花材間のバランスに加え、花器との全体のバランスを学び会得できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 13 回	安達流の構成三原則の一つ、〈原型〉を学ぶ	〈原型〉を理解することで、論理的に花芸作品の美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 14 回	複数人で花芸作品を制作する〈連花の演習〉	〈連歌〉の心を受け〈連花〉を生けることで、共同作業の美的効果を学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習
第 15 回	授業の総復習と花束制作	華道の授業で会得した美的感覚、論理的演習法、自然や人、社会との共生のありかたを再考し、理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花材で再演習

科目名	ゼミナール I		教員名	ゼミ担当	
Subject	Seminar I				
開講年次	1	開講時期	通年	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	◎	◎	◎	◎
科目の概要	髪・顔・装い・精神美・健康美という建学の精神の理解の下に、キャリア支援教育を実施します。具体的には、一人の人間として、大人として、あるいは社会人としてのマナーや振る舞いを学びながら、自己理解と自己分析を進め、自分自身の将来像を思い描き、それを実現させるためには、いま何をすべきか、どうしたらよいかということを考えます。				
授業の目標	短大生として必要な考え方、能力を養う。 将来の社会人として必要な能力を知り、養う。 美容業界を始め、さまざまな業界を知り、その業界で活躍するために準備をする。				
時間外学習 (予習・復習)	ポートフォリオの作成や業界研究 就職活動に向けての動きは授業内では収まりません。 時間外でも業界研究、自己分析などは常に行うこと。 単位取得の目的以外に１週間では、１２０分程度の分析は必要です。				
教科書・教材	教科書	本学ゼミテキスト			
	教材	本学ゼミテキスト			
	使用設備・備品	業界研究用ＰＣ他			
	参考文献				
評価方法	授業や課題への取り組み姿勢等				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	15 回分の内容を把握し、その意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業の全体像を把握する。	自己紹介
第 2 回	アイスブレイク	仲間を理解し、伝えたいことを表現する力をつける	ゼミの仲間との関係構築
第 3 回	就職活動の全体像を把握する	短大生活における就職活動の流れについて知る	就活についての現実を知る
第 4 回	履歴書とは何か	履歴書の必要性を学ぶ	履歴書の一部を
第 5 回	ポートフォリオとは何か	普段の授業や学外の体験をポートフォリオにしてみる。	自分の強みをみつけ、記録に残すことの重要性を知る
第 6 回	業界研究①	業界の種類や違いを知る	
第 7 回	業界研究②	自分が「好き」な企業、ブランドについて考え「志望」に変える	将来行きたい企業・店舗・ブランドについて考える
第 8 回	業界研究③	現場調査の方法について学ぶ	調査対象の選択や準備の方法について知る
第 9 回	業界研究④	現場調査発表 他の人の体験からも学ぶ	
第 1 0 回	履歴書の書き方①	文章の書き方を学ぶ	趣味特技を書いてみる
第 1 1 回	履歴書の書き方②	自分史年表を作り、見えていない自分を知る。	自分史年表を作成してみる
第 1 2 回	履歴書の書き方③	自分の強みをみつけ、知る。	今までの人生経験を整理し、自分の長所や特徴をつかむ
第 1 3 回	履歴書の書き方④	自己 P R を考え書くことが出来るようになる。	自己 P R を書いてみる
第 1 4 回	面接の基本	口頭発表の方法を学ぶ	人前で発表する
第 1 5 回	夏休みの過ごし方	夏休みの目標と計画を自ら立てることの重要性を知る。	外部講師によるセミナー

科目名	ゼミナールⅡ		教員名	ゼミ担当	
Subject	SeminarⅡ				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	◎	◎	◎	◎
科目の概要	将来像をより具体的に展望し、その将来像を具現化するために必要な課題を明らかにして、その課題に取り組めます。就職を目指す学生にとっては、それぞれの学生の履歴書やエントリーシート作成の支援、面接技法の支援等を行います。				
授業の目標	自己を知り、将来の社会人としての準備をする。 自己分析を通して自己を知り、希望の仕事に就くために必要なことを身に付ける。				
時間外学習 (予習・復習)	業界研究、自己分析				
教科書・教材	教科書	本学ゼミテキスト			
	教材	本学ゼミテキスト			
	使用設備・備品	業界研究用PC他			
	参考文献				
評価方法	授業や課題への取り組み姿勢等				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	15 回分の内容を把握し、その意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業の全体像を把握する。	自己紹介
第 2 回	マナー	人の話の聞き方のマナーを学ぶ	
第 3 回	インターンシップ報告会	仲間のインターンシップの体験を共有する	就職への意識を高める
第 4 回	業界研究①	OB・OGの話を聴き業界を知る	進路を考える機会を作る
第 5 回	業界研究②	学内の先輩達の話聴き業界を知る	進路を考える機会を作る
第 6 回	ES・履歴書の書き方「志望動機」	進路を意識して文章を書くことが出来るようになる。	志望動機を書く
第 7 回	履歴書のブラッシュアップ	先生から受けたアドバイスを元に自己表現力を高める。	志望動機を完成させる履歴書の完成
第 8 回	進路別講座（マイナビ登録他）	就職活動の準備としてマイナビに登録する	就職への意識を高める
第 9 回	就職活動での身だしなみ	就職活動の身だしなみを学ぶ	就職活動のマナーを知る
第 10 回	面接対策①	発声トレーニングと色々な言葉の表現の方法を学ぶ	人前で話す
第 11 回	面接対策②	面接の基本を学ぶ	面接の種類と方法を知る
第 12 回	面接対策③	模擬面接を行うことで自分の良いところ悪いところを知る。	面接練習を行う （個人・集団）
第 13 回	面接対策④	グループディスカッションのポイントを知る。	面接練習を行う （グループディスカッション）
第 14 回	春休みの過ごし方	春休みの目標と計画を立てる	外部講師によるセミナー
第 15 回	春休みの過ごし方	企業のピックアップをし、研究する	「足を動かす」ことを主題に、考える

科目名	情報リテラシー I		教員名	大久保 賢一	
Subject	Information Literacy I				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	△	—
科目の概要	情報通信技術は、今日では、社会の重要なインフラとなっている。当科目では、社会に出てから情報技術を活用し、活躍できるように基礎と応用法を学んでいく。社会人として必要となる、文書作成、表計算、プレゼンテーション・ソフトなどを実践的に学んでいく。情報技術の知識を深め、スキルを磨いていく。情報技術を活用することで、課題の発見と解決力が身につき、コミュニケーション能力も高まっていく。				
授業の目標	社会人として必須となる情報技術を学び、その応用力を高めていく。単に、アプリケーション・ソフトを使いこなすだけでなく、楽しみながら、創造性を発揮できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	インターネット検索等により、毎回の授業のテーマを把握し、予習しておくこと。また、授業で学んだ技法や知識をすぐに復習し、自分のものとしていくこと。 トータル 900 分				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	なし			
	使用設備・備品	パソコン教室			
	参考文献	なし			
評価方法	平常点 30%、レポート 30%、課題 40%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に課題にチャレンジして、失敗を恐れずにパソコン操作に取り組むこと。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション。word の基礎を学ぶ。	word を、楽しみながら使いこなせるようになる。	
第 2 回	word を活用して、顧客向けの「案内状」を作成する。作図の方法も学ぶ。	デザイン性を考慮した文書作成ができるようになる。	
第 3 回	インターネットで「著作権」について調べ、word でその報告書を作成する。	情報検索の方法を学び、報告書の作成ができる。	
第 4 回	word で、ファッションショーのチラシを作成する。	コミュニケーションの対象者を考慮した文書の作成ができる。	
第 5 回	word で、タテ組みの文書を作成する。表の作成方法も学ぶ。	word を実践的に活用することができる。	
第 6 回	excel の基礎知識を学ぶ。表を作成する。	excel の仕組みを理解することができる。	
第 7 回	excel を使って、四則計算をする。	excel の基礎的な使い方をマスターすることができる。	
第 8 回	excel でグラフを作成する。	思い通りにグラフを作ることができるようになる。	
第 9 回	excel で、複雑な表とグラフを作成する。	excel の実践的な活用ができる。	
第 10 回	excel で複合グラフを作成する。人口ピラミッドを作成する。	excel を活用したコミュニケーション能力が身につく。	
第 11 回	powerpoint の基礎的な操作方法を学ぶ。	powerpoint の特徴を理解することができる。	
第 12 回	powerpoint で、資料を作成する。	powerpoint の実践的な活用方法が分る。	
第 13 回	powerpoint の動画的な使い方を学ぶ。	powerpoint のアニメーション効果を使いこなすことができる。	
第 14 回	powerpoint で、wedding movie を作成する。	目的に合わせて、エンターテイメント性を含んだ、powerpoint の演出ができる。	
第 15 回	powerpoint で、表の挿入やグラフの作成方法を学ぶ。	説得力のあるプレゼンテーション資料が作成できる。	

科目名	情報リテラシーⅡ		教員名	大久保 賢一	
Subject	Information LiteracyⅡ				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	△	—
科目の概要	ビジネス活動に欠かすことができない、インターネットおよび web の作成方法を学ぶ。また、情報セキュリティについての知識とノウハウも身につけていく。				
授業の目標	インターネットの仕組みやその効果的な活用方法を学ぶ。Web サイトの作成に必要な知識とスキルを身につける。				
時間外学習 (予習・復習)	予習としては、日ごろからインターネットの世界に慣れ親しんでおくこと。また、各企業・学校等の web サイトを検索し、構成やデザインの参考にする。復習では、情報技術を活用するためのスキルと知識を深めることに重点を置くこと。 トータル 900 分				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	なし			
	使用設備・備品	パソコン教室			
	参考文献	なし			
評価方法	平常点 30%、レポート 30%、課題 40%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に web の世界に触れ、的確な情報発信と情報検索を心がけること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション。インターネットの歴史と仕組みを学ぶ。	インターネットの基礎を学び、活用できるようになる。	
第 2 回	web サイトに必要な要素を学ぶ。	web サイト構築に必要な知識が身につく。	
第 3 回	web のコンテンツを考える。	web では、どのようなコンテンツの要素が求められているかを理解する。	
第 4 回	web のコンテンツ作成に欠かせない、画像加工の方法を学ぶ。	画像加工のアプリケーションを使えるようになる。	
第 5 回	画像の切り抜き方法を学ぶ。	画像加工ソフトの高度な使い方が身につく。	
第 6 回	画像加工を応用したデジタル・メイクを学ぶ。	画像の修正ができるようになる。	
第 7 回	簡単な web 制作ソフトについて学ぶ。	web 制作ソフトを理解することができる。	
第 8 回	web 制作ソフトを使って、実際にサイトを作成する。	自分自身で、web サイトを構築することができる。	
第 9 回	もうひとつの web 作成ソフトについて学ぶ。	より高度な web サイトを作成することができる。	
第 10 回	もうひとつの web 作成ソフトを使って、実際にサイトを作成する。	web から情報を発信する方法が体験できる。	
第 11 回	web 作成に必要な用語を検索し、学んでいく。	自分自身が調べた web 用語のサイトが作成できる。	
第 12 回	html コードを書いてみる。	html の構造を理解し、実際の書き込みができる。	
第 13 回	web 解析のデモページを見ながら、web 解析の実際を学ぶ。	web 解析の必要性とその具体的な方法を理解できる。	
第 14 回	web サイトを作成して、リンクの方法を学ぶ。	web サイトに必要なコンテンツ構成が分る。	
第 15 回	ランディングページを作成し、そこへのリンクを構築する。	実際に、他の web サイトへのリンクを張ることができる。	

科目名	アロマテラピー		教員名	青木和美	
Subject	Aromatherapy				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	○	△	○
科目の概要	人は心地良い香りを嗅ぐとき、気持ちが落ち着き、リラックスしたり、意欲的になったりします。このような効果を私たちを取り巻く環境に応用しているのがアロマテラピーです。現在、このアロマテラピーは美容やサービス業、医療、福祉そして個人のホームケアなど様々な分野で取り入れられています。ここでは、アロマスプレーやミツロウクリーム作りなどの実習を楽しみながら、実践できるアロマテラピーの基本的知識を身につけ、自らの美容や健康維持のためにそして美容・サービス業界で活用できるようにアプローチします。				
授業の目標	アロマテラピーは、ホリスティックな観点から行う自然療法です。 ①個人のリラクゼーションやリフレッシュに役立てる。②美と健康を増進し、身体や精神の恒常性の維持と促進を図る。③身体や精神の不調を改善し正常な健康を取り戻す。これら3点を目的に、実習を交えながら、基本的知識を身につけ、個人の日常生活、そして美容サービスとして活用できる技術を身に付けることができる。社団法人アロマ環境協会のアロマテラピー検定1・2級試験に合格する能力を習得できる。また、アロマテラピーを生かせる課題を発見し、調査・研究・発表することを通し、研究心を養い、あらゆる課題に自信を持って対応できる、プレゼンテーション能力を開発する。				
時間外学習 (予習・復習)	(1)宿題：1～10章 ワークブックの問題を解き、自分の理解度を知り、復習することにより検定試験に備えます。毎回30分くらいの復習が必要です。(2)各実習で作った作品を使用・実践し、実習記録を作成する。(3)グループによる調査研究発表の課題について、調査・研究・発表資料作成・及び発表の報告書の作成。トータルで8時間以上の時間を要します。				
教科書・教材	教科書	アロマテラピー検定公式テキスト1級・監修亀岡弘他・AEAJ・2015年改訂 教員作成プリントを適宜配布			
	教材	実習教材を適宜配布			
	使用設備・備品	授業内容により、講義室と実習室を使用。パワーポイント・DVD使用			
	参考文献	アロマテラピー検定公式テキスト2級 各種アロマテラピー専門書			
評価方法	1. 授業態度 10% 2. 課題発表 40% 3. 期末試験 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	調査・研究費用が100～500円程度必要です。 検定試験は11月に行われますが、必須ではありません。(別途受験料6,480円、香りキットの費用などが掛ります。)				
本科目履修と 関連する資格	資格名	公益社団法人アロマ環境協会 アロマテラピー検定2級1級試験に合格できる程度の学力を履修します。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション アロマテラピー概論 実習：五感に注目してみる	アロマテラピーの意味や定義を理解し、説明できる。	宿題：ワークブック1（30分程度）
第2回	アロマテラピー利用法の基礎 実習：香りのイメージレッスン	アロマテラピーを利用する際の注意事項を理解し、実践できる。	宿題：ワークブック5（30分程度）
第3回	精油の基礎知識とその作用 実習：バスソルトを作る	精油の定義と精油の作用、精油の抽出方法を知る。	宿 題：ワークブック3 実習記録作成（30分程度）
第4回	アロマテラピーの基材と用具の使用法 実習：アロマ重曹。	アロマテラピーを実践するために必要な基材と用具の知識を理解、的確に使用できる。	宿 題：ワークブック6 実習記録（30分程度）
第5回	アロマテラピーの歴史 実習：ハンガリアンウォーターを作る。	アロマテラピーがどのように発展してきたかを知る。	宿 題：ワークブック8 実習記録（30分程度）
第6回	アロマテラピーのメカニズム 実習：ミツロウクリームを作る。	精油の吸収経路を理解し、より適切な使用方法を選択できるようになる。	宿 題：ワークブック2 実習記録（30分程度）
第7回	精油の作用。 グループ調査研究のテーマを検討	精油の薬理作用を理解する。「美齢学に生かすアロマテラピー」の具体的なテーマを決定し役割分担する。	★発表の為の調査・研究・試作・実験・資料作成等（発表終了までに8時間程度を要する）
第8回	アロマテラピーと地球環境 調査研究についてグループミーティング	植物と人間と地球環境の関係を理解し、私達にできる事を提案し実践する。協力的に研究を進める。	宿題：ワークブック9（30分程度） ★
第9回	アロマテラピーと健康Ⅰ 栄養・運動・休養とアロマテラピー	健康的生活習慣の基礎知識を踏まえ、いかにアロマテラピーを活用するかを考え実践できる。	宿題：ワークブック7-1（30分程度） ★
第10回	アロマテラピーと健康Ⅱ 実習：ハンドトリートメント	クライアントの要望に沿ったハンドトリートメントが提供できる。	実習及び実習記録（45分程度） ★
第11回	アロマテラピーと健康Ⅲ ライフステージとホームケア 実習：トリートメントジェル	ライフステージに合わせたアロマテラピーがアドバイスできる。	実習及び実習記録（45分程度） ★
第12回	アロマテラピーと健康Ⅳ ストレスケア 調査研究発表の資料作成	ストレスケアに役立つルームフレグランスがつくれる。発表テーマに沿った的確な資料を作る。	宿題：ワークブック7-2（30分程度） ★
第13回	調査研究発表	調査研究発表により、アロマの知識だけでなく、表現・プレゼンテーション能力を身につける。	なし
第14回	アロマテラピーの関連法規 研究報告とこれからの課題	関連法規を守り、安全なアロマテラピーを提供できる。学んだ事を振り返り、さらなる探究心を持つ。	宿題：ワークブック4・10（90分程度）
第15回	総括	アロマテラピーのポイントを復習し検定試験1級受験に臨める学力を持つ。	なし

科目名	心理学		教員名	五十嵐 靖博	
Subject	Psychology				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	○
科目の概要	自分や他者を理解し日常生活におけるコミュニケーションや美容に適用するには、人間に共通する心のメカニズムと個々の人の個性を作り上げている心的特性を理解する必要がある。本科目では美容にかかわる様々な現象と日常生活の中で経験される思考や感情や行動を、心理学の諸理論をとおして説明する。美容とコミュニケーションと心の関係を心理学的研究にもとづいて考察する。				
授業の目標	心理学の視点から美容やコミュニケーション、ホスピタリティに関する理解を深め、現場で使えるようになる。人間に共通する心のメカニズムを理解し、その性質を踏まえたうえで実生活で活用できる。心理学の知見を美齢学に適用できる。				
時間外学習 (予習・復習)	予め講義内容を整理する。授業後、分からない点を自分で確認できる				
教科書・教材	教科書	齊藤勇著『イラストレート心理学入門(第2版)』 誠信書房 2010			
	教材	適宜、資料を配布する			
	使用設備・備品	適宜、ビデオなど映像資料を使用する			
	参考文献	『ヒルガードの心理学(第16版)』 ブレーン出版 2015			
評価方法	次の3点を総合的に評価する。平常点 20%、ワーク 20%、レポート 50%、試験 60%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	講義内容は難しくはないが、積極的に受講し理解しようとする姿勢が重要である。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	心の諸概念，行動の意味，心理学の研究法について学ぶ	心理学とは何かを説明できる	予め心とは何かを考えておくこと。授業後に自他の心観を心理学用語を用いて説明する
第2回	五感，視覚の重要性，目とカメラ	知覚の基本的なメカニズムを説明できる	予習として眼の構造図を理解する。復習として視覚が成立する過程を自分で説明する。
第3回	錯視などの知覚現象と外見・美容	知覚と美容の関係を説明できる	予習として知覚のメカニズムを確認する。復習として美容における錯視の例を自分で考える
第4回	パーソナリティの成り立ち	パーソナリティを理解する	予め自分がパーソナリティをどう考えているか，確認する。復習として自分のパーソナリティの成り立ちを考える
第5回	自他のパーソナリティをどのようにして測定するか	パーソナリティ検査について説明できる	予習として今までに受けた心理検査について考える。復習としてパーソナリティ検査の仕組みをふり返る。
第6回	小集団とそのメカニズム	社会的行動の基礎について説明できる	予習として日常生活の中で人間関係が自分に与える影響を考える。復習として集団力学の用語を用いて事例を説明する
第7回	服従と社会的役割	職場集団のメンバーの行動を社会心理学の視点から説明できる	予め社会的役割とは何か自分で考える。復習として自分で事例をあげ説明する
第8回	ストレス，ストレッサー，汎適応症候群	ストレスとは何か，説明できる	予習としてストレスの例を考える。復習としてストレスの影響を身近な事例で説明する
第9回	不安障害，心身症	ストレスと心の障害の関係を説明できる。	予め不安が何をもたらすか，自分の経験を振り返る。復習として自分がなりやすい心身の障害について考える
第10回	うつ病，統合失調症	うつ病や統合失調症について説明できる。	うつ病と統合失調症に関する自分の考えを，予め振り返る。授業後，身近な人が治療を受ける場合，どうすればいいか考える
第11回	エステの心理学	エステが心に及ぼす効果を説明できる。	予めエステと心理学の関係を考える。復習として個々の施術と心への効果の関係を説明する
第12回	魅力の心理学	自他の外見が認知や魅力にどう影響するか，説明できる。	予習として魅力とは何か，考える。授業後，魅力的な人の具体例をあげ心理学的に説明する
第13回	美の社会的構成	美の基準がどのように作られ，心にどう影響するかを説明できる。	予習として自分が美しいと思うものを明確にする。復習としてなぜそう思うのか，具体的に説明する
第14回	心理学を活かす：美齢学へ向けて	心理学と美容の関係を理解し，コミュニケーションに活用する。	予習として美齢学とは何か，調べる。授業後，自分の生活と心理学の関係を具体例をあげて考える
第15回	まとめ	定期試験に向けて，講義内容をふりかえり，確認する	予め講義内容を整理する。授業後，分からない点を自分で確認できる

科目名	現代社会の理解		教員名	山口 博嗣	
Subject	Understanding Modern Society				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	○
科目の概要	「現代社会を理解する」のは何のためか？ それは、現代社会をよりよく、より豊かに、よりしたたかに生き抜くためである。現代社会の特徴は何か？ 第一に、物事が速いスピードで動き、根本的な変化が起こる。第二に、ＡＩ（人口知能）の急速な進歩で、不可能が可能になり、人間の仕事のある部分がＡＩに取って代わられる。第三に、日本では同質社会から多文化共生社会への転換が不可避になる。今、私たちには何が必要だろうか？ まず、「いま～である」ことの知識に加え、「これから～になる」ことの予測能力が必要だ。世界に目を向け歴史に学ぶことも肝要だ。次に、ＡＩを理解し、ＡＩを活用し、ＡＩにはできないことを行う能力が必要だ。さらには、基本的コミュニケーション能力と異文化コミュニケーション能力が必要である。この科目では、現代社会を理解するための知識、および、生き抜くための基本的能力やスキルの獲得を図る。				
授業の目標	(１)「知るって楽しい」「考えるって面白い」と感じられるようになる (２)「もっと知りたい」「自分の頭で考えたい」と思えるようになる (３)「音楽鑑賞」「美術鑑賞」を通して「美」の鑑賞力が深まっている (４)現代社会を理解し社会で生き抜く力の必要性を理解できるようになる (５)自分の意見を述べ、他人の意見も理解し共感できるようになる (６)自文化と他文化との違いに気付き、違いを楽しめようになる (７)現代社会に必要なコミュニケーション能力を発揮できる 多文化共生社会に必要な異文化コミュニケーション能力を発揮できる				
時間外学習 (予習・復習)	前回の授業で学んだこと、自分が興味を持ったことについて簡潔にまとめ、今回の授業で学びたいことや質問等を書いた小レポートを毎回、授業開始前に提出する（前回の授業で学んだことに関連して自分で調べたことを書いてもよい）。自分の頭で考え、自分の言葉で書く能力を伸ばす重要な機会。（毎回６０分以上の時間をかけて実施すること）				
教科書・教材	教科書	特になし			
	教材	特になし			
	使用設備・備品	パソコン・プロジェクター等			
	参考文献	その都度紹介します			
評価方法	・ 授業への貢献度（グループ討議への参加、意見発表、質問等）⇒ ３０％ ・ 時間外学習による小レポート提出 ⇒ ２０％ ・ 最終レポート（「現代社会をどう理解したか。それを踏まえて自分は何をするつもりか」のレポートを第１５回の授業時間に作成）⇒ ２０％ ・ 定期試験 ⇒ ３０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	詳しいレジュメは用意しません。講義を聞きながらメモ・ノートを取って下さい。社会に出ると、取引先、お客様等でレジュメを用意してくれる人などまずいません。相手の話を聞いて、メモを取り、その情報を上司や同僚と共有するためにレポートを書くスキルは必ず必要になります。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要・進め方・ルール・評価法の説明	科目の概要を理解し興味を持ち、授業のルール等を理解する	左記に加え、多文化共生社会で生きるための知識、スキル等も毎回取り上げる
第 2 回	リベラルアーツとコミュニケーション能力 多文化共生社会で必要なこと	リベラルアーツ（教養）とコミュニケーション能力がなぜ必要か理解する	「美」を深く味わう感覚や感性を磨くために「音楽鑑賞」「絵画鑑賞」も毎回行う
第 3 回	マネー（１） マネーの本質とその形態の変遷	世の中にお金がなかったらどうなるかを考え、その本質を理解する	予習・復習は「時間外学習」の欄で述べた通り、毎回小レポートを書き提出すること
第 4 回	マネー（２） お金の増やし方（経済的豊かさの追求）	いろいろなお金の増やし方を調べ、そのリスクとリターンを理解する	上記の通り
第 5 回	グローバル化（１） 経済のグローバル化	経済のグローバル化の背景とその影響について理解する	上記の通り
第 6 回	グローバル化（２） 文化のグローバル化	文化のグローバル化の背景とその影響について理解する	上記の通り
第 7 回	人間の頭脳と A I（１） 人間の頭脳と A I はどちらが優れているか？	人間の頭脳と A I を比較して、それぞれの特徴を理解する	上記の通り
第 8 回	人間の頭脳と A I（２） コンピュータが得意な事人間の脳が得意な事	A I の発達が人間社会にどんな影響を与えるか、どう対処すべきか考える	上記の通り
第 9 回	女性の社会進出（Woman Empowerment）なぜ今、女性が注目されるのか？	女性の社会進出の背景を理解し、お手本にしたい女性を見つけ調べる	上記の通り
第 10 回	科学技術の発展とその影響（１） 科学とは？ 技術とは？	科学と技術を理解し、それが現代社会に何をもたらしたか理解する	上記の通り
第 11 回	科学技術の発展とその影響（２）科学技術発展の長所と短所	科学技術の発展の功罪を理解し、人間がどう対応したらよいか考える	上記の通り
第 12 回	現代社会の仕組み（１） 国境は必要か？ 法律は必要か？ 民主主義は？	既にある秩序が本当に必要なのか、民主主義はベストなのか考える	上記の通り
第 13 回	現代社会の仕組み（２） 企業は誰のためのものか？ よい経営とは？	企業の役割と社会に与える影響につき理解する	上記の通り
第 14 回	精神的なものの居場所 哲学・思想・宗教・芸術は現代社会に必要か？	精神的・感覚的な活動の現状を把握し、それらが現代に必要なか考える	上記の通り
第 15 回	まとめ：何が分ったか？ 何が分らなくなったか？ 現代社会をどう生きるか	現代社会について理解し、自分の頭で考え、自分の生き方に活かす	上記の通り

科目名	海外研修（ヨーロッパ）		教員名	ティミー 西村	
Subject	Overseas Study (EUR)				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	◎	◎
科目の概要	海外のファッションや美容を学び、国際的な美容感覚を養うとともに、現地で外国語を体験する機会を得る。具体的には、ファッション、美容、それらの関連施設、美術館、博物館、等の見学研修や一流アーティストによるヘアデザイン、メイク等を中心としたショーを見学研修する。自由行動の時間では、パリ、ロンドンのさまざまな文化に触れる。				
授業の目標	海外の文化や習慣等に触れることによって、国際的な意識を高める。 また、コミュニケーション力の大切さを知るとともに、ファッションや美容に対する学習意欲を高める。 世界を知ることで目指すべき目標を見つける。 また、世界を知らなければ国内でも1番に成れないことを知る。				
時間外学習 （予習・復習）	特段の時間外学習は必要ないが、説明会の内容を保護者に報告する。 帰国後は体験を報告するなどし、人に伝えることで体験を経験にする。				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	説明会への出席状況と、研修後のレポートも合わせて総合的に評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	有意義な研修とするためには、事前の説明会への参加のみならず、自らが意欲をもって事前に調査研究しておくことが望まれる。原則として集団行動をとるため、参加に当たっては特に自覚的参加とマナーを守ることが求められる。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	説明会① 海外研修の概要	海外研修に行く意義を理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第 2 回	説明会② 海外研修に必要な手続きについて	海外研修に行く為に必要な手続きを理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第 3 回	説明会③ 主な注意事項	イギリス、フランスでやってはいけないこと、注意すべきことを理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。
第 4 回	説明会④ 詳細なスケジュールについて	スケジュールを把握し、詳細な行動計画をたてられるようになる。	資料を確認し、保護者に説明する。
第 5 回	ロンドンでの研修 市内見学 ビューティセミナー	ロンドンにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を知る。	ただの旅行にしないように自分なりにロンドンでの体験をまとめる。
第 6 回			
第 7 回			
第 8 回			
第 9 回			
第 1 0 回	パリでの研修 市内見学 ビューティショー ディナーショー	パリにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を知る。	ただの旅行にしないように自分なりにパリでの体験をまとめる。
第 1 1 回			
第 1 2 回			
第 1 3 回			
第 1 4 回			
第 1 5 回			

科目名	英語総合 A		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishA				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	In this class we will practice using English in real life situations focusing on the subjects of fashion, art and design. このクラスは4パートからなるコースの最初のものである。これを終了すると、学生は服やファッションに関して積極的に話せるようになる。とりわけ、ファッショントレンドに関する意見やアイデア、また衣服が作られている主要な原料などに関し自信を持って発信することが出来るようになる。さらに、美容に関するサービス業界では必須のスキルである、お客様を褒めたりトレンドについて話したりする力もつけることが出来る。				
授業の目標	The aim of this course is to prepare students to use English to express their ideas and thoughts on fashion, art and design.				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書	Fashionable English / Speaking of Speech / Original material			
	教材	Note book, pen or pencil, dictionary (optional)			
	使用設備・備品	As required			
	参考文献	As required			
評価方法	Course work 70%, Final Presentation 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Class Introduction	General explanation of course Group activity on professional and personal motivation for improving English communication skills Discuss the fundamentals of positive communication Motivation Discussion	Understanding of how improving English skills will have a direct effect on career and personal life Students will how positive communication can be achieved and how important it is to the success of beauty professionals
第2回			
第3回	Compliments & Small Talk	Group practice vocabulary and phrases -Pair and group activity -complimenting each other and starting short small talk conversations	Students will be able to give and receive heartfelt and sincere compliments for a variety of situations -Students will be comfortable using various small talk phrases
第4回			
第5回	What Shall I wear?	Clothes and Apparel	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk about clothes and apparel
第6回			
第7回	What color is it? What's it made of? Do they match?	Colors and patterns - Materials - Coordination	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk about colors and patterns, materials and coordination
第8回			
第9回			
第10回	What's hot and what's not?	Styles and Trends	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk about styles and trends in fashion and beauty.
第11回			
第12回	What does he look like? What's your place like?	Describing people - Home decorating D14	Students will learn about various ways to describe people and talk about home decorating.
第13回			
第14回			
第15回	Oppen Week - Review	Review all material from unit 1-7	Students wilkl create spontaneous role plays based on all marterial covered

科目名	英語総合B		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishB				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	In this class we will practice using English in real life situations focusing on the subjects of fashion, art and design. このクラスは4パートからなるコースの最初のものである。これを終了すると、学生は服やファッションに関して積極的に話せるようになる。とりわけ、ファッショントレンドに関する意見やアイデア、また衣服が作られている主要な原料などに関し自信を持って発信することが出来るようになる。さらに、美容に関するサービス業界では必須のスキルである、お客様を褒めたりトレンドについて話したりする力もつけることが出来る。				
授業の目標	The aim of this course is to prepare students to use English to express their ideas and thoughts on fashion, art and design.				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書	Fashionable English / Speaking of Speech / Original material			
	教材	Note book, pen or pencil, dictionary (optional)			
	使用設備・備品	As required			
	参考文献	As required			
評価方法	Course work 70%, Final Presentation 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	General Introduction	Group activity on prof., /pers., motivation for English communication skills	Students will learn how positive communication can be achieved and how important it is to the success of beauty professionals
第 2 回	How do you make it?	Sewing and cooking	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk about sewing and preparing meals
第 3 回			
第 4 回	How often do you get your hair cut?	Daily Routines	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk about their daily routines
第 5 回			
第 6 回	May I use your phone?	Homestay Asking for things	Students will have a basic understanding as to how to ask for things and ask for assistance
第 7 回			
第 8 回	How does it fit?	Retail Sales	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk making sales and dealing with customers
第 9 回			
第 1 0 回	Do you have any work experience?	Employment	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk about employment and their skills
第 1 1 回			
第 1 2 回	Break a Leg!	Fashion Shows and theater	Students will have a basic understanding as to how to describe and talk about working back stage during a fashion show and the theater
第 1 3 回			
第 1 4 回	Final Evaluation	Students will create a five minute role play based on material covered in units 1-20	Students will demonstrate the use of effective, positive communication techniques
第 1 5 回			

科目名	英語総合 C		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishC				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	In this class we will practice using English in real life situations focusing on the subjects of fashion, art and design. このクラスは4パートからなるコースの最初のものである。これを終了すると、学生は服やファッションに関して積極的に話せるようになる。とりわけ、ファッショントレンドに関する意見やアイデア、また衣服が作られている主要な原料などに関し自信を持って発信することが出来るようになる。さらに、美容に関するサービス業界では必須のスキルである、お客様を褒めたりトレンドについて話したりする力もつけることが出来る。				
授業の目標	The aim of this course is to prepare students to use English to express their ideas and thoughts on fashion, art and design.				
時間外学習 (予習・復習)	As required				
教科書・教材	教科書	Fashionable English / Speaking of Speech / Original material			
	教材	Note book, pen or pencil, dictionary (optional)			
	使用設備・備品	As required			
	参考文献	As required			
評価方法	Course work 70%, Final Presentation 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	Text p. 5-8	Three Messages	Students appreciate the value of the physical message
第 2 回	Text p. 9-14	Recognize the 8 posture/eye contact problems	understnd proper eye contact and posture
第 3 回	Informative Speech	Prepare an informatative Speech	Perform a speech on hometown or favorite city
第 4 回	Informative Speech	Prepare an informatative Speech	Perform a speech on hometown or favorite city
第 5 回	Text p.18-27	Group and pair practice using various gestures	Be aware of the 4 groups of gestures
第 6 回	Text p.25-27	Prepare a layout speech -store, park or school	-Know the speech type, speech skill,preparation
第 7 回	Layout Speech	Prepare a Layout Speech	Perform a Layout speech
第 8 回	Text p.28-35	Stressing, stretching, and pausing	Know the speech type, speech skill,preparation
第 9 回	Text p.28-35	Prepare a Demonstration Speech	Know the speech type, speech skill,preparation
第 1 0 回	Demonstration Speech	Prepare a Demonstration Speech	Perform a Demonstration speech
第 1 1 回	Demonstration Speech	Prepare a Demonstration Speech	Perform a Demonstration speech
第 1 2 回	Favorite brand of Makeup Speech	Speech preparation	Speech preparation
第 1 3 回	Favorite brand of Makeup Speech	Speech preparation	Speech preparation
第 1 4 回	Favorite brand of Makeup Speech	Perform Speech	
第 1 5 回	Favorite brand of Makeup Speech	Perform Speech	

科目名	英語総合D		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishD				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	This course aims to help students discuss college related matters in English. with staff and other students. Example matters include test dates, lesson changes, bus times, and homework. For college students learning English in a non-English speaking country, college related matters offer real and meaningful English communication opportunities.				
授業の目標	By the end of the course, students will be able to (1) discuss a selection of college related matters in English with instructors and other students, and (2) apply the language in non-college contexts.				
時間外学習 (予習・復習)	Students will be provided with example questions, responses, and relevant expressions to learn before each lesson. Students will also be provided with a series of review exercises to complete after each lesson.				
教科書・教材	教科書	None			
	教材	Students will be provided with a set of printed note and exercises.			
	使用設備・備品	Classroom with audio visual and Internet access.			
	参考文献	None			
評価方法	Attitude and participation: 30%, Classwork 20%: Midterm test: 25%, Final test: 25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	none				
本科目履修と 関連する資格	資格名	none			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Unit 0: My school	Students will be able to describe the school they attend.	
第2回	Unit 1: Attendance	Students will be able to discuss lesson attendance	
第3回	Unit 2: Lesson Schedules	Students will be able to explain when and what lessons they have during the week.	
第4回	Unit 3: Homework	Students will be able to discuss what they have to do for homework.	
第5回	Unit 4: Appointments	Students will be able to make an appointment to talk with a teacher about homework and other school matters.	
第6回	Unit 5: Tests	Students will be able to talk about tests	
第7回	Review Units 1, 2, 3, 4, 5	Students will prepare for the Mid Term Test	
第8回	summary	summary	
第9回	Unit 6: The School Bus	Students will be able to discuss the school bus time table in order to decide when to catch the bus.	
第10回	Unit 7: Minor Illnesses	Students will be able to discuss a minor illnesses such as headaches.	
第11回	Unit 8: Schedule Changes	Students will be able to discuss schedule changes such as cancelled lessons.	
第12回	Unit 9: The Hair Show	To be able to talk about the Hair Show, a student event.	
第13回	Unit 10: Worksheets	To be able to talk worksheets handed out in class.	
第14回	Review Units 6, 7, 8, 9, 10	Students will prepare for the final test	
第15回	Final summary	summary	

科目名	英語総合 E		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishE				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	事前に長文読解能力のレベルチェックを行い、クラス分けを行う。それぞれに合ったテキストを用い、長文読解能力を段階的に育成する。				
授業の目標	長文読解に必要な文法、単語・熟語・表現が理解できるようになる。海外の文献を学習することで見分を広め、知性を磨き、内面的な美の追求につなげていく。また、各種試験にて実践的な力を発揮できるようになる。「TOEIC」テストにおいて、500 点以上の取得を目指す。				
時間外学習 (予習・復習)	＜予習＞各ユニットのボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。次回の授業で行うユニットを音読し、内容を把握しておく。＜復習＞授業で行ったユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。要約したものを、次回発表できるようにしておく。				
教科書・教材	教科書	『Easy True Stories Level 2』 Sandra Heyer, Pearson Japan, 2017			
	教材	配布プリント（適宜）			
	使用設備・備品	視聴覚教材（適宜）			
	参考文献	なし			
評価方法	積極的授業参加 50% 中間まとめ 20%、復習・まとめ 30%。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	教科書、辞書（電子辞書も可）、筆記用具を毎回必ず持参すること。授業中に私語や携帯電話の使用を一切行わないこと。また、授業開始から 1 分でも遅れた場合は「遅刻」扱いとなるので要注意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEFL、英検など。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業概要、「Easy True Stories」 Unit 1 "The Big TVs"	"neighbor""driveway"など、家に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第2回	Unit 2 "The Man in the Blue Car"	"mirror""turn"など、交通に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第3回	Unit 3 "Larry's Favorite Shirt"	"thift sotes""size"など、衣服に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第4回	Unit 4 "A Problem with Monkeys"	"forest""feed"など、動物に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第5回	Unit 5 "Looking for Love"	"wife""children""love"など、家族に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第6回	Unit 6 "A Tricky Situation"	"tricky"scary-looking"など、ハロウィンに関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第7回	Unit 7 "Two Happy Man"	"lottery""win"など宝くじに関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第8回	中間まとめ	前半の UNIT の復習をし、理解を深めることができる。本文の要約とその和訳ができるようになる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第9回	Unit 8 "Alone for 43 Years"	"prison""tool"など、逃亡の物語に出てくる語彙を習得することができる。	
第10回	Unit 9 "The Kind Waitress"	"waitress""pour"など、レストランに関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第11回	Unit 10 "The Gift"	"custom""gift"など、異文化での結婚式に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第12回	Unit 11 "The Power of Love"	"ambulance""coma"など、救急に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第13回	Unit 12 "No More Housework!"	"mess""dirty"など、家の掃除に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第14回	Unit 13 "An Accidental Success"	"crisp""slice"など、調理に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第15回	まとめ	後半の UNIT の復習をし、本文の要約をプレゼンテーションすることができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。

科目名	英語総合 F		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishF				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	事前に長文読解能力のレベルチェックを行い、クラス分けを行う。れぞれに合ったテキストを用い、長文読解能力を段階的に育成する。				
授業の目標	長文読解に必要な文法、単語・熟語・表現が理解できるようになる。海外の文献を学習することで見分を広め、知性を磨き、内面的な美の追求につなげていく。また、各種試験にて実践的な力を発揮できるようになる。「TOEIC」テストにおいて、600 点以上の取得を目指す。				
時間外学習 (予習・復習)	＜予習＞各ユニットのボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。次回の授業で行うユニットを音読し、内容を把握しておく。＜復習＞授業で行ったユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。要約したものを、次回発表できるようにしておく。				
教科書・教材	教科書	『Easy True Stories Level 2』Sandra Heyer, Pearson Japan, 2017 他			
	教材	プリント配布（適宜）			
	使用設備・備品	視聴覚教材（適宜）			
	参考文献	なし			
評価方法	積極的授業参加 50%、中間まとめ 20%、復習 ・まとめ 30%。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	教科書、辞書（電子辞書も可）、筆記用具を毎回必ず持参すること。授業中に私語や携帯電話の使用を一切行わないこと。授業開始から 1 分でも遅れた場合は「遅刻」扱いとなるので要注意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEFL、英検など。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業概要「Easy True Stories」Unit14 “Anna’s Choice”	“divorce”“marry”など、婚姻に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第2回	Unit15 “The Escape from Cuba	“Temperature”“mechanics” など、飛行機に関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第3回	Unit6 “The Twins and the Truth”	“twin”“identical”など、双子に関する語彙を習得できる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第4回	Unit17 “Family for Rent”	“son-in-law”“grandson”など、義理関係の語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第5回	Unit 18 “Quality Control”	“spring”“quality”など、工場関係の語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第6回	The19 “The Cheap Apartment”	“tear”“skyscraper”など、アパートメントに関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第7回	Unit20 “Something in Return”	“turns around”“in return”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第8回	中間まとめ	前半の UNIT の復習をし、理解を深めることができる。本文の要約とその和訳ができるようになる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第9回	「TS In the News」 Unit 1 “Dish Soap for Dinner”	“good on”“felt sick”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第10回	Unit 2 “A New Man”	“vegetable”“nonfatmilk” など、食品に関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第11回	Unit 3 “The Runner”	“do you mind ~”“twice a week”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第12回	Unit 4 “The Love Letters”	“love at first sight”など、男女交際に関する慣用句、語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第13回	Unit 5 “Bad luck, Good luck”	“break into”“answer the door”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第14回	Unit 6 “Lost and Found”	“adopt”“triplet”などの兄弟に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第15回	まとめ	後半の UNIT の復習をし、本文の要約をプレゼンテーションすることができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。

科目名 Subject	英語総合 G General EnglishG		教員名	英語チーム	
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary: Students practice, demonstrate and analyze the multidisciplinary aspects of the entire theatrical experience (in English) through games, exercises and performance projects.				
授業の目標	Aim – The goal of the class is to help students improve their English communication skills and to give students an overview of theatre arts with an emphasis in performance. In addition, students will practice physical and vocal techniques to improve their performance abilities.				
時間外学習 (予習・復習)	The student is expected to come to class prepared with: a writing utensil, a notebook(or writing paper), and adequately practiced and rehearsed the required theatrical material.				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	The students are evaluated based on attendance (which will be taken daily), classroom participation, and by the quality of their performances. There will be 3 performances in class each student will be graded on their performance individually and as a team member.				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	Basic English communication skills			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	Intoructions / Pair work	To break the ice with students, introduce each other, make everyone comfortable with each other.	
第 2 回	Monologue preparations	Get each student prepared to speak publicly individually.	
第 3 回	Monologue presentations	Each student will present thier monolauge and accept silent criticism to know how to improve.	
第 4 回	Small group (introduction) Short story	Each student will select and prepare a short story presentation.	
第 5 回	Small group (introduction) Short story presentation	Each student will perform and accept silent criticism to know how to improve.	
第 6 回	Improisational theatre	Class will perform improv	
第 7 回	Improisational theatre	Class will perform improv	
第 8 回	Pair work write your own ending preparation	Entire class writes ending for the same skit	
第 9 回	Present pair work	Entire class Performs the skit	
第 1 0 回	Small group long story preparation	Each student will select and prepare a long story presentation.	
第 1 1 回	Small group long story presentation	Each student will perform and accept silent criticism to know how to improve.	
第 1 2 回	Start final project (perform Japanese fairy tale in English)	Each student will select and prepare a fairy tale presentation.	
第 1 3 回	Full class performance prep	fairy tale preparation	
第 1 4 回	Full class performance prep	fairy tale preparation	
第 1 5 回	Final Presentations	Perform Final Presentations	

科目名	英語総合 H		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishH				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	Summary: Students practice, demonstrate and analyze the multidisciplinary aspects of the entire theatrical experience (in English) through games, exercises and performance projects.				
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and to give students an overview of theatre arts with an emphasis in performance. In addition, students will practice physical and vocal techniques to improve their performance abilities.				
時間外学習 (予習・復習)	The student is expected to come to class prepared with: a writing utensil, a notebook(or writing paper), and adequately practiced and rehearsed the required theatrical material.				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	The students are evaluated based on attendance (which will be taken daily), classroom participation, and by the quality of thier performances. There will be 3 performances in class each student will be graded on thier performance individually and as a team member.				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	Basic English communication skills			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Intoructions / Pair work	To break the ice with students, introduce each other, make everyone comfortable with each other.	
第2回	Monologue preparations	Get each student prepared to speak publicly individually.	
第3回	Monologue presentations	Each student will present thier monolauge and accept silent criticism to know how to improve.	
第4回	Small group (introduction) Short story	Each student will select and prepare a short story presentation.	
第5回	Small group (introduction) Short story presentation	Each student will perform and accept silent criticism to know how to improve.	
第6回	Improisational theatre	Class will perform improv	
第7回	Improisational theatre	Class will perform improv	
第8回	Pair work write your own ending preparation	Entire class writes ending for the same skit	
第9回	Present pair work	Entire class Performs the skit	
第10回	Small group long story preparation	Each student will select and prepare a long story presentation.	
第11回	Small group long story presentation	Each student will perform and accept silent criticism to know how to improve.	
第12回	Start final project (perform Japanese fairy tale in English)	Each student will select and prepare a fairy tale presentation.	
第13回	Full class performance prep	fairy tale preparation	
第14回	Full class performance prep	fairy tale preparation	
第15回	Final Presentations	Perform Final Presentations	

科目名	英語総合 I		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishI				
開講年次	1 又 2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	事前に長文読解能力のレベルチェックを行い、クラス分けを行う。れぞれに合ったテキストを用い、長文読解能力を段階的に育成する。				
授業の目標	長文読解に必要な文法、単語・熟語・表現が理解できるようになる。海外の文献を学習することで見分を広め、知性を磨き、内面的な美の追求につなげていく。また、各種試験にて実践的な力を発揮できるようになる。「TOEIC」テストにおいて、600 点以上の取得を目指す。				
時間外学習 (予習・復習)	＜予習＞各ユニットのボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。次回の授業で行うユニットを音読し、内容を把握しておく。＜復習＞授業で行ったユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。要約したものを、次回発表できるようにしておく。				
教科書・教材	教科書	『Easy True Stories Level 2』Sandra Heyer, Pearson Japan, 2017			
	教材	配布プリント（適宜）			
	使用設備・備品	視聴覚教材（適宜）			
	参考文献	なし			
評価方法	積極的授業参加 50% 中間まとめ 20%、復習・まとめ 30%。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	教科書、辞書（電子辞書も可）、筆記用具を毎回必ず持参すること。授業中に私語や携帯電話の使用を一切行わないこと。また、授業開始から 1 分でも遅れた場合は「遅刻」扱いとなるので要注意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEFL、英検など。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業概要、「Easy True Stories」 Unit 1 "The Big TVs"	"neighbor""driveway"など、家に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第2回	Unit 2 "The Man in the Blue Car"	"mirror""turn"など、交通に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第3回	Unit 3 "Larry's Favorite Shirt"	"thrift store""size"など、衣服に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第4回	Unit 4 "A Problem with Monkeys"	"forest""feed"など、動物に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第5回	Unit 5 "Looking for Love"	"wife""children""love"など、家族に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第6回	Unit 6 "A Tricky Situation"	"tricky""scary-looking"など、ハロウィンに関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第7回	Unit 7 "Two Happy Men"	"lottery""win"など宝くじに関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第8回	中間まとめ	前半の UNIT の復習をし、理解を深めることができる。本文の要約とその和訳ができるようになる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第9回	Unit 8 "Alone for 43 Years"	"prison""tool"など、逃亡の物語に出てくる語彙を習得することができる。	
第10回	Unit 9 "The Kind Waitress"	"waitress""pour"など、レストランに関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第11回	Unit 10 "The Gift"	"custom""gift"など、異文化での結婚式に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第12回	Unit 11 "The Power of Love"	"ambulance""coma"など、救急に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第13回	Unit 12 "No More Housework!"	"mess""dirty"など、家の掃除に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第14回	Unit 13 "An Accidental Success"	"crisp""slice"など、調理に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。
第15回	まとめ	後半の UNIT の復習をし、本文の要約をプレゼンテーションすることができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100語程度で内容を要約できるようにする。

科目名	英語総合 J		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishJ				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	事前に長文読解能力のレベルチェックを行い、クラス分けを行う。れぞれに合ったテキストを用い、長文読解能力を段階的に育成する。				
授業の目標	長文読解に必要な文法、単語・熟語・表現が理解できるようになる。海外の文献を学習することで見分を広め、知性を磨き、内面的な美の追求につなげていく。また、各種試験にて実践的な力を発揮できるようになる。「TOEIC」テストにおいて、600 点以上の取得を目指す。				
時間外学習 (予習・復習)	＜予習＞各ユニットのボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。次回の授業で行うユニットを音読し、内容を把握しておく。＜復習＞授業で行ったユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。要約したものを、次回発表できるようにしておく。				
教科書・教材	教科書	『Easy True Stories Level 2』Sandra Heyer, Pearson Japan, 2017 他			
	教材	プリント配布（適宜）			
	使用設備・備品	視聴覚教材（適宜）			
	参考文献	なし			
評価方法	積極的授業参加 50%、中間まとめ 20%、復習 ・まとめ 30%。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	教科書、辞書（電子辞書も可）、筆記用具を毎回必ず持参すること。授業中に私語や携帯電話の使用を一切行わないこと。授業開始から 1 分でも遅れた場合は「遅刻」扱いとなるので要注意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEFL、英検など。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	授業概要「Easy True Stories」Unit14 “Anna’s Choice”	“divorce”“marry”など、婚姻に関する語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第 2 回	Unit15 “The Escape from Cuba	“Temperature”“mechanics” など、飛行機に関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第 3 回	Unit6 “The Twins and the Truth”	“twin”“identical”など、双子に関する語彙を習得できる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第 4 回	Unit17 “Family for Rent”	“son-in-law”“grandson”など、義理関係の語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第 5 回	Unit 18 “Quality Control”	“spring”“quality”など、工場関係の語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第 6 回	The19 “The Cheap Apartment”	“tear”“skyscraper”など、アパートメントに関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第 7 回	Unit20 “Something in Return”	“turns around”“in return”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第 8 回	中間まとめ	前半の UNIT の復習をし、理解を深めることができる。本文の要約とその和訳ができるようになる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第 9 回	「TS In the News」 Unit 1 “Dish Soap for Dinner”	“good on”“felt sick”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第 10 回	Unit 2 “A New Man”	“vegetable”“nonfatmilk” など、食品に関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第 11 回	Unit 3 “The Runner”	“do you mind ~”“twice a week”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第 12 回	Unit 4 “The Love Letters”	“love at first sight”など、男女交際に関する慣用句、語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第 13 回	Unit 5 “Bad luck, Good luck”	“break into”“answer the door”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第 14 回	Unit 6 “Lost and Found”	“adopt”“triplet”などの兄弟に関する語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第 15 回	まとめ	後半の UNIT の復習をし、本文の要約をプレゼンテーションすることができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。

科目名 Subject	英語総合K General EnglishK		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業の最大の主眼は、中学や高校で学習した文法事項を「書ける」ようにすることである。とは言え、基本的文法事項に不安を覚えている学生もいると思うので、まずは各文法単元の復習をし、その後それらを短文レベルでライティングしていくといった２段階の授業とする。				
授業の目標	個々の実力に応じて差はあるが、終了時まで、易しい英文手紙が書ける～メールを英語で書けることを目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業に対し約３０分の予習が必要である。予習のやり方は知らない単語を調べてくる、内容を一読してくるなどであるが、詳しいやり方は初回の授業で説明する。予習より重要なものが復習である。必ず次週までに前回の復習を完璧にしてくる。授業でやっていないことをやる必要はないので、きちんと授業内容をノートに取って、必要事項を覚えてくること。原則毎回復習に関するミニテストを授業開始後実施する。				
教科書・教材	教科書				
	教材	レベルに応じて指定する			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	日頃のミニテスト、参加意欲、宿題など２０％、中間テスト３０パーセント、期末テスト５０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	必ず次回該当箇所の予習をしてから授業に臨むこと。また次の回までに必ず復習をきちんとこなしてくる。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	TOEIC、TOEIC ブリッジ、英検など			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	英文の主要構成要素解説、予習復習のやり方など全体的なガイダンス	学生は英文の構成要素が分かり、予習復習のやり方が理解できる	
第 2 回	文型（特に第 1 から第 4）	学生は文型の 1 ～ 4 への理解が深まる	
第 3 回	文型 5	学生は最重要である 5 文型への理解が深まる	
第 4 回	時制	学生はややこしい時制の関連性がすっきりわかる	
第 5 回	助動詞	学生は種類の多い助動詞を網羅理解できる	
第 6 回	比較	学生は比較級に対する理解が深まる	
第 7 回	不定詞動名詞 1	学生は得手不得手が分かれる不定詞等を理解でき、動名詞との違いを理解できる	
第 8 回	不定詞動名詞その 2	学生は上記の不定詞関連の知識を使い、多様な短文を書くことができる	
第 9 回	中間テスト	学生は単に穴埋め問題でなく、短文英作文が書けるようになっている	
第 1 0 回	分詞、分詞構文	学生はとっつきにくい分詞への理解が深まる	
第 1 1 回	名詞、前置詞、接続詞	学生は特に可算不可算名詞を覚え、間違いやすい前置詞接続詞をまとめて理解できる	
第 1 2 回	関係詞 1	学生は関係代名詞と関係副詞の違いを理解できる	
第 1 3 回	関係詞 2	学生は上記の理解を元に短文が書けるようになる	
第 1 4 回	仮定法	学生は仮定法が理解できる	
第 1 5 回	期末テスト	中間テストと同じく、作文問題を中心とし、簡単な英文手紙やメールが自在に書けるようになる	

科目名	英語総合L		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishL				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業の最大の主眼は、中学や高校で学習した文法事項を「書ける」ようにすることである。とは言え、基本的文法事項に不安を覚えている学生もいると思うので、まずは各文法単元の復習をし、その後それらを短文レベルでライティングしていくといった２段構えの授業とする。				
授業の目標	個々の実力に応じて差はあるが、終了時までには、易しい英文手紙が書ける～メールを英語で書けることを目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業に対し約３０分の予習が必要である。予習のやり方は知らない単語を調べてくる、内容を一読してくるなどであるが、詳しいやり方は初回の授業で説明する。予習より重要なものが復習である。必ず次週までに前回の復習を完璧にしてくる。授業でやっていないことをやる必要はないので、きちんと授業内容をノートに取って、必要事項を覚えてくること。原則毎回復習に関するミニテストを授業開始後実施する。				
教科書・教材	教科書				
	教材	レベルに応じて指定する			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	日頃のミニテスト、参加意欲、宿題など２０％、中間テスト３０パーセント、期末テスト５０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	必ず次回該当箇所の予習をしてから授業に臨むこと。また次の回までに必ず復習をきちんとこなしてくる。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEIC ブリッジ、英検など			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	英文の主要構成要素解説、予習復習のやり方など全体的なガイダンス	学生は英文の構成要素が分かり、予習復習のやり方が理解できる	
第 2 回	文型（特に第 1 から第 4）	学生は文型の 1 ～ 4 への理解が深まる	
第 3 回	文型 5	学生は最重要である 5 文型への理解が深まる	
第 4 回	時制	学生はややこしい時制の関連性がすっきりわかる	
第 5 回	助動詞	学生は種類の多い助動詞を網羅理解できる	
第 6 回	比較	学生は比較級に対する理解が深まる	
第 7 回	不定詞動名詞 1	学生は得手不得手が分かれる不定詞等を理解でき、動名詞との違いを理解できる	
第 8 回	不定詞動名詞その 2	学生は上記の不定詞関連の知識を使い、多様な短文を書くことができる	
第 9 回	中間テスト	学生は単に穴埋め問題でなく、短文英作文が書けるようになっている	
第 1 0 回	分詞、分詞構文	学生はとっつきにくい分詞への理解が深まる	
第 1 1 回	名詞、前置詞、接続詞	学生は特に可算不可算名詞を覚え、間違いやすい前置詞接続詞をまとめて理解できる	
第 1 2 回	関係詞 1	学生は関係代名詞と関係副詞の違いを理解できる	
第 1 3 回	関係詞 2	学生は上記の理解を元に短文が書けるようになる	
第 1 4 回	仮定法	学生は仮定法が理解できる	
第 1 5 回	期末テスト	中間テストと同じく、作文問題を中心とし、簡単な英文手紙やメールが自在に書けるようになる	

科目名	英語総合Ⅰ		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishⅠ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	事前に長文読解能力のレベルチェックを行い、クラス分けを行う。それぞれに合ったテキストを用い、長文読解能力を段階的に育成する。				
授業の目標	長文読解に必要な文法、単語・熟語・表現が理解できるようになる。海外の文献を学習することで見分を広め、知性を磨き、内面的な美の追求につなげていく。また、各種試験にて実践的な力を発揮できるようになる。「TOEIC」テストにおいて 650 点以上の取得を目指す。				
時間外学習 (予習・復習)	＜予習＞各ユニットのボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。次回の授業で行うユニットを音読し、内容を把握しておく。＜復習＞授業で行ったユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。要約したものを、次回発表できるようにしておく。				
教科書・教材	教科書	『True Stories In The News』 Sandra Heyer, Pearson Japan, 2017			
	教材	プリント配布（適宜）			
	使用設備・備品	視聴覚教材（適宜）			
	参考文献	なし			
評価方法	積極的授業参加 50%、中間まとめ 20%、復習・まとめ 30%。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	教科書、辞書（電子辞書も可）、筆記用具を毎回必ず持参すること。授業中に私語や携帯電話の使用を一切行わないこと。授業開始から 1 分でも遅れた場合は「遅刻」扱いとなるので要注意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEFL、英検など。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業概要、「TS In the News」Unit 7 “A Little Traveler”	“crawl”“patrol”“bush”など、警備に関する語彙を習得できる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第2回	Unit 8 “Man’s Best Friend”	“bury”“cemetery”“grave”など、墓地に関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第3回	Unit 9 “The Coin”	“bake”“missing”“x-ray”などの語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第4回	Unit 10 “Love or Baseball?”	“bandage”“wheelchair”など、医療用具に関する語彙を習得できる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第5回	Unit 11 “Buried Alive”	“coffin”“terrible”“scream”“lie”などの語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第6回	Unit 12 “The Winning Ticket”	“winning”“loseing”“honest”などの語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第7回	Unit 13 “Thank you”	“take a closer look”“rub with”などの慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第8回	中間まとめ	前半の UNIT の復習をし、理解を深めることができる。本文の要約とその和訳ができるようになる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第9回	Unit 14 “Together Again”	“air force”“freedom”などの語彙を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第10回	Unit 15 “Saved by the Bell”	“snowstorm”“dangerous”などの語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第11回	Unit 16 “This Is the Place for Me”	“turn off”“not～or”の慣用句を習得することができる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第12回	Unit 17 “Nicole’s Party”	“nervous”“whisper”などの語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第13回	Unit 18 “A Strong Little Boy”	“paramedic”“oxygen”など、救急に関する語彙を習得できる。	＜予習＞ボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。
第14回	Unit 19 “The Champion”	“grenade”“gunshot”“national”などの語彙を習得することができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。
第15回	まとめ	後半の UNIT の復習をし、本文の要約をプレゼンテーションすることができる。	＜復習＞ユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。

科目名	英語総合 P		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishP				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	事前に長文読解能力のレベルチェックを行い、クラス分けを行う。それぞれに合ったテキストを用い、長文読解能力を段階的に育成する。				
授業の目標	長文読解に必要な文法、単語・熟語・表現が理解できるようになる。海外の文献を学習することで見分を広め、知性を磨き、内面的な美の追求につなげていく。また、各種試験にて実践的な力を発揮できるようになる。「TOEIC」テストにおいて、700 点以上の取得を目指す。				
時間外学習 (予習・復習)	＜予習＞各ユニットのボキャブラリーを調べ、意味の分からない単語がないようにしておく。また、慣用句についても理解しておく。次回の授業で行うユニットを音読し、内容を把握しておく。＜復習＞授業で行ったユニットの内容の確認をする。直訳でなく、意識することに努め、100 語程度で内容を要約できるようにする。要約したものを、次回発表できるようにしておく。				
教科書・教材	教科書	『Get Ready To Read』 Karen Blanchard 他 Lonman, 2005			
	教材	プリント配布（適宜）			
	使用設備・備品	視聴覚教材（適宜）			
	参考文献	なし			
評価方法	積極的授業参加 50%、中間まとめ 20%、復習 ・ まとめ 30%。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	教科書、辞書（電子辞書も可）、筆記用具を毎回必ず持参すること。授業中に私語や携帯電話の使用を一切行わないこと。授業開始から 1 分でも遅れた場合は「遅刻」扱いとなるので要注意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEFL、英検など。			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	授業概要、Chapter 1 “What’s It All About?” (1) 語彙を学ぶ	Chapter 1 の語彙・成句・熟語が理解できる。	<復習> 授業で学んだ語彙を覚える。<予習> 長文の内容を把握しておく。
第 2 回	Chapter 1 “What’s It All About?” (2) 長文読解を学ぶ	Chapter 1 の Main Reading の内容を理解し、論題を把握することができる。	<復習> 長文の内容を把握する。予習> 語彙の意味を把握しておく。
第 3 回	Chapter 2 “Look It Over” (1) 語彙を学ぶ	Chapter 2 の語彙・成句・熟語が理解できる。	<復習> 授業で学んだ語彙を覚える。<予習> 長文の内容を把握しておく。
第 4 回	Chapter 2 “Look It Over” (2) 長文読解を学ぶ	Chapter 2 の Main Reading の内容を理解し、論旨を予測することができる。	<復習> 長文の内容を把握する。予習> 語彙の意味を把握しておく。
第 5 回	Chapter 3 “Read for Meaning” (1) 語彙を学ぶ	Chapter 3 の語彙・成句・熟語が理解できる。	<復習> 授業で学んだ語彙を覚える。<予習> 長文の内容を把握しておく。
第 6 回	Chapter 3 “Read for Meaning” (2) 長文読解を学ぶ	Chapter 3 の Main Reading の内容を理解し、論旨と内容の詳細を把握することができる。	<復習> 長文の内容を把握する。予習> 語彙の意味を把握しておく。
第 7 回	Chapter 4 “Find the Order” (1) 語彙を学ぶ	Chapter 4 の語彙・成句・熟語が理解できる。	<復習> 授業で学んだ語彙を覚える。<予習> 長文の内容を把握しておく。
第 8 回	中間まとめ	前半の chapter の復習をし、理解を深めることができる。Main Reading の意識ができるようになる。	<復習> 前半の Chapter の内容を把握する。<予習> 次回の長文の内容を把握しておく。
第 9 回	Chapter 4 “Find the Order” (2) 長文読解を学ぶ	Chapter 4 の Main Reading の内容を理解し、時系列的に内容を把握することができる。	<復習> 長文の内容を把握する。予習> 語彙の意味を把握しておく。
第 10 回	Chapter 5 “Read Quickly” (1) 語彙を学ぶ	Chapter 5 の語彙・成句・熟語が理解できる	<復習> 授業で学んだ語彙を覚える。<予習> 長文の内容を把握しておく。
第 11 回	Chapter 5 “Read Quickly” (2) 長文読解を学ぶ	Chapter 5 の Main Reading の内容を理解し、情報を短時間で把握することができる。	<復習> 長文の内容を把握する。予習> 語彙の意味を把握しておく。
第 12 回	Chapter 6 “Evaluate Information” (1) 語彙を学ぶ	Chapter 6 の語彙・成句・熟語が理解できる	<復習> 授業で学んだ語彙を覚える。<予習> 長文の内容を把握しておく。
第 13 回	Chapter 6 “Evaluate Information” (2) 長文読解を学ぶ	Chapter 6 の Main Reading の内容を理解し、事実と意見の相違を把握することができる。	<復習> 長文の内容を把握する。予習> 語彙の意味を把握しておく。
第 14 回	Chapter 7 “Use the Clues” (1) 語彙を学ぶ	Chapter 7 の語彙・成句・熟語が理解できる	<復習> 授業で学んだ語彙を覚える。<予習> 長文の内容を把握しておく。
第 15 回	まとめ	後半の chapter の復習をし、理解を深めることができる。Main Reading の意識ができるようになる。	<復習> 後半の Chapter の内容を把握する。Main Reading の意識を把握する。

科目名	英語総合 Q		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishQ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業の最大の主眼は、中学や高校で学習した文法事項を「書ける」ようにすることである。とは言え、基本的文法事項に不安を覚えている学生もいると思うので、まずは各文法単元の復習をし、その後それらを短文レベルでライティングしていくといった２段構えの授業とする。				
授業の目標	個々の実力に応じて差はあるが、終了時まで、易しい英文手紙が書ける～メールを英語で書けることを目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業に対し約３０分の予習が必要である。予習のやり方は知らない単語を調べてくる、内容を一読してくるなどであるが、詳しいやり方は初回の授業で説明する。予習より重要なものが復習である。必ず次週までに前回の復習を完璧にしてくる。授業でやっていないことをやる必要はないので、きちんと授業内容をノートに取って、必要事項を覚えてくること。原則毎回復習に関するミニテストを授業開始後実施する。				
教科書・教材	教科書				
	教材	レベルに応じて指定する			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	日頃のミニテスト、参加意欲、宿題など２０％、中間テスト３０パーセント、期末テスト５０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	必ず次回該当箇所の予習をしてから授業に臨むこと。また次の回までに必ず復習をきちんとこなしてくる。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	TOEIC、TOEIC ブリッジ、英検など			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	英文の主要構成要素解説、予習復習のやり方など全体的なガイダンス	学生は英文の構成要素が分かり、予習復習のやり方が理解できる	
第 2 回	文型（特に第 1 から第 4）	学生は文型の 1 ～ 4 への理解が深まる	
第 3 回	文型 5	学生は最重要である 5 文型への理解が深まる	
第 4 回	時制	学生はややこしい時制の関連性がすっきりわかる	
第 5 回	助動詞	学生は種類の多い助動詞を網羅理解できる	
第 6 回	比較	学生は比較級に対する理解が深まる	
第 7 回	不定詞動名詞 1	学生は得手不得手が分かれる不定詞等を理解でき、動名詞との違いを理解できる	
第 8 回	不定詞動名詞その 2	学生は上記の不定詞関連の知識を使い、多様な短文を書くことができる	
第 9 回	中間テスト	学生は単に穴埋め問題でなく、短文英作文が書けるようになっている	
第 1 0 回	分詞、分詞構文	学生はとっつきにくい分詞への理解が深まる	
第 1 1 回	名詞、前置詞、接続詞	学生は特に可算不可算名詞を覚え、間違いやすい前置詞接続詞をまとめて理解できる	
第 1 2 回	関係詞 1	学生は関係代名詞と関係副詞の違いを理解できる	
第 1 3 回	関係詞 2	学生は上記の理解を元に短文が書けるようになる	
第 1 4 回	仮定法	学生は仮定法が理解できる	
第 1 5 回	期末テスト	中間テストと同じく、作文問題を中心とし、簡単な英文手紙やメールが自在に書けるようになる	

科目名	英語総合 R		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishR				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業は主に TOEIC 対策を中心とするものである。しかし必ずしも TOEIC のみにこだわらず広くスピーキングやライティングの要素も盛り込むんで行く。このため科目名が「総合英語」となっている。とは言え、学年中数回開催される TOEIC（ブリッジ）受験を見越し、また履歴書に書ける点数取得が望ましいため、授業内では主に TOEIC 専用教材を使用し、多角的に授業を展開する。				
授業の目標	TOEIC テストまたは TOEIC ブリッジテストで、個々毎回必ず点数アップを目指す。（現状維持や点数ダウン者には、補習が課せられる可能性がある）				
時間外学習 （予習・復習）	毎回の授業に対し最低約 30 分の予習が必要である。予習のやり方は、知らない単語を調べてくこと、内容を一読してくることなどであるが、詳しいやり方は初回の授業で説明する。更に予習より重要なものが復習である。必ず次週までに復習を完璧にしてくること。授業でやっていないことをやる必要はないので、きちんと授業内容をノートに取って、必要事項を覚えてくこと。原則毎回復習に関するミニテストを授業開始後に実施する。				
教科書・教材	教科書				
	教材	TOEIC 公式問題集、TOEIC ブリッジ公式問題集、			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	日頃のミニテスト、参加意欲（発言やノートテイキングなど）宿題など 20％、中間テスト 30 パーセント、期末テスト 50％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	必ず次回該当箇所の予習をしてから授業に臨むこと。また次の回までに必ず復習をきちんとこなしてくること。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEIC ブリッジ			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	TOEIC とはどういう試験か、全体像と、予習復習のやり方を学ぶ	学生は TOEIC の全貌、予習復習のやり方が理解できる	
第 2 回	TOEICPART 1 の攻略法と周辺事項	学生は TOEICPART 1 への理解が深まる	
第 3 回	TOEICPART 2 の攻略法と周辺事項	学生は TOEICPART 2 への理解が深まる	
第 4 回	TOEICPART 3 の攻略法と周辺事項その 1	学生は難関の PART 3 への理解が深まる。難度が上がるので全 2 回に分けて実施	
第 5 回	PART 3 その 2	学生は PART 3 の解き方をしっかり覚えることが出来る	
第 6 回	TOEICPART 4 の攻略法と周辺事項その 1	学生にとって最難関と思われる PART 4 への理解が深まる	
第 7 回	PART 4 その 2	学生は最難関パートへの理解を更に深めることが出来る	
第 8 回	リスニング中心中間テスト	リスニング力の着実なアップを目指す	
第 9 回	TOEICPART5 の攻略法と周辺事項その 1	ここからリーディング。学生はまずどんな問題が出るか傾向を把握できる	
第 10 回	PART 5 その 2 問題をひたすら解く	学生は上記のガイダンスに従って PART 5 が得意になる	
第 11 回	TOEICPART 6 の攻略と周辺事項	学生は比較的取り組みやすい当セクションを得点源に出来る	
第 12 回	TOEICPART7 シングルパッセージ攻略	学生はまずは最も得点源になりやすいシングルパッセージが確実に解けるようになる	
第 13 回	ダブルパッセージ	学生はつらいダブルパッセージへの苦手意識をなくせる。トリプルへの橋渡し	
第 14 回	トリプルパッセージ	学生は全ての仕上げとしてトリプルパッセージで確実に加点出来る方法を学ぶ	
第 15 回	TOEICIP テスト	各自最低 50 点の点数アップ	

科目名	英語総合 T		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishT				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	グローバルおもてなしマイスター認定制度に基き、インバウンドへの対応のみならず、グローバルにコミュニケーションが可能な人材育成を目指し、コミュニケーションマナー、異文化コミュニケーションと並び、外国語（英語）での知識・技術レベルの向上を行います。				
授業の目標	特に各種接客業における顧客対応を前提とし、丁寧な英語で接客・接遇を行い、顧客満足度の向上を目指すことが出来るようになる。 Hospitality と English ability の二つを融合させた表現方法を身につける。				
時間外学習 （予習・復習）	予習：各学習項目に目を通し、不明点の抽出、単語の理解等を行い授業に備える。 （30 分程度） 復習：受講項目につき習得したフレーズをテキストなしでも言える様反復練習を行う。また、以前学習した項目との関連を総合的に理解する。 （50 分程度）				
教科書・教材	教科書	グローバルおもてなしマイスター制度 おもてなしランゲージ（英語）			
	教材	必要に応じてプリントを配布			
	使用設備・備品	ホワイトボード、CD、DVD、プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	授業参加意欲 20%、授業態度 20%、実技演習による習得度判定 60%により評価します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	私語、居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。				
本科目履修と関連する資格	資格名	グローバルおもてなしマイスター制度 おもてなしランゲージ（英語）受験資格			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	15回で何を学んでいくかを理解する	テキストを確認し、項目を確認してくる
第2回	おもてなしの心を表すということ、おもてなしの英語とは何かを学ぶ	おもてなしの英語とは何かを理解する	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする
第3回	基本表現を学ぶ	丁寧な基本表現を学び、それを用いて実際に即した英文を作り、言えるようにする	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（演習1）
第4回	会計1 数字の表現、会計の流れを学ぶ	会計にまつわる表現を習得する 英語で数字を言うことに慣れ、現金・カードの会計の流れを理解する	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（演習2）
第5回	会計2 免税対応、会計時の会話を学ぶ	免税に関する語句・表現を学びスムーズに案内が出来るようになる	予習：会計1の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする
第6回	日付・時刻・時間の表現を学ぶ	日付・時刻・時間の表現を習得し、簡単な案内が出来るようになる	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（ダイアログ）
第7回	ご案内の方法、表現を学ぶ	道案内・館内放送・交通・商品等の案内表現を習得し、案内が出来るようになる	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（演習3、4）
第8回	お勧めする方法、表現を学ぶ	商品等のお勧めや提案表現を習得し、実施出来るようになる	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（練習）
第9回	トラブル・クレームの対応1を学ぶ	トラブル・クレーム対応のフレーズ、謝罪表現による適切な対応方法を習得し、実施出来るようになる	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（練習）
第10回	電話対応の方法を学ぶ1 電話対応のポイント 基本表現	電話特有の表現を学び、丁寧に対応出来るようになる 電話特有の基本表現を学ぶ	予習：対応1の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（基本表現）
第11回	電話対応の方法を学ぶ2 電話対応の会話 演習5	電話特有の表現を学び、適切な対応方法を習得し、実施出来るようになる	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（演習5）
第12回	お客様とのコミュニケーション方法を学ぶ	お客様とより良いコミュニケーションが取れるための手法を習得し、実施出来るようになる	予習：同項目の内容確認を行い、不明点の洗い出しを行う 復習：同項目の復習を行い、反復練習をする（お客様との会話）
第13回	試験対策演習1を行う	ロールプレイング演習にて手法の習得を確認し、実施出来るようになる	予習：第二回から六回項目の内容確認を行い、実施出来る様にしておく 復習：全項目の復習を行い、反復練習をする
第14回	試験対策演習2を行う	ロールプレイング演習にて手法の習得を確認し、実施出来るようになる	予習：第七回から十二回項目の内容確認を行い、実施出来る様にしておく 復習：完全に習得出来たのかを最終確認する
第15回	まとめ 15回の振り返りを行う	国際人、また日本人として、おもてなしの精神を英語でも発揮できるようになっていることを確認する	予習：全項目を通しての疑問点、質問の整理、感想の作成を行う 復習：受験に向け、最終確認を行う

科目名 Subject	英語総合Ⅱ General EnglishⅡ		教員名	英語チーム	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業は主に TOEIC 対策を中心とするものである。しかし必ずしも TOEIC のみにこだわらず広くスピーキングやライティングの要素も盛り込むで行く。このため科目名が「総合英語」となっている。とは言え、学年中数回開催される TOEIC（ブリッジ）受験を見越し、また履歴書に書ける点数取得が望ましいため、授業内では主に TOEIC 専用教材を使用し、多角的に授業を展開する。				
授業の目標	TOEIC テストまたは TOEIC ブリッジテストで、個々毎回必ず点数アップを目指す。（現状維持や点数ダウン者には、補習が課せられる可能性がある）				
時間外学習 （予習・復習）	毎回の授業に対し最低約 30 分の予習が必要である。予習のやり方は、知らない単語を調べてくること、内容を一読してくることなどであるが、詳しいやり方は初回の授業で説明する。更に予習より重要なものが復習である。必ず次週までに復習を完璧にしてくること。授業でやっていないことをやる必要はないので、きちんと授業内容をノートに取って、必要事項を覚えてくること。原則毎回復習に関するミニテストを授業開始後に実施する。				
教科書・教材	教科書				
	教材	TOEIC 公式問題集、TOEIC ブリッジ公式問題集、			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	日頃のミニテスト、参加意欲（発言やノートテイキングなど）宿題など 20％、中間テスト 30 パーセント、期末テスト 50％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	必ず次回該当箇所の予習をしてから授業に臨むこと。また次の回までに必ず復習をきちんとこなしてくること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	TOEIC、TOEIC ブリッジ			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	TOEIC とはどういう試験か、全体像と、予習復習のやり方を学ぶ	学生は TOEIC の全貌、予習復習のやり方が理解できる	
第 2 回	TOEICPART 1 の攻略法と周辺事項	学生は TOEICPART 1 への理解が深まる	
第 3 回	TOEICPART 2 の攻略法と周辺事項	学生は TOEICPART 2 への理解が深まる	
第 4 回	TOEICPART 3 の攻略法と周辺事項その 1	学生は難関の PART 3 への理解が深まる。難度が上がるので全 2 回に分けて実施	
第 5 回	PART 3 その 2	学生は PART 3 の解き方をしっかり覚えることが出来る	
第 6 回	TOEICPART 4 の攻略法と周辺事項その 1	学生にとって最難関と思われる PART 4 への理解が深まる	
第 7 回	PART 4 その 2	学生は最難関パートへの理解を更に深めることが出来る	
第 8 回	リスニング中心中間テスト	リスニング力の着実なアップを目指す	
第 9 回	TOEICPART5 の攻略法と周辺事項その 1	ここからリーディング。学生はまずどんな問題が出るか傾向を把握できる	
第 10 回	PART 5 その 2 問題をひたすら解く	学生は上記のガイダンスに従って PART 5 が得意になる	
第 11 回	TOEICPART 6 の攻略と周辺事項	学生は比較的取り組みやすい当セクションを得点源に出来る	
第 12 回	TOEICPART7 シングルパッセージ攻略	学生はまずは最も得点源になりやすいシングルパッセージが確実に解けるようになる	
第 13 回	ダブルパッセージ	学生はつらいダブルパッセージへの苦手意識をなくせる。トリプルへの橋渡し	
第 14 回	トリプルパッセージ	学生は全ての仕上げとしてトリプルパッセージで確実に加点出来る方法を学ぶ	
第 15 回	TOEICIP テスト	各自最低 50 点の点数アップ	

科目名	英語総合Ⅴ		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishⅤ				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	This is an English for special purposes conversation course on hair, nail, and other beauty related topics, Practice concentrates on simulating beautician or hairdresser interaction with customers at a beauty salon.				
授業の目標	By the end of the course, students will be able to engage in conversations about hair and nail with English speakers.				
時間外学習 (予習・復習)	Students will be provided with example questions, responses, and relevant expressions to learn before each lesson. Students will also be provided with a series of review exercises to complete after each lesson.				
教科書・教材	教科書	Dooley, J. and Evans, V. (2011) Book 1, Beauty Salon. Berkshire: Express Publishing			
	教材	Students will be provided with a set of printed notes and exercises.			
	使用設備・備品	Classroom with audio visual and Internet access.			
	参考文献	None			
評価方法	Attitude and participation: 30%, Classwork 20%: Midterm test: 25%, Final test: 25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	None				
本科目履修と関連する資格	資格名	None			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Unit 3: Business hours	To be able to talk about salon opening hours	
第2回	Unit 4: Phone appointments	To be able to take a customer appointment over the phone.	
第3回	Unit 5: Getting a shampoo	To be able to talk about shampooing	
第4回	Unit 6: Getting a perm	Students will be able to discuss perming.	
第5回	Unit 7: Straightening your hair	Students will be able to discuss straightening hair.	
第6回	Unit 8: Coloring your hair	Students will be able to discuss coloring their hair.	
第7回	Review Units 3, 4, 5, 6, 7, 8	Students will prepare for the Mid Term Test	
第8回	summary	summary	
第9回	Unit 11: Getting a manicure	To be able to talk about nail care	
第10回	Unit 12: Looking after a manicure	To be able to talk about manicure maintenance	
第11回	Unit 13: Removing hair	To be able to talk about hair removal	
第12回	Unit 14: Looking after your skin	To be able to talk about skincare	
第13回	Unit 15: Getting a salon facial	To be able to talk about salon facials	
第14回	Review Units 11, 12, 13, 14, 15	Students will prepare for the Final Test	
第15回	Final summary	summary	

科目名	英語総合W		教員名	英語チーム	
Subject	General EnglishW				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業は主に TOEIC 対策を中心とするものである。しかし必ずしも TOEIC のみにこだわらず広くスピーキングやライティングの要素も盛り込むで行く。このため科目名が「総合英語」となっている。とは言え、学年中数回開催される TOEIC（ブリッジ）受験を見越し、また履歴書に書ける点数取得が望ましいため、授業内では主に TOEIC 専用教材を使用し、多角的に授業を展開する。				
授業の目標	TOEIC テストまたは TOEIC ブリッジテストで、個々毎回必ず点数アップを目指す。（現状維持や点数ダウン者には、補習が課せられる可能性がある）				
時間外学習 （予習・復習）	毎回の授業に対し最低約 30 分の予習が必要である。予習のやり方は、知らない単語を調べてくること、内容を一読してくることなどであるが、詳しいやり方は初回の授業で説明する。更に予習より重要なものが復習である。必ず次週までに復習を完璧にしてくること。授業でやっていないことをやる必要はないので、きちんと授業内容をノートに取って、必要事項を覚えてくること。原則毎回復習に関するミニテストを授業開始後に実施する。				
教科書・教材	教科書				
	教材	TOEIC 公式問題集、TOEIC ブリッジ公式問題集、			
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	日頃のミニテスト、参加意欲（発言やノートテイキングなど）宿題など 20％、中間テスト 30 パーセント、期末テスト 50％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	必ず次回該当箇所の予習をしてから授業に臨むこと。また次の回までに必ず復習をきちんとこなしてくること。				
本科目履修と関連する資格	資格名	TOEIC、TOEIC ブリッジ			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	TOEIC とはどういう試験か、全体像と、予習復習のやり方を学ぶ	学生は TOEIC の全貌、予習復習のやり方が理解できる	
第 2 回	TOEICPART 1 の攻略法と周辺事項	学生は TOEICPART 1 への理解が深まる	
第 3 回	TOEICPART 2 の攻略法と周辺事項	学生は TOEICPART 2 への理解が深まる	
第 4 回	TOEICPART 3 の攻略法と周辺事項その 1	学生は難関の PART 3 への理解が深まる。難度が上がるので全 2 回に分けて実施	
第 5 回	PART 3 その 2	学生は PART 3 の解き方をしっかり覚えることが出来る	
第 6 回	TOEICPART 4 の攻略法と周辺事項その 1	学生にとって最難関と思われる PART 4 への理解が深まる	
第 7 回	PART 4 その 2	学生は最難関パートへの理解を更に深めることが出来る	
第 8 回	リスニング中心中間テスト	リスニング力の着実なアップを目指す	
第 9 回	TOEICPART5 の攻略法と周辺事項その 1	ここからリーディング。学生はまずどんな問題が出るか傾向を把握できる	
第 10 回	PART 5 その 2 問題をひたすら解く	学生は上記のガイダンスに従って PART 5 が得意になる	
第 11 回	TOEICPART 6 の攻略と周辺事項	学生は比較的取り組みやすい当セクションを得点源に出来る	
第 12 回	TOEICPART7 シングルパッセージ攻略	学生はまずは最も得点源になりやすいシングルパッセージが確実に解けるようになる	
第 13 回	ダブルパッセージ	学生はつらいダブルパッセージへの苦手意識をなくせる。トリプルへの橋渡し	
第 14 回	トリプルパッセージ	学生は全ての仕上げとしてトリプルパッセージで確実に加算出来る方法を学ぶ	
第 15 回	TOEICIP テスト	各自最低 50 点の点数アップ	

科目名	日本語総合 A		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseA				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	専門科目や実技の授業を受けたり学校の行事に参加したり、時には学校の行事の中心となって参画したりする以外に学生間の情報交換のためのコミュニケーション手段となる日本語能力である聞く力、話す力、読む力・書く力といった4つの技能を日本語総合B・C・Dの授業と関連して同じ教科書を使用し、精読・文法表現・関連表現とスキル・応用話す・書くをとといった技能を総合的に学習する。				
授業の目標	日本語学校等での日本語予備教育で得た知識・スキルをさらに発展させ、日本人中心のクラスでも積極的に参画できる日本語力を習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	授業の前に90分から120分の予習をし、語彙、表現の意味確認をし、授業中は意味理解の上に授業に参画すること。授業後も復習に同等の時間を使い、正確にしっかり覚えること。				
教科書・教材	教科書	学ぼうにほんご 初中級 専門教育出版編			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	平常の積極的な授業参画、参加を高くし、提出物の評価と合わせて40%とする。学期末の試験の評価を60%として全体を評価を決める				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中は原則としてスマホの使用は禁止する。使用をみとめた場合は預かることがある。				
本科目履修と関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	第一課 メールや電話で依頼ができる「本文精読」	E メール文の基礎パターンで依頼ができ、返信ができるようになる	第一回でオリエンテーションをする。特に予習 90 分、復習にも同等の 90 分以上かけること。
第 2 回	第二課 理由と許可をも求められる「本文 精読」	相手に理由や目的を伝え、許可を求められるようになる	
第 3 回	第三課 お礼や感謝の気持ちが言える「本文 精読」	大人としてのお礼や感謝ができるようになる	
第 4 回	第四課 理由を言って上手に断る「本文 精読」	相手を慮った断りができるようになる	
第 5 回	第五課 情報の整理とその説明「本文と精読」	比較、条件な文などを使って情報の整理とその説明ができるようになる	
第 6 回	第六課 今の状況、状態について説明する「本文 精読」	状況や状態を分かりやすく伝えられるようになる	
第 7 回	第七課 聞いた情報を正しく伝えられる「本文 精読」	伝聞が正確にわかりやすく伝えられるようになる	
第 8 回	第八課 内容や事情を説明しながら勧めたり、誘ったりする「本文 精読」	伝えたい内容、事情を明確にして勧誘できるようになる	
第 9 回	第九課 自然な会話を進められるようにする「本文 精読」	人物について「どんな人」を説明、表現できるようになる	
第 10 回	第十課 人物の描写、説明ができる「本文 精読」	必要な情報の整理と不要な情報の区別しその理解ができるようになる	
第 11 回	第十一課 必要な情報の的確な理解「本文 精読」	自分の立場を決定し考え、意見や助言ができるようになる	
第 12 回	第十二課 自分の立場から意見を言う「本文 精読」	相手の立場、問題の理解と整理ができ、その上に立ってアドバイスができるようになる	
第 13 回	第十三課 物事の価値とその価値の説明・表現	時や状況の変化の理解とその理由を整理でき、相手に伝えられるようになる	
第 14 回	第十四課 問題に対するアドバイスの「本文 精読」	判断したり評価したりする基準の理解とその伝達ができるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	試験の準備にそれ相当の時間を使う

科目名	日本語総合B		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseB				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	専門科目や実技の授業を受けたり学校の行事に参加したり、時には学校の行事の中心となって参画したりする以外に学生間の情報交換のためのコミュニケーション手段となる日本語能力である聞く力、話す力、読む力・書く力といった4つの技能を日本語総合A・C・Dの授業と関連して同じ教科書を使用し、精読・文法表現・関連表現とスキル・応用話す・書くをとといった技能を総合的に学習する。				
授業の目標	日本語学校などでの日本語予備教育で得た知識やスキルをさらに発展させ、日本人のクラスに入っても積極的に参画できる日本語力を習得する。特にこの日本語総合Bでは表現力を身に付けることに力点をおき、豊かな表現ができるようにする。				
時間外学習 (予習・復習)	授業の前には 90 分から 120 分はかけて語彙の意味、表現の使い方などを予習して、授業中に意味調べなどはせず、講義に集中できるようにしておくこと。授業後も同等の時間をかけて理解を定着させるために復習をすること。特に、日本語能力試験N2、N1を受験しようと考えている学生は、この範囲が試験によく出る問題であることを念頭に入れて勉強すること				
教科書・教材	教科書	学ぼう！にほんご 専門教育出版編			
	教材				
	使用設備・備品	PCも使用し、例文をパソコンで文章化する			
	参考文献				
評価方法	平常の積極的な授業参画を高く評価する。特に提出物については未提出にならないようにすること。平常点として 40% 期末試験で 60%として総合評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中はスマホなどの使用は禁止する。場合によっては預かることもある。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	第一課 メールや電話で依頼ができる「重要な文型と表現」	依頼の文法事項の理解と文作でより深い修得、実際にメール文で情報のやり取りができるようになる	第一回ではオリエンテーションをする。予習と復習には 90 分以上かけ準備とまとめをすること
第 2 回	第二課 理由と許可を求める「重要な文型と表現」	理由を明確して丁寧なお願いの表現と普通態のお願いの違いができるようになる	
第 3 回	第三課 お礼や感謝の気持ちが言える「重要な文型と表現」	丁寧なお礼や感謝の気持ちの伝達と普通態の礼や感謝の表現ができるようになる	
第 4 回	第四課 理由を言って上手に断る「重要な文型と表現」	どうしてかと明確にしながら丁寧に表現できたり、友人同士の軽い断りができる	
第 5 回	第五課 情報の整理とその説明「重要な文型と表現」	比較、条件な文などを使って情報の整理とその説明ができるようになる	
第 6 回	第六課 今の状況、状態を説明する「重要な文型と表現」	状況や状態の説明を相手を目上、自分より下にうまく伝えられるようになる	
第 7 回	第七課 聞きたい情報を正しく伝えられる「重要な文型と表現」	伝聞が命令か依頼か第三者への伝言かなど区別して正確に伝えられるようになる	
第 8 回	第八課 内容や事情を説明し勧めたり誘ったりする「重要な文型と表現」	意図していることを明確にし誘えるようになる	
第 9 回	第九課 自然は会話を進められるようにする「重要な文型と表現」	「どんな人で何をしている人」かを第三者に伝えられるようになる	
第 10 回	第十課 人物の描写、説明が 4 できる「重要な文型と表現」	必要な情報、不要な情報の区別とそれを正確に理解できるようになる	
第 11 回	第十一課 必要な情報の的確な理解「重要な文型と表現」	自分の立場を決定し考え、意見や助言ができるようになる	
第 12 回	第十二課 自分の立場から意見を言う「重要な文型と表現」	相手の立場、問題の理解と整理ができ、その上に立ってアドバイスができるようになる	
第 13 回	第十三課 物事の価値をその価値の説明「重要な文型と表現」	時や状況の変化の理解とその理由を整理でき、相手に伝えられるようになる	
第 14 回	第十四課 問題に対するアドバイス「重要な文型と表現」	大元の評価、基準の理解とどんな立場にたった判断かが理解できるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	試験のための準備には 120 分以上をかけ評価してもらえるように準備をすること

科目名	日本語総合 C		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseC				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	専門科目や実技の授業を受けたり学校の行事に参加したり、時には学校の行事の中心となって参画したりする以外に学生間の情報交換のためのコミュニケーション手段となる日本語能力である聞く力、話す力、読む力・書く力といった4つの技能を日本語総合 A・B・D の授業と関連して同じ教科書を使用し、精読・文法表現・関連表現とスキル・応用話す・書くをといった技能を総合的に学習する。				
授業の目標	入学以前に日本語教育機関等での予備教育段階で学習・修得した知識、技能をさらに高め、日本人学生と同じクラスで学んでも理解も定着も十分取れるようになること。また日本人との会話コミュニケーション上でも意志疎通が上手にとれ、また発言する能力や応答にも支障がないような日本語の総合的な能力の向上を目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	総合的に、また確実に基礎から中級への学習をするために予習と復習は欠かせない。授業中にあわせて言葉の意味を調べたり、初級の文法の問題がわからなくなったりしないように予習に 90 分はかけ、授業中は先生と一緒に授業を進めていけるようにしてください。また復習にも時間を 90 分はかけ、しっかり正しく覚えてください。日本語能力試験 N 2 ・ N 1 に出る問題をたくさんします。				
教科書・教材	教科書	学ぼう！にほんご 初中級 専門出版編			
	教材				
	使用設備・備品	パソコンで例文の入力もします。			
	参考文献				
評価方法	毎回の授業への参画の仕方や提出物で 40%、期末試験で 60%の総合で評価します。期末試験だけはがんばりますでは、評価が高くありません。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	スマートホンの使用は禁止します。使用しているところを発見した場合はその場で預かります。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	第一課 メールや電話で依頼ができる「復習と関連表現」	いろいろな依頼の表現の確認 理解しその意味やニュアンスの違いがわかるようになる	オリエンテーションを行うが特に 予習に 90 分、復習にも 90 分以上かけること
第 2 回	第二課 きちんと理由を言って許可を求める「復習と関連表現」	いろいろな理由の表現の違いの理解とその意味、使い方がわかるようになる	
第 3 回	第三課 お礼や感謝の気持ちを伝える「復習と関連表現」	お礼や感謝の度合でそれぞれ違いがあることがわかり、使えるようになる	
第 4 回	第四課 理由を言って上手に断る「復習と関連表現」	上手な断り方、相手と問題になる断り表現の理解とその使い分けができるようになる	
第 5 回	第五課 情報の整理とその説明「復習と関連表現」	比較、条件な文などを使って情報の整理とその説明ができるようになる	
第 6 回	第六課 今の状況、状態を説明する「復習と関連表現」	状況や状態を分かりやすく伝えられるようになる	
第 7 回	第七課 聞いた話を正確に伝える「復習と関連表現」	上手な伝聞とへたな伝聞の違いがわかり、上手な伝聞ができるようになる	
第 8 回	第八課 内容や事情を説明しながら勧めたり誘ったりする「復習と関連表現」	何かどうしてなど、内容を説明して勧めたり誘ったできるようになる	
第 9 回	第九課 自然に会話を進める「復習と関連表現」	人物について「どんな人」を説明、表現できるようになる	
第 10 回	第十課 人物の描写・説明ができる「復習と関連表現」	必要な情報の整理と不要な情報の区別しその理解ができるようになる	
第 11 回	第十一課 必要な情報の的確な理解「復習と関連表現」	聞いてもらえる意見、助言の表現ができるようになる	
第 12 回	第十二課 自分の立場から意見を言う「復習と関連表現」	相手の立場、問題の理解と整理ができ、その上に立ってアドバイスができるようになる	
第 13 回	第十三課 立場を考えて価値を説明する「復習と関連表現」	変更、変化をその理由と共に理解し相手に伝えられるようになる	
第 14 回	第十四課 問題にたいしてアドバイスができる「復習と関連表現」	判断、評価を明確にしそれを相手に納得させられるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	さらにいい成績になるために試験勉強は 120 分かそれ以上かける

科目名	日本語総合D		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseD				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	専門科目や実技の授業を受けたり学校の行事に参加したり、時には学校の行事の中心となって参画したりする以外に学生間の情報交換のためのコミュニケーション手段となる日本語能力である聞く力、話す力、読む力・書く力といった4つの技能を日本語総合A・B・Cの授業と関連して同じ教科書を使用し、精読・文法表現・関連表現とスキル・応用話す・書くといった技能を総合的に学習する。				
授業の目標	入学以前に日本語教育機関等での予備教育段階で学習・修得した知識、技能をさらに高め、日本人学生と同じクラスで学んでも理解も定着も十分取れるようになること。また日本人との会話コミュニケーション上でも意志疎通が上手にとれ、また発言する能力や応答にも支障がないような日本語の総合的な能力の向上を目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	学習したことを確実に理解しスキルにするために、予習と復習には十分に時間を書けること。予習には90分から120分くらいかけ、語彙の意味や使い方、文法事項の意味確認や場面などを調べて、授業中に意味調べなどしないようにすること。復習にも同等の時間をかけて勉強したことを確実に定着するようにすること。この勉強の継続が日本語能力試験N3、N2の対策にもなることを自覚し学習すること				
教科書・教材	教科書	学ぼう！にほんご 専門教育出版編			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	普段の学習態度や授業への参画を評価の対象にします。全体の40%はその意欲、努力を見ます。全体の60%は学期の終わりの試験で成果を評価します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	ケータイやスマホの使用は禁止します。使用を発見した際は預かり場合もあります。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	第一課 メールや電話で依頼できるようになるの応用スキルアップ	この課で学習したことを中心に話せる・書けるようになる	授業オリエンテーションをする。特に予習に 90 分、復習にも 90 分かけて実際に使えるようにする
第 2 回	第二課 理由を言って許可を求めるの応用会話、表現文の文作	どうして許可してほしいかを実際に話せ、文章で書けるようになる	
第 3 回	第三課 お礼や感謝の気持ちが言える。応用練習を中心に話せて文作ができる	お礼や感謝の気持ちが的確に表現できるようになる応用練習	
第 4 回	第四課 断るときの表現の学習をし、	相手に不愉快な思いをさせない上手な断り方の応用会話と文章がかけられるようになる	
第 5 回	第五課 情報を整理し、説明できるようになる応用会話と文章作成を学習	情報を整理して説明する応用会話と文章で表現できるようになる	
第 6 回	第六課 状況・状態を説明する応用会話、文章化を学習	状況の説明を中心に応用会話と文字による的確な説明文がかける	
第 7 回	第七課 聞いた情報を的確に伝達できるようになる学習	伝える機能を応用会話にしたり文章で伝えたりできる	
第 8 回	第八課 内容や事情を説明しながら勧めたり誘ったりできる	内容をきちんと把握し、その上で勧誘ができる	
第 9 回	第九課 自然な会話の促進ができるようになる学習	自然なコミュニケーション力を応用会話でスキルアップし文字にもしてきる	
第 10 回	第十課 人物や物事を描写し説明できる学習	人や物、事物をじょうずに描写できる応用会話とそれを書くことができるようになる	
第 11 回	第十一課 必要な情報を的確に理解できるようになる学習	応用練習で情報を的確に理解し話したり、書いたりできるようになる	
第 12 回	第十二課 自分の立場を決めそれを基にして意見が言えるようになる学習	立場の設定とそれに基づいた意見が矛盾なく発表できるようになる応用会話	
第 13 回	第十三課 物事の価値を考え、その価値について表現できるようになる学習	価値について考え、それを発表する応用練習で話せ、書けるようになる	
第 14 回	第十四課 アドバスの表現と留意点を応用練習で学習	適切なアドバスの内容がわかり表現できるようになる応用問題に取り組む	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	試験の準備にはいつもの倍くらい 200 分はかけ、満足のいく結果を出すこと

科目名	日本語総合 F		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseF				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業では2つの目的がある。1つはPCでのローマ字入力をブラインドタッチでできるようにすること。2つ目は会話の上達を目的としている。各課のトピックの語彙・重要語句を理解して課題であるロールプレイの会話を作成し得ることである。 1つ目のブラインドタッチだが、これは「e-typing」というアプリケーションを使用する。これは、五十音のタイピングをゲーム感覚で練習。その後、拗音・撥音・長音・長文の練習をした後、毎回1分間で何ワード打てるかミニテストがある。できた場合、内申点に加算される。前期のみ実施される。 会話の授業では必ずペアを組んで授業を進める。関連する課のトピックの会話（4つの会話）を聞いて内容を把握する。その後、重要表現を（友人と話す場合、上司と話す場合）の話し方の違いを理解して関連した問題や、ディクテーションを解く。最後にまとめとして、重要表現を使用してロールプレイの作成。				
授業の目標	タイピングの授業では授業の始め 30 分割り当てる。毎回課題を与えるので、達成できた生徒には、アシスタントとして授業を手伝ってもらう。全員ブラインドタッチができ、レポート作成に支障がないような能力を身に着ける。 会話の授業では学生に各課ごとのトピックするの語彙と表現を理解させる。その後、それを応用してロールプレイを作成できるようになるように進める。各ペアごとに発表の実施し、クラス全員で評価する。評価には評価表を全員に配布し、評価してもらう。 ロールプレイ会話の内容は内申点で重要なポイントとなる。				
時間外学習 （予習・復習）	パソコンでタイピングの練習もする。授業で学習したことは実際の生活の中でも使えることばかりなので、予習に 90 分、復習にも 90 分くらい使い、身に付けること				
教科書・教材	教科書	聴いて覚える話し方「日本語生中継」初中級編 2			
	教材				
	使用設備・備品	PC（PowerPoint）を見せる。			
	参考文献				
評価方法	授業態度、参画度、提出物の良しあしで平常点と期末試験の評価で総合評価する。平常点は 20%、期末試験は 80% で評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	e-typing の授業中は携帯使用を禁止。会話の授業中、辞書として携帯使用は認めるが、それ以外で使用した場合は授業の妨害とみなし、内申点のマイナスとする。 テキストを忘れた場合も内申点マイナスとみなす				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	(1) e-typing 登録 a-z 入力 (2) 1 課ウォーミングアップ 学ぶ	学生がミニテスト合格 学生がウォーミングアップ問題後、聞き取り練習	
第 2 回	(1) e-typing 練習 2-4 (2) 1 課 聞き取り練習 ポイントレスニングを学ぶ	学生がミニテスト合格 学生が練習問題終了、ポイントレスニングの聞き取り終了	ミニテスト合格していない生徒はもう一度練習
第 3 回	(1) e-typing50 音 (2) 1 課 重要表現・練習問題 学ぶ	学生がミニテスト合格 学生が練習問題を終了して発表してもらう	ミニテスト合格していない生徒はもう一度練習
第 4 回	(1) 濁音・撥音。拗音・促音・長音・ミニテスト (2) ロールプレイ作成・発表	学生がミニテスト合格 学生がロールプレイを作成して全員発表できる事	ミニテスト合格していない生徒はもう一度練習
第 5 回	(1) 応用問題短文/ミニテスト (2) 2 課 ウォーミングアップ 学ぶ	学生がミニテスト合格 学生がウォーミングアップ問題後、聞き取り練習	ミニテスト合格していない生徒はもう一度練習
第 6 回	(1) 応用問題 長文練習 (2) 2 課聞き取り練習問題 ポイントレスニング学ぶ	学生がミニテスト合格 学生が練習問題終了、ポイントレスニングの聞き取り終了	ミニテスト合格していない生徒はもう一度練習
第 7 回	(1) e-typing 記号 (2) 2 課 重要表現・練習問題を学ぶ	学生が練習問題を終了して発表してもらう	
第 8 回	(1) e-typing 長文テスト (2) 3 課ロールプレイ作成・発表	学生がロールプレイを作成して全員発表できる事	
第 9 回	(1) 4 課 ウォーミングアップ を学ぶ	学生がウォーミングアップ問題後、聞き取り練習	
第 10 回	(1) 4 課聞き取り練習問題 ポイントレスニングを学ぶ	学生が練習問題終了、ポイントレスニングの聞き取り終了	
第 11 回	(1) 4 課 重要表現・練習問題を学ぶ	学生が練習問題を終了して発表してもらう	
第 12 回	(1) 4 課ロールプレイ作成・発表	学生がロールプレイを作成して全員発表できる事	
第 13 回	(1) 5 課 ウォーミングアップ を学ぶ	学生がウォーミングアップ問題後、聞き取り練習	
第 14 回	(1) 5 課聞き取り練習問題 ポイントレスニングを学ぶ	学生が練習問題終了、ポイントレスニングの聞き取り終了	
第 15 回	前期の復習	前期テストの対策及び復習	

科目名	日本語総合 G		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseG				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この授業は書くスキルの向上め目指し、レポートが書けるようになることがこの授業の狙い です。文体や書き言葉と話言葉の区別、要点の整理、レポート作成の手順、基本段落の作り 方、書式、引用の仕方、資料の利用の仕方などレポート作成の基礎知識を学習します。				
授業の目標	レベル3のレポートが書ける、そのための基本的知識とスキルの修得を目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	ライティングで書く内容については、授業の前に考えて情報を集めておく準備が必要です。 そのためにテレビ、新聞などで情報集めに 90 分以上はかけてください。授業後も復習とし て 90 分から 120 分かけて、授業で得たこと学んでことを定着させて確認してください。そ うすることでさらなる高度な文章ができるようになるので自分にかけた時間に期待が持て るよう努力を望みます。				
教科書・教材	教科書	日本語作文 I 身近なトピックスによる表現練習 専門教育出版編			
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	平常の授業への準備の質の高さ、授業での参画意欲の高さ、プロダクションの質の高さに 50%、期末試験での評価に 50%で総合評価し 80 以上を A, 70 から 79 を B, 60 から 69 を C、 59 以下は不可とします。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	日常の出来事や社会の問題などに興味を持ち、テーマとなりそうなことをメモししらべてお くこと				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	レポートを書くための基礎知識	レポート作成の手順、流れの理解、資料集め、内容の検討、構成、見直し、清書をする	
第 2 回	レポートを書くための段落と構成	文の構成とアウトラインの理解ができる。構成の大切な役割が理解できる。	
第 3 回	レポートの文体と主な表現の学習	丁寧体と普通体の文の使い分けができる	
第 4 回	レポートを PC で作成する	手書きとパソコンでの文入力ができる	
第 5 回	順序立ててレポートを書く (1)	定義や例示、結論を関連付けて表現できるようになる	
第 6 回	順序立ててレポートを書く (2)	会話表現の言葉をレポートで使われる表現の区別を理解し運用できるようにする	
第 7 回	順序だててレポートを書く (3)	順序立ててレポートを書いたのをグループで評価し、良しあしが理解できる	
第 8 回	順序立ててレポートを書く (4)	定義から結論までの順序をさらに発展させられるようになる	
第 9 回	引用してレポートを書く (1)	引用の表現の理解、対立の表現の理解 作文をしてグループで検討し発表	
第 10 回	引用してレポートを書く (2)	語や名詞化する練習と格調ある文体を習得	
第 11 回	引用してレポートを書く (3)	資料からわかったこととそれに対する自分の意見や感想が書ける	
第 12 回	資料を利用してレポートを書く (1)	定義、数・量、割合、変化、変化の程度、判明の表現を学び、実際に使えるようになる	
第 13 回	資料を利用してレポートを書く (2)	テーマの決定と対比する項目の整理、結論が表現できるようになる	
第 14 回	資料を利用してレポートを書く (3)	グループでレポートの検討ディスカッションをお互いに適正な評価ができるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	まとめと期末試験対策	この授業で最高の評価を先生にもらえるよう完璧は準備を試験に臨むこと

科目名	日本語総合H		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseH				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本語総合HはI，J，K，L同一のテキストを使用し、日本語能力試験のN2、N1の基礎となる学習をする。新聞などにでてくる一般的なことがらについて、話したりきいたり、また読んだり書いたりもできるようになる				
授業の目標	中級レベルの学習をテキストを使用しながら授業を行う。内容としては初中級から引き続き高等な書き言葉、改まった日本語表現を 6000 から 8000 の修得を目標とする。またそれに見合ったレベルの文章も書けることを目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	テキストに出てくる語彙や表現の意味確認などその数も増えるので 30 分から 1 時間程度の予習をして授業に参加することを前提とした授業をする。また、将来日本での就職の計画の中に入れ、N2 レベルから N1 レベルの学習も視野にいれ復習も必要である。				
教科書・教材	教科書	学ぼう！にほんご 中級 専門教育出版編			
	教材				
	使用設備・備品	パソコンで学習文作をする			
	参考文献				
評価方法	授業への参画度とくにユニークな作文、ストーリー展開などに重点を置き、平常を全体の40%、期末試験を 60%で全体を評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中のケータイ、スマホは厳禁				
本科目履修と関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	第一課 感激したことや驚きを表せるようになる学習	感情的に思ったこと、特に感激や驚きを自然に表現できるようになる	オリエンテーションをする。特に予習に 90 分から 120 分、復習人も 120 分くらいかけること
第 2 回	第二課 意志や決心を表せるようになる学習	決定事項を表現でき、そのプロセスや理由が表現できるようになる	
第 3 回	第三課 衝動を表せるようになる学習	話したり書いたりして衝動の原因を説明したり伝達できるようになる	
第 4 回	第四課 文章から根拠や理由とその結論になった過程を学習する	文章を読んで、根拠と結果とその過程を理解し、順序だてて説明できるようになる	
第 5 回	第五課 否定的な表現を間接的に言い換えられる学習	ものの表現をいろいろな違った角度から表現できる	
第 6 回	第六回 物事の対象をしっかりと示すことができる学習	文章の対象となっているものを的確に理解し、対象について語られたことを理解できる	
第 7 回	第七課 話の過程と経過の説明が理解でき、その発展を予測することができる学習	話の発展を順を追って理解でき、その因果関係を的確に説明できる	
第 8 回	第八課 現代の社会変化を「コンビニ」を例に的確に説明できる学習	変化のポイントとその理由が理解でき、説明できるようになる	
第 9 回	第九課 やや長い文を話の順番を考えながら整理でき説明できるようになる学習「	身近な通信販売をテーマにショッピングの変化の順番が理解でき説明できる	
第 10 回	第十課 場面や時点を表す表現の学習	場面の説明に使われる表現や言葉を理解し、使えるようになる	
第 11 回	第十一課 読み物からどんな立場の人が何を問題にして意見を言っているのかを学習	話者の立場を的確に理解でき、その主張のポイントを理解できる	
第 12 回	第十二課 すべてではないがその一部分に納得できないときの表現を学習	全てでなく一部分に問題があるとき、問題点の指摘と自分の意見が言える	
第 13 回	第十三課 話の展開、特に逆接になる話の発展を理解する学習	推測外、予想外の話の展開についていけるようになる	
第 14 回	第十四課 条件を仮定し、その結果について説明ができるようになる学習	条件を仮定、想定することによって発生する結果を話せるようになる	
第 15 回	この期のそうまとめ	そうまとめと後期試験について	試験勉強には普段 2 倍、3 倍の時間をかけ、自分自身で結果に期待できるような試験準備をすること

科目名	日本語総合 I		教員名	日本語チーム	
Subject	General Japanese I				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本学習の中級段階の基礎ともいえる文法表現、漢字、語彙、正作文などを総合的に学習する。この日本語総合 I はH、J、Kとの関連で一つのテキストを使い、本文の精読、重要な文型と表現、関連表現、応用練習（話す・書く）を学習する				
授業の目標	中級レベルの学習をテキストを使用しながら授業を行う。内容としては初中級から引き続き高等な書き言葉、改まった日本語表現を 6000 から 8000 の修得を目標とする。またそれに合ったレベルの文章も書けることを目標とする。				
時間外学習 （予習・復習）	テキストに出てくる語彙や表現の意味確認などその数も増えるので 30 分から 1 時間程度の予習をして授業に参加することを前提とした授業をする。また、将来日本での就職の計画の中に入れ、N2 レベルから N1 レベルの学習も視野にいれ復習も必要である。				
教科書・教材	教科書	学ぼうにほんご中級 専門教育出版編			
	教材				
	使用設備・備品	パソコンで文型練習文の作成をおこなうことがある			
	参考文献				
評価方法	授業への参画度とくにユニークな作文、ストーリー展開などに重点を置き、平常を全体の 40%、期末試験を 60% で全体を評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中のケータイ、スマホは厳禁				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	テキスト第一課 感激や感謝の気持ちを表す	第一課の重要な文型と表現を学習し、感激や感謝の気持ちの表し方の表現ができるようになる	オリエンテーションをする。特に予習と復習にも重点をおき、毎回予習に 90 分、復習にも 90 分かける
第 2 回	テキスト第二課 意志や決心の表現を学ぶ	第二課の重要な文型と表現を学ぶ。意志や決心の表現の基本が習得できる	
第 3 回	テキスト第三課 衝動の表現を学ぶ	衝動的になったときの口に出す日本語ができるようになる	
第 4 回	テキスト第四課 結果から判断する理由や原因の表現を学ぶ	原因や理由をその結果から説明、伝達、報告できるようになる	
第 5 回	テキスト第五課 「できない」ではなく否定の気持ちを伝えることを学ぶ	否定を直接的な否定でない文型や表現を理解し使えるようになる	
第 6 回	テキスト第六課 物事の対象や指示的的確な理解の表現を学ぶ	本文に出てくる重要な文型と表現から指示や対象となっているものを的確に把握できる	
第 7 回	テキスト第七課 物事のプロセスの途中であることを伝える表現を学ぶ	伝えるときに使われる重要な文型と表現を使って、上手にメッセージができるようになる	
第 8 回	テキスト第八課 「コンビニ」の誕生から現状までをトピックスに場面、順番の表現を学ぶ	物事の場面、時点、順番などを追って説明、報告、伝達できるようになる	
第 9 回	テキスト第九課 物事を順序だてて説明する表現を学ぶ	上手な読み、文外に隠れている話者、筆者の理解ができるようになる	
第 10 回	テキスト第十課 場面や時点を表す表現の理解を学ぶ	場面や時点を表す重要な文型と表現の的確な理解と文の中で使えるようになる	
第 11 回	テキスト第十一課 立場を表す表現・語彙を学ぶ	条件や仮設を的確にし、その結果を上手に説明できるようになる	
第 12 回	テキスト第十二課 物事を部分的に否定する表現を学ぶ	否定の仕方の重要な文型と表現を理解するだけでなく使えるようになる	
第 13 回	テキスト第十三課 自分の立場を理解してもらう表現を学ぶ	一方的な主張でなく相手にも自分の立場を理解してもらえよう日本語力を身に付ける	
第 14 回	テキスト第十四課 人の描写の表現を学ぶ	自分や友人、家族などを例を挙げてわかりやすく説明できるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	試験準備は怠りなく、できるだけいい評価をしてもらえよう準備する

科目名	日本語総合 J		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseJ				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	本クラスでは、日本語能力試験対策を行いながら、日常生活に必須の日本語を学んでいく。特に漢字、語彙、読解を中心に学び、学生の日本語力を養う。授業は毎回教師作成の対策プリントで演習、解説をしながら進めていきたい。学生一人ひとりに問いかけながら、コミュニケーション力、考える力を養成していく。				
授業の目標	1) 能力試験 N3 レベルの漢字が読めるようになる。2) 能力試験 N3 レベルの語彙力が使えるようになる 3) 能力試験 N3 レベルの文章が理解できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	本クラスでは復習を大切にする。授業で実施したプリントを自宅でしっかり復習しておくこと (100 分)				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	授業参加度 20%、期末テスト 60%、小課題 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的な態度で参加すること。復習は欠かせない。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション、レベル チェックテスト	自分の日本語力を理解する。	プリントの復習 100 分
第 2 回	漢字 (1) 道や車の漢字 語彙 (1) 家の中の語彙 読解 (1) お知らせを読む。	外で見かける漢字が読める。家事で使う語彙が理解できる。お知らせ文が読んで理解できる。	プリントの復習 100 分
第 3 回	漢字 (2) 駅や電車の漢字 語彙 (2) 家事の語彙 読解 (2) 案内文を読む。	駅や電車の漢字が読める。洗濯や掃除に関する語彙が理解できる。案内文が読んで理解できる。	プリントの復習 100 分
第 4 回	漢字 (3) レストランの漢字 語彙 (3) 電車や車の語彙 読解 (3) カタログを読む	レストランの漢字が読める。電車や車の語彙が理解できる。カタログが読める。	プリントの復習 100 分
第 5 回	漢字 (4) 病院の漢字 語彙 (4) 用事の語彙 読解 (4) 説明書を読む	病院の漢字が読める。銀行や役所の語彙が理解できる。説明書が読める。	プリントの復習 100 分
第 6 回	漢字 (5) 買い物の漢字 語彙 (5) 買い物の語彙 読解 (5) メール文を読む	買い物の漢字や語彙が理解できる。メール文が読める。メール文が書ける。	プリントの復習 100 分
第 7 回	漢字 (6) 電話、コピーの漢字 語彙 (6) 食事、お酒の語彙 読解 (6) ビジネスレターを読む	通信機関の漢字が読める。レストランの語彙が理解できる。ビジネス関係の文書が読める。	プリントの復習 100 分
第 8 回	漢字 (7) 日用品の漢字 語彙 (7) 学校の語彙 読解 (7) 新聞を読む	日用品の漢字が読める。学校関係の語彙が理解できる。新聞の読み方がわかる。	プリントの復習 100 分
第 9 回	漢字 (8) 通信販売の漢字 語彙 (8) パソコン・メールの語彙 読解 (8) 日記を読む	通信販売に関わる漢字が読める。インターネット関係の語彙が理解できる。日記文が読める。	プリントの復習 100 分
第 10 回	漢字 (9) メール 語彙 (9) 他者との関係を表す語彙 読解 (9) 小説①	メールに使う漢字が読める。他者との関係性を表す語彙が理解できる。簡単な小説が読める。	プリントの復習 100 分
第 11 回	漢字 (10) 問診票の漢字 語彙 (10) 性格を表す語彙 読解 (10) 小説②	問診票の漢字が読める。性格を表す語彙が理解できる。簡単な小説が読める。	プリントの復習 100 分
第 12 回	漢字 (11) 天気予報の漢字 語彙 (11) 体調を表す語彙 読解 (11) 意見文を読む	天気予報に出る漢字が読める。体調を表す語彙が理解できる。意見文を読み、意見が言える。	プリントの復習 100 分
第 13 回	漢字 (12) スポーツ記事の漢字 語彙 (12) 組み合わせの語彙 読解 (12) 新聞を読む	スポーツ記事の漢字が読める。複雑な語彙が理解できる。新聞の大意が取れる。	プリントの復習 100 分
第 14 回	漢字 (13) 地球温暖化の漢字 語彙 (13) 意味が複数の語彙 読解 (13) 論説文を読む	社会問題の漢字が読める。複雑な語彙が理解できる。論説文を読み大意が理解できる。	プリントの復習 100 分
第 15 回	まとめと解説	今まで学習した内容が理解でき使える。	プリントの復習 100 分

科目名	日本語総合K		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseK				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	中級レベルの学習をテキストを使用しながら授業を行う。内容としては初中級から引き続き高等な書き言葉、改まった日本語表現を 6000 から 8000 の修得を目標とする。またそれに合ったレベルの文章も書けることを目標とする。				
授業の目標	中級レベルの学習をテキストを使用しながら授業を行う。内容としては初中級から引き続き高等な書き言葉、改まった日本語表現を 6000 から 8000 の修得を目標とする。またそれに合ったレベルの文章も書けることを目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	テキストに出てくる語彙や表現の意味確認などその数も増えるので 30 分から 1 時間程度の予習をして授業に参加することを前提とした授業をする。また、将来日本での就職の計画の中に入れ、N2 レベルから N1 レベルの学習も視野にいれ復習も必要である。				
教科書・教材	教科書	学ぼう！にほんご中級 専門教育出版編			
	教材				
	使用設備・備品	パソコンで文型作文を入力することもある			
	参考文献				
評価方法	授業への参画度とくにユニークな作文、ストーリー展開などに重点を置き、平常を全体の 40%、期末試験を 60%で全体を評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中のケータイ、スマホは厳禁				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	第一課 感激や驚きの表現を学ぶ	感情表現を豊かに伝達・表情に表せるとともに言葉でも表現できるようになる	授業オリエンテーションをする。特に予習に 90 分、復習にも 90 分から 120 分かけ完璧なものにすること
第 2 回	第二課 意志や決心の表現を学ぶ	感情表現プラス意志や決心も表現できるようになる	
第 3 回	第三課 衝動の表現を学ぶ	衝動的になったときの口に出す日本語ができるようになる	
第 4 回	第四課 結果から原因を予測したり決定したりする表現を学ぶ	原因や理由をその結果から説明、伝達、報告できるようになる	
第 5 回	第五課 「できない」という表現でなく否定ができる表現を学ぶ	言にくい事柄や否定をうまく伝えられるようになる	
第 6 回	第六課 物事の対象を明確に示す表現を学ぶ	物事の対象やその指示を的確に表現できるようになる	
第 7 回	第七課 物事の最中の表現を学ぶ	物事の最中のことを的確に伝達できるようになる	
第 8 回	第八課 物事の場面や時点、順番を表す表現を学ぶ	物事の場面、時点、順番などを追って説明、報告、伝達できるようになる	
第 9 回	第九課 物事を順番に説明する表現を学ぶ	上手な読み、文外に隠れている話者、筆者の理解ができるようになる	
第 10 回	第十課 物事の事前準備の表現を学ぶ	事前に準備しておく表現ができ、伝えられるようになる	
第 11 回	第十一課 発言者や話者の立場を表す表現を学ぶ	条件や仮設を的確にし、その結果を上手に説明できるようになる	
第 12 回	第十二課 物事の部分否定の表現を学ぶ	対立の解決のために相手を説得する表現を身に付ける	
第 13 回	第十三課 逆説の表現を学ぶ	逆説の表現の重要な文型と表現を学び理解だけでない使えるようになる	
第 14 回	第十四課 条件を仮定しその結果について表す表現文を学ぶ	条件と結果を表す表現文型を学ぶ、理解とともに使えるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	試験で高く評価してもらえることが期待できるように時間をかけ準備をする

科目名	日本語総合M		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseM				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	インフォーマルな会話での丁寧な会話や親近感を与える会話などTPOやノンバーバルな要因も含めたコミュニケーション力を養う。				
授業の目標	友人同士でもフォーマルな話の場合の話し方、親近感を持つためぐち的な話し方など日常生活に欠かせない中級から上級会話ができるようになる				
時間外学習 (予習・復習)	予習復習には 90 分から 120 分かけ、日常生活の中からの場面の理解と整理とメモなどに十分力点をおくこと				
教科書・教材	教科書	ロールプレイで学ぶ「中級から上級への日本語会話」			
	教材				
	使用設備・備品	PC (PowerPoint) を見せる。			
	参考文献				
評価方法	授業態度や参画度、提出物の評価など平常点は全体の 20%、期末の試験の結果が 80%の割合で総合評価をする。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中、辞書として携帯使用は認めるが、それ以外で使用了場合は授業の妨害とみなし、内申点のマイナスとする。 テキストを忘れた場合も内申点マイナスとみなす				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業オリエンテーション	授業の内容、守ってほしいマナー、評価の方法などのオリテで15回の授業の把握ができる	
第2回	1課 ロールプレイの前に ユニット1 ロールプレイ①～③を学ぶ	ロールプレイの内容を理解し ロールプレイを作成できること。	
第3回	1課の復習と勉強の方法の再確認	初級で出来るロールプレイ作文とその発表・評価とコメント	
第4回	1課 ユニット1	この課でテーマとトピクスを理解し、ロールプレイ文の作成と発表・	
第5回	2課 ユニット2	ロールプレイを作成できて、会話のディクテーション、文法を学ぶ	
第6回	3課 ユニット3	インフォーマルな会話とフォーマルな会話の違いがわかる	
第7回	4課 ユニット4	インフォーマルな会話とノンバーバルの理解とスキルが分かる	
第8回	5課 ユニット5	インフォーマルな会話の中でも丁寧な言い方へ切り替えができる	
第9回	6課 ユニット6	フォーマルな会話とノンバーバルの理解とスキルがわかる	
第10回	7課 ユニット7	伝えたいことをフォーマルなロールプレイ文で作成、発表と評価・コメント	
第11回	8課 ユニット8	フォーマルな会話の中での親近感を持った会話のロールプレイ文の作成と発表・評価	
第12回	9課 ユニット9	歓迎会などでのあいさつの仕方	
第13回	10課 ユニット10	送別会など送られるときのあいさつができるようになる	
第14回	11課 ユニット11	大勢の前でのスピーチができるようになる	
第15回	まとめ	試験についてまとめておく	試験対策と準備

科目名	日本語総合 N		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseN				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	前期の日本語総合 F を継続して授業を行う。特に後期は会話をペアワークで行う。テキストから会話の内容の把握、次にその中の重要表現で場面、特に上下関係や友人関係などの話し方の違いと使い分けを認知でき、自分のスキルにもする				
授業の目標	ペアでロールプレイしながら、日本人の会話の特徴である上下関係や、話の内容から友人関係でも丁寧さを持って話すなど、会話の態が理解でき、なめらかな会話ができるようになる				
時間外学習 (予習・復習)	テキストに出てくる語彙や表現の意味確認などその数も増えるので 30 分から 1 時間程度の予習をして授業に参加することを前提とした授業をする。また、将来日本での就職の計画の中に入れ、N2 レベルから N1 レベルの学習も視野にいれ復習も必要である。				
教科書・教材	教科書	聴いて覚える話し方「日本語生中継」初中級編			
	教材				
	使用設備・備品	パソコン (PowerPoint) を使用			
	参考文献				
評価方法	授業への参画度とくにユニークな作文、ストーリー展開などに重点を置き、平常を全体の 40%、期末試験を 60% で全体を評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中のケータイ、スマホは厳禁				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	後期オリテ 前期テストの再確認	前期試験の間違ひの多かった点の指摘から自己モニターし再認知ができる	オリエンテーションをする。予習に 90 分、復習にも 90 分かけること
第 2 回	テキスト 5 課 (1) 前期の復習	復習からさらに流暢な日本語の会話ができるようになる	
第 3 回	テキスト 5 課 (2) 重要表現と練習問題	練習問題の完成と発表 表現力が豊かになる	
第 4 回	テキスト 5 課 ロールプレイ文の作成と発表	場面にあった会話文が作成でき、発表できる	
第 5 回	テキスト 6 課 ウォーミングアップ・ボンとリスニングを学ぶ	ウォーミング問題のタスクと確認で自己モニターできるようにする	
第 6 回	テキスト 6 課 重要表現と練習問題	練習問題の完成と発表 表現をさらに一歩上げる	
第 7 回	テキスト 6 課 ロールプレイ文の作成と発表	場面や状況にあった語彙の選択や表現の選択ができるようになる	
第 8 回	テキスト 7 課 ウォーミングアップ・ポイントリスニング	ウォーミング問題のタスクと確認で自己モニターできるようにする	
第 9 回	テキスト 7 課 重要表現・練習問題	練習問題の完成と発表 表現力をさらに豊かに身につけられる	
第 10 回	テキスト 7 課 ロールプレイ文の作成と発表	ロールプレイ文の作成と作成と発表しグループで評価とさらに発展を考えられること	
第 11 回	テキスト 8 課 ウォーミングアップとポイントリスニング	ウォーミングアップ問題とポイントリスニングで自己モニターしながら内容の推測ができる	
第 12 回	テキスト 8 課 重要表現と練習問題	練習問題の完成で語彙や表現を確認し、実際の場面で使えるようになる	
第 13 回	テキスト 8 課 ロールプレイ文の作成と発表	ロールプレイ文の作成と作成と発表しグループで評価とさらに発展を考えられること	
第 14 回	先生に指示されたトピックスでロールプレイ文の作成と発表	制限時間内に会話のロールプレイができるよう短時間でポイントを把握できるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	期末試験でも高い評価を期待しその準備には十分時間をかけ試験に臨むこと

科目名 Subject	日本語総合Ⅰ General JapaneseⅠ		教員名	日本語チーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	この科目は一年生のときの作文の授業で勉強したことに引き続き、文章を書くときの日本語の決まりや文体、文法表現、適切な語彙や不適切な語彙など内容に合わせた的確な表現やさらに上級の文章が書けるように学習する。				
授業の目標	辞書なしで日本語で自分の考え、意見、感想、提案などが書けるようになる。また、グループで評価し合え、コメントやディスカッションなどもできるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	作文の授業は1年生のときと同様に、授業にきてから考えるのではなく予習ではテーマに沿って何を書くのか考え下書きくらいはしておくこと。復習では添削や他の人のアイデアなどを検討しさらにいい文章を書くにはどうしたらいいか考える時間を作ること。予習にも復習にの90分から120分はかけてほしい。				
教科書・教材	教科書	授業中にプリントを配布します			
	教材				
	使用設備・備品	P C使用する場合があります。			
	参考文献				
評価方法	平常時の提出分の内容と回数で40%、期末試験で50%、普段の努力度で10%の割合で80以上はA、70から79まではB、60から69はC、それ以下はDで不可です。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	テーマやトピックスについて、事前情報をきちんと収集してから出席してください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	テーマ「自分を知る、知ってもらう」(1)	400 字で自己 PR とグループでの話し合い フィードバック構成と段落が明解にわかる	
第 2 回	テーマ「自分を知る、知ってもらう」(2)	前回のフィードバックと構成段落、文体と書き言葉のチェックと清書	
第 3 回	テーマ「私の専門」(1)	普通態と丁寧体で「自分の専門」を 200 字でまとめ、その内容のニュアンスの違いがわかる	
第 4 回	テーマ「私の専門」(2)	前回のフィードバック自分で気がついたことをグループ内で話し合いと発表	
第 5 回	テーマ「人間関係」(1)	人間関係をテーマにグループで話し合いから自分の考えをまとめてメモにできる	
第 6 回	テーマ「人間関係」(2)	人間関係のメモから 500 字の作文にトライ	
第 7 回	テーマ「人間関係」(3)	人間関係の清書と中間評価これまでの振り返りと自分で上達度の評価	
第 8 回	ディベート「長期休暇の宿題」	ディベートの目的とやり方のイントロ 特に理由や根拠の明確化ができるようになる	
第 9 回	テーマ「長期休暇の宿題の賛否」	前回は土台に 400 字の作文明確なみんなが納得できる理由や根拠を確認できる	
第 10 回	テーマ「私の国の有名な人」	自分の国の有名人の紹介紹介の理由や根拠の理解とその内容がグループで話し合えるようになる	
第 11 回	テーマ「学校行事」(1)	時間内で下書きから清書までできる	
第 12 回	テーマ「学校行事」(2)	自分の清書を見ながら発表と質疑 さらに友だちのアドバイスで補完、訂正タスク	
第 13 回	テーマ「語学学習」(1)	英語をテーマに第二言語の学習の開始時、幼少か少年期かについて討議から下書き	
第 14 回	テーマ「語学学習」(2)	下書きから清書へ 清書から発表	
第 15 回	後期のフィードバック	前期の総まとめと総復習	

科目名	日本語総合 P		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseP				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	中級中期の学習の学習をテキスト「中級を学ぼう 中級中期」を使用し授業を進める。レベルとしては日本語能力試験 N 2、N 1 レベルで、文法表現、文字語彙、聴解、速読といった総合的には学習をする。				
授業の目標	日本語中級で要求されている表現知識が身につく、それを自由自在に使えるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	日本語能力試験 N 2、N 1 レベルの学習であるから予習と復習にはそれぞれ 90 分から 120 分はかけ、学習したことをしっかり覚えること				
教科書・教材	教科書	中級を学ぼう スリーエーワーク編			
	教材				
	使用設備・備品	パソコン パソコンで文章作成をすることもあります。			
	参考文献				
評価方法	普段の学習態度や参画度、提出物の良しあしで 20%、期末試験の成果で 80%で総合評価する				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	スマホの使用は禁止する。違反した場合には預かる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	第一課 テーマ「色」本文精読 文法表現	色についての内容に答えられる	
第2回	第二課 テーマ「ユーモア・ジョーク」本文精読 文法表現	ユーモアやジョークについて本文内容の質問に答えられる	
第3回	第三課 テーマ「制服」についての本文精読と文法表現	制服の役割や制服の意味についてディスカッションができる 意見がまとめられる	
第4回	第四課 テーマ「算数と物事のプロセス」についての本文精読と文法表現	結果とプロセスについて本文の内容の質疑ができる	
第5回	第五課 テーマ「遊びと運動」についての本文精読と文法表現	子どもの遊びの意味の本文精読とその意義についてディスカッションできる	
第6回	第六課 テーマ「古くなったお金」についての本文精読と文法表現	お金の墓場とリサイクルの内容について質疑とまとめができる	
第7回	第七課 テーマ「水」についての本文精読と文法表現	水の問題について内容精読と質疑、ディスカッションができる	
第8回	第八課 遺伝についての本文精読と文法表現	血液型の不思議を本文で精読し、質疑とディスカッションができる	
第9回	第九課（1）テーマ「アニメと本」について本文精読	本文の内容チェックを中心にアニメについて再考できる	
第10回	第九課（2）テーマ「アニメ」について表現文型と短文読解	能力試験レベルN1の文型や語彙が理解できる	
第11回	第九課（3）聴解1 読み物「生命にとって水とは何か」	能力試験N1の聴解、読解ができる	
第12回	第十課（1）テーマ「ヒトと動物について」本文精読	本文が理解でき、質疑ができる	
第13回	第十課（2）テーマ「ヒトと動物」について表現文型と短文読解	学習した表現文型をつかった短文の質問に答えられる	
第14回	第十課（3）テーマ「ヒトと動物」について 聴解と読み物読解	この課のまとめの聴解ができ読み物を読み、質疑ができる	
第15回	15回の総まとめと試験対策	まとめと期末試験対策	

科目名	日本語総合Q		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseQ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	中級中期の学習の学習をテキスト「中級を学ぼう 中級中期」を使用し授業を進める。レベルとしては日本語能力試験N2、N1レベルで、文法表現、文字語彙、聴解、速読といった総合的に学習をする。				
授業の目標	日本語中級で要求されている表現知識が身につく、それを自由自在に使えるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	日本語能力試験N2、N1レベルの学習であるから予習と復習にはそれぞれ 90 分から 120 分はかけ、学習したことをしっかり覚えること				
教科書・教材	教科書	中級を学ぼう スリーエーワーク編			
	教材				
	使用設備・備品	パソコン パソコンで文章作成をすることもあります。			
	参考文献				
評価方法	普段の学習態度や参画度、提出物の良しあしで 20%、期末試験の成果で 80%で総合評価する				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	スマホの使用は禁止する。違反した場合には預かる場合もある。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	第一課 テーマ「色」本文精読 文法表現	色に関する聴解・作文・読解ができるようになる	
第 2 回	第二課 テーマ「ユーモア・ジョーク」本文精読 文法表現	ユーモア・ジョークに関する聴解・作文・読解ができるようになる	
第 3 回	第三課 テーマ「制服」についての本文精読と文法表現	制服に関する聴解・作文・読解ができるようになる	
第 4 回	第四課 テーマ「算数と物事のプロセス」についての本文精読と文法表現	条件からプロセスが理解できる聴解・作文・読解ができるようになる	
第 5 回	第五課 テーマ「遊びと運動」についての本文精読と文法表現	遊びが子供に与える効果についての聴解・作文・読解ができるようになる	
第 6 回	第六課 テーマ「古くなったお金」についての本文精読と文法表現	おれもリサイクルについて聴解・作文・読解ができるようになる	
第 7 回	第七課(1) テーマ「水」をテーマにプレゼンテーション	むだづかいについてのグループでのプレの準備 資料を集める(グループ活動)	
第 8 回	第七課(2) プレゼンテーションの準備 発表の原稿を書く	テーマの沿ったプレゼンテーションの原稿を協力試合完成できる	
第 9 回	第七課(3) プレゼンテーション	調べたことをグループでまとめ発表できる	
第 10 回	第八課 この課の聴解・作文・読解ができるようになる	能力試験レベルN1の文型や語彙が理解できる	
第 11 回	第九課 関連読み物の要約と発表	要点をまとめ発表できるようになる	
第 12 回	第十課(1) ヒトと動物のちがいは 情報伝達	情報の伝達についてヒトと動物、ヒトの声伝達と文字伝達の発表	
第 13 回	第十課(2) ヒトと動物の聴解問題から要点の整理と発表	聴解から理解発表の原稿を作りプレゼンテーションができる	
第 14 回	第十課(3) ヒトと動物 テーマ作文と発表	ヒトの能力である言葉をテーマに時間内作文とその提出	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	まとめと期末試験対策	

科目名	日本語総合 R		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseR				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	入力の練習のための授業。アルファベットを使って入力できない留学生を対象に行う。この授業ではインターネットのアプリケーション「e-typing」を使用する。ここで、キーボードでブラインドタッチができるようにする。又、レポートを書く場合に備えてこの授業を実施する。基礎編から応用編まである。すべて、練習した後ミニテスト（1 分）がある。ミニテストは 150 ポイントとすることが条件。150 ポイントを取ると次のレベルに行ける。最終的には長文のビジネス編とスタディ編があるのでそこまで進めていく予定。。よくできる学生にはアシスタントとして手伝ってもらう可能性あり。				
授業の目標	ブラインドタッチができるようにすること。その上で、キーボードの指の置き方、タイプの仕方、アルファベットで五十音を入力することから応用で長文問題ができること。 すべてのレベルでミニテストがあるので必ず 150 ポイント以上とること、その後は応用問題に入り、ビジネス編とスタディ編があるのでそこまで到達できること。				
時間外学習 （予習・復習）	日本語でパソコン入力するには、日本語の文章を暗記するくらい覚えていることが必須になる。予習で事前に配布されたプリントを覚えてくること。また復習では難しかった点、間違ったことを確認し、改善を考え、実行できるように 90 分はかけること				
教科書・教材	教科書	毎回プリント配布			
	教材				
	使用設備・備品	PC			
	参考文献	https://www.e-typing.ne.jp			
評価方法	普段の学習態度や参画度、提出物の良しあしで 20%、期末試験の成果で 80%で総合評価する				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	携帯使用禁止。授業中に e-typing 以外のインターネットを見ることも禁止				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	e-typing を使用するために、登録を行う。登録できたらこそ練習	登録に e-mail アドレスとパスワードが必要。それができたら「基礎練習」にはいる	email アドレスを持っていない生徒がいるので用意すること。またパスワードも用意する必要がある。
第 2 回	(1) 基礎練習 (2) キー表示の読み方 練習 1 A-Z まで、	e-typing の使い方の説明。日本がわからない生徒がいるのでペアを組んでもらう。	パスワードを忘れる生徒が多いので、必ず紙に書いて持ってくる。自分でパソコンを立ち上げて練習してること。
第 3 回	(1) 基礎練習 (2) 練習 1・2	スコアが 100 ポイント行くまで練習。終わったらミニテスト	右手と左手に分かれてキーボードのポジションを覚えること。100 ポイント行っても続ける。
第 4 回	(1) 基礎練習 (2) 練習 3・4	スコアが 100 ポイント行くまで練習。終わったらミニテスト	上下ランダムに打てるようにすること。この最後のテストは 150 ポイントできるまで行う。
第 5 回	(1) 基本練習-1 (2) 50 音	この 50 音では 50 音ができたら、2 文、3 文、4 文、ミニテストと進む。	ここからは、学生によって入力の差が出るので、できる生徒にはアシスタントになってもらう。50 音を入力できる事
第 6 回	(1) 基本練習-2 (2) 50 音	この 50 音では 50 音ができたら、2 文、3 文、4 文、ミニテストと進む。	最後のミニテストは 150 ポイントとすること。
第 7 回	(1) 基本練習-3 (2) 濁音・半濁音・拗音・促音・長音	ここでは、濁音から長音まで入力の練習。ミニテストは難しいので練習。	最後のミニテストは 150 ポイントとすること。
第 8 回	(1) 基本練習-4 (2) 濁音・半濁音・拗音・促音・長音・ん	ここでは、濁音から長音まで入力の練習。ミニテストは難しいので練習。	最後のミニテストは 150 ポイントとすること。
第 9 回	(1) 応用問題-1 (2) 短文練習	短文練習は 5 文字～15 字まであるので練習。	ミニテストはないが正解率 95%にすること。
第 10 回	(1) 応用問題-2 (2) 長文問題	昔話から名作までである。これは長文なので早く打てないと次の問題にいけない。	正解率 95%にすること
第 11 回	(1) 応用問題-3 (2) 長文問題	昔話から名作までである。これは長文なので早く打てないと次の問題にいけない。	正解率 95%にすること
第 12 回	(1) タイピングバラエティ (2) ビジネス-1	ここでは、就職面接の質問、ビジネス格言、プレゼンの基本まで行うこと	正解率 95%にすること
第 13 回	(1) タイピングバラエティ (2) ビジネス-2	敬語 1、敬語 2、季節の挨拶など難易度が上がるので間違えないで入力すること	正解率 95%にすること
第 14 回	(1) タイピングバラエティ (2) スタディー-1	ここでは、熟語漢字、四字熟語があるので練習すること	正解率 95%にすること
第 15 回	(1) タイピングバラエティ (2) スタディー-1	ここでは、都道府県、世界の国名、日本史年号、関市人物などを入力	正解率 95%にすること

科目名	日本語総合 S		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseS				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	本クラスでは、日本語能力試験対策を行いながら、日常生活に必須の日本語を学んでいく。特に漢字、語彙、読解を中心に学び、学生の日本語力を養う。授業は毎回教師作成の対策プリントで演習、解説をしながら進めていきたい。学生一人ひとりに問いかけながら、コミュニケーション力、考える力を養成していく。				
授業の目標	1) 能力試験 N2 レベルの漢字が読めるようになる。2) 能力試験 N2 レベルの語彙力が使えるようになる 3) 能力試験 N2 レベルの文章が理解できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	本クラスでは復習を大切にする。授業で実施したプリントを自宅でしっかり復習してくること (100 分)				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	授業参加度 20%、期末テスト 60%、小課題 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的な態度で参加すること。復習は欠かせない。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション、レベル チェックテスト	自分の日本語力を理解する。	プリントの復習 100 分
第 2 回	漢字 (1) 道や車の漢字 語彙 (1) 家の中の語彙 読解 (1) お知らせを読む。	外で見かける漢字が読める。家事で使う語彙が理解できる。お知らせ文が読んで理解できる。	プリントの復習 100 分
第 3 回	漢字 (2) 駅や電車の漢字 語彙 (2) 家事の語彙 読解 (2) 案内文を読む。	駅や電車の漢字が読める。洗濯や掃除に関する語彙が理解できる。案内文が読んで理解できる。	プリントの復習 100 分
第 4 回	漢字 (3) レストランの漢字 語彙 (3) 電車や車の語彙 読解 (3) カタログを読む	レストランの漢字が読める。電車や車の語彙が理解できる。カタログが読める。	プリントの復習 100 分
第 5 回	漢字 (4) 病院の漢字 語彙 (4) 用事の語彙 読解 (4) 説明書を読む	病院の漢字が読める。銀行や役所の語彙が理解できる。説明書が読める。	プリントの復習 100 分
第 6 回	漢字 (5) 買い物の漢字 語彙 (5) 買い物の語彙 読解 (5) メール文を読む	買い物の漢字や語彙が理解できる。メール文が読める。メール文が書ける。	プリントの復習 100 分
第 7 回	漢字 (6) 電話、コピーの漢字 語彙 (6) 食事、お酒の語彙 読解 (6) ビジネスレターを読む	通信機関の漢字が読める。レストランの語彙が理解できる。ビジネス関係の文書が読める。	プリントの復習 100 分
第 8 回	漢字 (7) 日用品の漢字 語彙 (7) 学校の語彙 読解 (7) 新聞を読む	日用品の漢字が読める。学校関係の語彙が理解できる。新聞の読み方がわかる。	プリントの復習 100 分
第 9 回	漢字 (8) 通信販売の漢字 語彙 (8) パソコン・メールの語彙 読解 (8) 日記を読む	通信販売に関わる漢字が読める。インターネット関係の語彙が理解できる。日記文が読める。	プリントの復習 100 分
第 10 回	漢字 (9) メール漢字 語彙 (9) 他者との関係を表す語彙 読解 (9) 小説①	メールに使う漢字が読める・他者との関係性を表す語彙が理解できる・簡単な小説が読める。	プリントの復習 100 分
第 11 回	漢字 (10) 問診票の漢字 語彙 (10) 性格を表す語彙 読解 (10) 小説②	問診票の漢字が読める。性格を表す語彙が理解できる。簡単な小説が読める。	プリントの復習 100 分
第 12 回	漢字 (11) 天気予報の漢字 語彙 (11) 体調を表す語彙 読解 (11) 意見文を読む	天気予報に出る漢字が読める。体調を表す語彙が理解できる。意見文を読み、意見が言える。	プリントの復習 100 分
第 13 回	漢字 (12) スポーツ記事の漢字 語彙 (12) 組み合わせの語彙 読解 (12) 新聞を読む	スポーツ記事の漢字が読める。複雑な語彙が理解できる。新聞の大意が取れる。	プリントの復習 100 分
第 14 回	漢字 (13) 地球温暖化の漢字 語彙 (13) 意味が複数の語彙 読解 (13) 論説文を読む	社会問題の漢字が読める。複雑な語彙が理解できる。論説文を読み大意が理解できる。	プリントの復習 100 分
第 15 回	まとめと解説	今まで学習した内容を理解し使える。	プリントの復習 100 分

科目名	日本語総合Ⅰ		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseⅠ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	日常の会話を中心にしたコミュニケーションの上手な取り方について学習する。見えない相手とのコミュニケーションの取り方、日本人との付き合い方で家庭を訪問したとき、話をはずませるにはどうしたらいいか。特に自分の国のことを聞かれた時の対処のしかたを学ぶ。それから日常の緊急時の対処の仕方、特に近隣の人との情報の交換なども学習する。				
授業の目標	日常の会話の中でも最も大切なことができるようになる。電話のような見えない相手とのやりとり、家庭を訪問したときの話のかずませかた、緊急時の連絡や近隣との情報のやり取りの仕方なども学び、実際にできるようになることが目標である。				
時間外学習 (予習・復習)	各授業の最後には次週にすることを伝えます。その準備が宿題になります。場面やそこでどんな言葉が必要か考えたりメモしたり調べたりするのに 90 分は最低必要です。また、授業のあとでも、勉強したことをもう一度復習して知識だけでなく表現を使えるようにしてください。それにも 90 分から 120 分はかけてください。				
教科書・教材	教科書	毎回プリントで授業をします			
	教材				
	使用設備・備品	パソコンを使って文章化したりパワーポイントなどでも使います			
	参考文献				
評価方法	平常点として授業への参画を 50%、期末試験の評価を 50%の総合評価で 80 以上は A, 70 から 79 は B、60 から 69 は C, それ以下は D で不可とする。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	スマホの使用は禁止				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	電話での問い合わせ（１）	見えない相手とのコミュニケーションがスムーズにできるようになる	
第 2 回	電話での問い合わせ（２）	上手な問い合わせの手順と整理の仕方ができる	
第 3 回	電話での問い合わせ（３）	グループに分かれ問い合わせのモデルを作り検討する	
第 4 回	電話での問い合わせ（４）	モデルケースで練習しフリーコールに電話して実際に問い合わせをする	
第 5 回	日本人の家を訪問する（１）	どんな相手とどんな会話をするか想定し、スクリプトを痛み検討する	
第 6 回	日本人の家を訪問する（２）	想定会話を練習し、発表する	
第 7 回	地震から身を守る（１）	大まかなことをテキストで確認すし、グループで話し合い	
第 8 回	地震から身を守る（２）	グループに分かれ、実際に大きな地震に備えておくことや起きた場合はどこに避難するか確認する	
第 9 回	地震から身を守る（３）	身の守り方をグループで話し合い、発表できるように準備する	
第 10 回	地震から身を守る（４）	聴衆（別科の学生）にパワーポイントを使ってデモ	
第 11 回	地震から身を守る（５）	地震から身を守るの振り返りビデオ撮影の映像をみながらよかった点、改善点の話し合い	
第 12 回	自分の国の紹介（１）	日本人から自分の国についてどんなことを質問されるか考え、その答えの準備	
第 13 回	自分の国の紹介（２）	説明文の作成とグループで必要な情報の補完 説明文の添削とパワーポイントの準備	
第 14 回	自分の国の紹介（３）	聴衆（別科の学生）にパワーポイントを使ってデモ	
第 15 回	後期の授業の振り返り	良かった点と改善点の話し合い	

科目名	日本語総合Ⅱ		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseⅡ				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	自分自身の知識や想像力を積極的に使って、話の内容や書かれている状況などをイメージすることができるようになる授業をする。				
授業の目標	自分の知識や経験、想像力を積極的に使い辞書なしで、意味を中心に読解できるようになることを目標として授業を進めていく。想像力がつき、テーマからいろいろな想像ができ、またその上に創造できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習ではテーマや場面を中心に自分でも同じようなことを経験していないか考え、その上で分からない言葉を調べ、まとめておくこと。復習では間違っことを復習でもう一度確認して、覚えること。特に想像してみましょうのタスクで、再度自分の想像とクラスでの発表の違いをモニターすること。予習 90 分、復習に 120 分くらい使い、力をつけること				
教科書・教材	教科書	授業の中で読解問題を配布する			
	教材	なし			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献				
評価方法	授業へ取り組みを重視する。評価点の 30%を平常評価とする。残りの 70%を期末試験の結果で評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	スマホ、ケータイの使用は辞書機能の使用を含め禁止する。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	授業内容オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方のオリテの他にクローズなどの練習もし、実際の授業準備	
第 2 回	禁酒	短いストーリーだが自分の経験から場面や面白さがわかる	
第 3 回	何月何日生まれましたか	耳からの情報(足し算・引き算・掛け算)で自分の誕生日を出す(知識と聴解問題)	
第 4 回	話し合いなど作業と効果的な座る位置	心理学の話 自分の知識で問題を解き、モニターできる	
第 5 回	オムレツを作る	オムレツの作り方とその詩を読み、内容の比較で理解が深まる	
第 6 回	米の料理法	米の炊き方の三つの例でその比較をし、多様さをモニターできる	
第 7 回	賢いお坊さん	ユーモアやウィットが理解でき、ユーモアに働きもモニターできる	
第 8 回	砂金の川	昔話の中から教訓の理解とそのモニターし昔話と教訓の関係が説明できる	
第 9 回	いちばん速いのは	一般的に考えられることを実際の違いを速さの比較からモニター	
第 10 回	いつもと違う	文字情報から書かれている違いと書かれていないいつもが引き出せる	
第 11 回	今日は何曜日	文字情報と知識とも駆使し、問題が解ける	
第 12 回	振り向き賃	異文化を体験するときの失敗談から自分の失敗談をその原因を追究できる	
第 13 回	みんなって何人	社会心理学の分野の読解が自分の経験で深く理解できる	
第 14 回	握手	握手というあいさつの意味を読解から理解できる	
第 15 回	総まとめ	総まとめと試験準備	

科目名	日本語総合Ⅴ		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseⅤ				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本語総合Ⅴ・Ⅵ・Ⅶは同一のテキストを使用し、関連、連動して日本語能力試験 N2, N1 の対策授業を行う。日本での就職や母国に帰って日経の企業で働きたいという学生のために対策授業を行う。N2、N1 の文法表現を中心に文字語彙、読解、聴解などの模擬試験形式で取り組み、試験形式になれることも学習する。				
授業の目標	日本での就職を考慮し、日本語能力試験 N2、N1 のレベルの学習をする。テキストで文法表現事項を徐々に高度な書き言葉、改まった表現を理解し、的確に自分でも表現する学習をする				
時間外学習 (予習・復習)	日本語能力試験に合格するには、教室での学習ではもちろん十分ではない。予習、復習以外に積極的に問題集などでも対策、準備をすること				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	授業へ取り組みを重視する。評価点の 30%を平常評価とする。残りの 70%を期末試験の結果で評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	スマホ、ケータイの使用は辞書機能の使用を含め禁止する。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	人材募集に絡む表現、語彙の学習	求人条件文が理解できるようになる	
第 2 回	改まった日本語表現（１）	改まった日本語で話ができるようになる	
第 3 回	改まった日本語表現（２）	改まった形であいさつしたりお礼が言えるようになる	
第 4 回	仕事上の日本語の学習	改まった場面での日本語の表現ができるようになる	
第 5 回	情報の伝達が的確にできる学習	天気予報や地震台風情報を的確に把握し伝達できるようになる	
第 6 回	就職活動（１）	就職活動によく出てくる語彙表現が理解できるようになる	
第 7 回	就職活動（２）	就職活動によく出てくる語彙表現が使えるようになる	
第 8 回	改まった場面で状況や状態を説明する学習	状況や場面で共感したり同情したり説明したりできる	
第 9 回	改まった場面での決意	改まった場面で理由やきっかけを含めて決意を表現できるように naru	
第 10 回	レポートや論説文に出てくる日本語表現（１）	経緯を説明しながら状況が理解できるようになる	
第 11 回	レポートや論説文に出てくる日本語表現（２）	レポートや論説文に出てくる表現が使えるようになる	
第 12 回	会社での接客日本語	ビジネス場面での応対敬語の理解と使えるようになる	
第 13 回	身近な人との会話（１）	友だちや会社では同僚との自然な会話ができるようになる	
第 14 回	身近な人との会話（２）	身近な人でも目上の人との自然な会話ができるようになる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	

科目名	日本語総合W		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseW				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	本クラスでは、就職に必要なビジネス日本語を学習する。主に就職活動に必要な日本語を学んでいく。また、就職後、日本で仕事ができるようになるための日本語も学習していく。授業では、課題達成、問題発見開発能力、異文化理解能力を養うためのタスクをこなしながら、日本語力の向上を目指す。				
授業の目標	1) エントリーシート等の就職のための提出書類を書くことができる。2) 面接で自己アピールができる。3) プレゼンテーションやディスカッションをすることができる。				
時間外学習 (予習・復習)	課題に取り組む時間が必要になる。予習 50 分。復習 50 分。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント使用			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション』近藤彩他 著、アブリコット出版、2012 年			
評価方法	平常点 30%、課題 20%、レポート 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。	予習として作文課題（90 分）
第 2 回	企業の求める人材を知る (1) 企業ガイダンスについて読み、話す。	企業ガイダンスの語彙と表現が理解できる。	復習 50 分、予習 50 分
第 3 回	企業の求める人材を知る (2) 企業ガイダンス（説明会）の内容を聞く。	企業ガイダンスを聞き、メモが取れる。	復習 50 分、予習 50 分
第 4 回	企業の求める人材を知る (3) 企業概要を読み、メモをする。	企業について、自分で調べることができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 5 回	エントリーシートを書く (1) メモする。	エントリーシートの内容を日本語でメモできる。	復習 50 分、予習 50 分
第 6 回	エントリーシートを書く (2) 全体を書く	エントリーシートの内容を日本語で記述できる。	復習 50 分、予習 50 分
第 7 回	エントリーシートを書く (3) 話し合う	エントリーシートの内容を協働で深められる。	復習 50 分、予習 50 分
第 8 回	エントリーシートを書く (4) 発表する	エントリーシートに書いたことを他者に向けて分かりやすく話すことができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 9 回	E-mail の書き方、敬語表現を学ぶ。	敬語を使って E-mail が書ける。	復習 50 分、予習 50 分
第 10 回	自己アピールをする (1) 自己アピールを聞いて考える。	他者の自己アピールを聞き取ることができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 11 回	自己アピールをする (2) 自己アピール文を書く。	自己アピール文を日本語で書くことができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 12 回	自己アピールをする (3)	自己アピールが話せる。自己評価ができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 13 回	自分の作品をプレゼンテーションする (1)	PPT でプレゼンテーションする方法を学ぶ。	復習 50 分、予習 50 分
第 14 回	自分の作品をプレゼンテーションする (2)	自分のプレゼンテーションができるようになる。	復習 50 分、予習 50 分
第 15 回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテーマが内省できる。	復習 50 分、予習 50 分

科目名	日本語総合 X		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseX				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	本クラスでは、相手に合わせたコミュニケーションについて学びます。具体的には様々な場面における敬語表現を学び、学内やアルバイト先、就職活動における話し方、聞き方を学びます。さらに、敬語だけではなく、様々な場面の待遇表現も学び、相手に合わせた話し方聞き方を自分で選択できるようにしていきます。				
授業の目標	(1) 敬語の基本が習得できる。(2) 様々な場面の待遇表現が習得できる。(3) 社会相手に合わせた話し方が習得できる。(4) ビジネス場面における話し方が理解できる。				
時間外学習 (予習・復習)	次回の授業内容について確認し理解しておくこと。また学習した日本語はできるかぎり忘れないように、練習しておくこと。各回予習 30 分。復習 30 分。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『日本語敬語トレーニング』金子広幸著アスク出版			
評価方法	平常点 20%、期末テスト 50%、提出物 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。尊敬語が使える。	尊敬語の復習。
第 2 回	訪問する	敬語全般について理解できる。	敬語の復習 30 分。予習 30 分。確認小テスト実施。
第 3 回	簡単に挨拶する	尊敬語が使える。	尊敬語予習 30 分。尊敬語復習。小テスト実施
第 4 回	誘う	敬語を使って誘うことができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 5 回	お願いする	敬語を使ってお願いすることができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 6 回	断る	敬語を使って断ることができる	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 7 回	申し出る	敬語を使って申し出ることができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 8 回	おわびする	敬語を使ってお詫びができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 9 回	意見を言う	敬語を使って自分の意見を言うことができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 10 回	予約を受ける	仕事先で、敬語を使って電話や店頭で予約を受けることができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 11 回	サービスの敬語	仕事先で、敬語を使ってお客から注文を受けることができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 12 回	相談を受ける	仕事先で、敬語を使ってお客から相談を受け対応できる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 13 回	面接を受ける	面接で、敬語が使える。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 14 回	電話の敬語	社内の者として敬語を使い、電話対応ができる。	尊敬語の予習 30 分。復習 30 分。小テスト実施
第 15 回	まとめ	全体の振り返りができる	全体の復習

科目名	日本語総合 Y		教員名	日本語チーム	
Subject	General JapaneseY				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本語総合 X と Y はそれぞれ関連、連携して「言語能力」「社会言語能力」「社会文化能力」というインターアクションの養成、デベロッパに取り組む。日本の社会で就職などで働く場を得たときに、必ず必要とされる能力であり、これを身につけることは必須条件といっても過言ではない。				
授業の目標	日本人との接触をスムーズにできるようになる。特に会話を自然に発展させたり、聞き返しによる内容を深めたりできるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	将来言葉だけで社会生活ができないという認識をもち、実際の生活の中で日本人に接する場面を授業前ににメモし、自分の取った行動や接した日本人の言動や行動を記録しておく。復習としては、自分の感じ方を再度振り返り、疑問からさらに発展させるため考えをまとめておく。予習に 30 分以上、復習にも同時間をかけ将来社会にでたときの心構えにする。				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	平常点として授業への積極的な参画の質を評価し全体の 40%、期末の筆記試験で 60%、そのトータルで総合評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	特にないが、日常感じたことをメモしておくこと				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	日本語で自己紹介をする	交流パーティーなどで日本人と友だちになるきっかけと会話をはずませれる	
第 2 回	メールで連絡する	フォーマルなメール文が作れる	
第 3 回	活動やイベントを見学する	メールによる申し込みや問い合わせができる	
第 4 回	友だちをおしゃべりをする	相槌や感嘆詞などでおしゃべりを豊かにすることができる	
第 5 回	話し合って何かを決める	話し相手の反応から自分の主張を伝えらえる	
第 6 回	電話で問い合わせ	電話で知りたい情報をとること、自分の条件に合わなかったときの対処ができる	
第 7 回	日本人の家を訪問する(1) 友人の家	友だちと友だちの家族との会話が自然にできる	
第 8 回	日本人の家を訪問する(2) あまり親しくない人の家を訪問する	やや改まったときの訪問のコミュニケーションができる	
第 9 回	日本語で面接を受ける(1) アルバイトの面接	面接の基本とインターアクションが理解でき実践できる	
第 10 回	日本語で面接を受ける(2) 就職試験の面接	就職試験の面接 どんな受け答えをするのかどんな準備が必要かわかり、実践できる	
第 11 回	自分の国について話す(1) 地理や気候などの説明	自国の位置、季節など簡単な会話ができて話をはずまれる	
第 12 回	自分の国について話す(2) 食生活について話す	食文化の違いに言及し、説明ができる	
第 13 回	自分の国について話す(3) 日本との違いについて話す	衣食住から日本と母国の違い疑問でおしゃべりができる	
第 14 回	お世話になった人に挨拶	お別れやお礼の挨拶を立場や関係の違いで言い換えられる	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	前期の総まとめと総復習	

科目名	異文化理解		教員名	河崎 峰子/遠藤 麻美子	
Subject	Cross-cultural Understanding				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	△	○	◎
科目の概要	グローバル時代と言われる今日、国際人として求められる要件は言語や世界共通のルール・マナー、他国の生活様式や価値観を理解し受容できることです。この授業では、異文化を比較し理解を深め、違う価値観を学び受容することで、国際人としての考え方を構築し、能動的な行動に移せる人材を輩出するよう、コミュニケーションスキルを意識しながら授業を展開していきます。また美歳学では、日本人の幼少期からの歳を重ねる美德も考えていきます。				
授業の目標	世界の国々の文化の違い（衣食住・宗教等）に理解を深め、それぞれの価値観の違いに着目することで、異文化間のコミュニケーションの重要性に気づくこと。 また、日本・海外問わず国際人として言語、非言語を使い、互いに理解を深める行動ができるよう国際人としての一般常識とコミュニケーション論を学び、習得することが目標です。				
時間外学習 （予習・復習）	異文化間コミュニケーションの単元では、「おもてなしマイスター」の資格取得を意識した予習復習をして下さい。知識習得確認のための小テストを授業内で数回実施しますので小テスト準備も行って下さい。毎授業のポイントの予習復習やグループワークを活性化する為、役割分担している部分の予習復習をしてください。（各回の予習復習は概ね 60 分から 90 分を見込みますが、時間に捉われ過ぎず、理解を深めることを重視して下さい。）				
教科書・教材	教科書	「おもてなしマイスター」の教科書			
	教材	プリントを適宜配布します。			
	使用設備・備品	プロジェクター、スクリーン、DVD再生等AV機器			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	授業参加意欲 30%、レポート提出、グループ発表（併せて 70%）の結果等を総合的に評価します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	他人の迷惑になる行為は慎むこと。 受講態度がマナーに違反していないこと。（特に私語、携帯電話使用等） 質問や意見をどんどん出して授業に積極的に参加すること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	「おもてなしマイスター」			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 異文化理解とは何かを考える。	授業の進め方を周知し、 この授業の全体像を把握する。	「異文化」という言葉の意味を調べ、 テキストを読み、今後の授業の予習 をする。
第 2 回	世界地理を確認し学ぶ。	白地図を使いオリジナルの世界 地図を作り、国の位置関係を 確認する。	世界地図を見て、白地図に色分けし 国の特徴を調べながら復習する。
第 3 回	世界地理を再確認し、大陸ご とに理解を深める。	大陸を意識した勉強を行う。	世界地図を見て、白地図に色分けし 復習して、白地図を完成させる。ま た興味ある国を事前に考えて選ん でおく。
第 4 回	興味のある国を選んで文化等 を調べ、日本をはじめ他国と 比較し、学ぶ。	グループワークで異文化理解 を深める。	選んだ国の文化を調べ予習復習を 行う。
第 5 回	興味のある国を選んで文化等 を調べ、日本をはじめ他国と 比較し、理解をより深める。	各々調べた内容をグループに フィードバックし、理解を深め る。	選んだ国の文化を調べ、日本との違 いを調べ予習復習を行う。
第 6 回	興味のある国を選んで文化等 を調べ、日本をはじめ他国と 比較し他の学生にも理解を促 す。	グループワークで異文化理解 を深めプレゼンテーションす る。	復習として、学んだ資料等を纏め る。宗教について調べて予習する。
第 7 回	宗教を学ぶ	世界の主な宗教を学び一般教 養を身につける。	どのような宗教があるか、復習し理解 する。
第 8 回	ロンドンを知る	ロンドンに関する DVD を鑑賞 し、海外研修の準備として知識 面を向上させる。	旅程と照らし合わせ、復習しなが ら、研修旅行の予習をする。
第 9 回	パリを知る。	パリに関する DVD を鑑賞し、海 外研修の準備として知識面を 向上させる。	旅程と照らし合わせ、復習しなが ら、研修旅行の予習をする。
第 10 回	「おもてなしマイスター」の 異文化間コミュニケーション の分野の「二つの理解」を学 ぶ。	「二つの理解」がどのようなも のかテキストを中心に理解を 深める。	おもてなしマイスター（異文化間コ ミュニケーション）の「二つの理解」 を他人に説明できるよう纏める。
第 11 回	異文化間コミュニケーション の分野の「DIE 理論・コンテ クスト理論」学ぶ。	「DIE 理論・コンテクスト理 論」がどのようなものかテキス トを中心に理解を深める。	おもてなしマイスターの「DIE 理論・ コンテクスト理論」を他人に説明で きよう纏める。
第 12 回	異文化間コミュニケーション の分野の「自文化中心主義と 文化統合主義」を学ぶ。	自文化中心主義と文化統合主 義がどのようなものかテキス トを中心に理解を深める。	おもてなしマイスターの「自文化中 心主義と文化統合主義」を他人に説 明できるよう纏める。
第 13 回	異文化間コミュニケーション の分野のアクティブ・リスニ ングを学ぶ。	アクティブ・リスニングとは何 かを理解する。	おもてなしマイスター（異文化間コ ミュニケーション）の「アクティブ・ リスニング」が何かを纏める。
第 14 回	異文化間コミュニケーション の分野のアクティブ・リスニ ングをより深く考える。	アクティブ・リスニングの理解 を深める。	おもてなしマイスター（異文化間コ ミュニケーション）の「アクティブ・ リスニング」の事例を纏めてみる。
第 15 回	まとめ	以上 14 回の授業をふりかえり 授業全体の理解を深める。	全体の復習を行う（60 分）

科目名	基礎ファッション学		教員名	青木 和子	
Subject	Basic Fashion Studies				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	○	○	—
科目の概要	ひとは自分を飾らないではいけない。ひとは流行を意識しないで生きることができない。この科目では、本学の「美道五大原則」の全ての項目や「美齢学」を意識した講義を基軸に、人が「何か」を身体につけた時代から今の時代に至るまでの日本と西洋のファッション文化史を学ぶことにより「美」とは「文化」とは何かを考える。				
授業の目標	上の概要を踏まえ「基礎ファッション」が概観でき、国際社会で応用できるレベルに達している。ファッション文化を自分なりの見解で説明できる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習：授業では、教科書の内容が理解されていることを前提に説明を開始する。 復習：本授業は座学であるため、授業の復習は次回の授業へ向けて重要なものとなる。各授業後、1 時間程度の復習を行うことが必要である。				
教科書・教材	教科書	「美容文化論」日本理美容教育センター（予定）			
	教材	学生全員に配布の iPad、配布プリント、			
	使用設備・備品	プロジェクター 他			
	参考文献	授業時に説明			
評価方法	毎時の授業態度及び小テスト 50%、レポート 25%、試験 25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	フォーマルスペシャリスト・ブロンズライセンス			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	日本編 縄文時代から古代	縄文時代から古代までのファッション文化史が概観できるようになる	
第 2 回	日本編 中世から近世 I	中世から近世 I までのファッション文化史が概観できる	
第 3 回	日本編 近世 II	近世 II のファッション文化史が概観できる	
第 4 回	日本編 近代	近代のファッション文化史が概観できる	
第 5 回	日本編 現代 I から現代 II	現代 I から現代 II までのファッション文化史が概観できる	
第 6 回	日本編 現代 III から現代 IV	現代 III から現代 IV までのファッション文化史が概観できる	
第 7 回	西洋編 古代エジプトから中世ヨーロッパ	古代エジプトから中世ヨーロッパまでのファッション文化史が概観できる	
第 8 回	西洋編 近世 I から近代 I	近世 I から近代 I までのファッション文化史が概観できる	
第 9 回	西洋編 近代 II から現代 III	近代 II から現代 III までのファッション文化史が概観できる	
第 10 回	西洋編 現代 IV から現代 VII	現代 IV から現代 VII までのファッション文化史が概観できる	
第 11 回	復習 I	ファッション文化史・日本編が概観できる	
第 12 回	復習 II	ファッション文化史・西洋編が概観できる	
第 13 回	復習 III	ファッション文化史が概観できる	
第 14 回	総復習 I	ファッション文化史・日本編が客観的に理解できる	
第 15 回	総復習 II	ファッション文化史・西洋編が客観的に理解できる	

科目名 Subject	美容芸術文化史 History of Aesthetics and Art Culture		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	○	△	○
科目の概要	美容の文化の歴史を学びます。 美容文化は、人の一生において大きな役割を担います。 各時代が作り出す美容はどのようなものだったのか。 西洋と日本のヘアスタイル、ファッション、メイクアップをはじめとする美容の文化を、美的感覚の変遷とその文化の理解を深めながら、美的教養を備えた人を目指し、多彩な芸術作品を見聞し表現することで美的感性を養います。				
授業の目標	西洋・日本のヘアスタイル、ファッション、メイクアップなどの美的原理、あり方などを学びます。 各時代の様式美を理解する過程において、自らの手で表現しながら発想力をも身に付け、国際人として活躍できるよう、美麗学の一部として知識を習得することを目指します。				
時間外学習 (予習・復習)	タブレットに毎回資料が配られます。授業前に各時代の概要を確認して授業に臨みましょう。(約60分程度) また、授業後は受講した美容文化に関する書籍、文献をタブレットや本学図書館などで調べ(約60分程度)、展覧会やギャラリー、他大学での研究会、芸術鑑賞等、自主的に学ぶことを推奨します。				
教科書・教材	教科書				
	教材	適宜プリントを配布します。			
	使用設備・備品	スライド、タブレット等			
	参考文献	美容文化論 ((公財) 日本理容美容教育センター 発行)			
評価方法	小テスト、課題レポート、授業中の提出物、授業に対する意欲を総合的に評価します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の出席状況・授業態度を重視します。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	西洋Ⅰ（古代）の文化を学ぶ	古代エジプト、ギリシア、ローマの時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第2回	西洋Ⅱ（中世）の文化を学ぶ	ビザンティン帝国、中世の時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第3回	西洋Ⅲ（近世）の文化を学ぶ	ルネサンス（イタリア・イギリス）、バロック、ロココの時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第4回	西洋Ⅳ（近代）の文化を学ぶ	フランス革命期、19世紀、20世紀初頭の時代様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第5回	西洋Ⅴ（現代）の文化を学ぶ	第一次世界大戦後、20世紀、2000年代の時代様式と美容のあり方を理解する	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第6回	まとめ 小テスト	西洋を振り返り、それらをキーワードとして、今後の美容のあり方を推察し、表現できるようにする。	事前にタブレットや資料で授業内容を振り返る。
第7回	日本Ⅰ（大陸文化・古代）の文化を学ぶ	大陸文化がどのようにして日本の結髪・風俗文化に影響を与えたかを理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第8回	日本Ⅱ（中世）の文化を学ぶ	飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第9回	日本Ⅲ（近世）の文化を学ぶ	戦国・安土桃山・江戸時代初期の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第10回	日本Ⅳ（近世）の文化を学ぶ	江戸時代後期の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第11回	日本Ⅴ（近・現代）の文化を学ぶ	明治以降の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。
第12回	まとめ 小テスト	日本における結髪風俗文化を振り返り、それらをキーワードとして、日本の伝統文化を表現できるようにする。	事前にタブレットや資料で授業内容を振り返る。
第13回	ポートフォリオ制作	西洋および日本文化への理解を基に、様式美を美齢学の一部として考察し、ポートフォリオにまとめる。	事前にタブレットや資料で授業内容を振り返り、作品制作に臨む。
第14回	プレゼンテーション	作成したポートフォリオのプレゼンテーションを通して、学生間で表現や作品についての相互評価を行う。	作成した作品をもとに、発表内容を調整する。
第15回	現代の日本髪について	現代の日本髪の展示から日本文化の理解を深める。	事前にタブレットで授業内容を確認。終了後は文化史を振り返る。

科目名	マーケティング		教員名	山口 信和	
Subject	Marketing				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	△
科目の概要	「マーケティング」は世の中の変化に適応する学問で「実学」とも呼ばれ、製品やサービスの販売を通して、お客様のニーズやウォンツを充足させる総合活動と定義されます。この「マーケティング」の基本概念を、美容に関係する化粧品業界に特化し、実例などを紹介しながら分かり易く説明します。また、世の中の変化を理解するために、テレビ教養番組から録画したビデオをケーススタディの教材として活用します。ビデオ鑑賞後、ケーススタディの要旨を相互にシェアし、同時に、みなさんから感想文をレポートとして提出していただきます。				
授業の目標	本学校を卒業し、社会人として新しい人生がスタートします。社会生活では、学生時代と異なった新たな価値観が要求されます。この変化に適応するために、必要とされるのが、「マーケティング」の知識です。会社は何を考えているのか、お客様は何を望んでいるのか、貴方は何を販売すべきなのか、それらの答えを「マーケティング」の中に見出すことができます。また、最近のマーケティング諸活動の中では、「接客」の重要度が今まで以上に高まっています。化粧品業界で接客を担うビューティアドバイザーの役割を理解できるようになります。				
時間外学習 （予習・復習）	次回の授業内容について事前に目を通し予習してくる。予習内容は「コスメマーケティングブリテン」として毎回、配布する。必要予習時間は毎回90分程度。				
教科書・教材	教科書	コスメマーケティング読本、私のメモ帳から			
	教材	配布プリント			
	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度（40％）、レポート提出（40％）、期末試験（20％）などから総合的に判断します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	出席状況、受講態度を重視しますので、理由のない欠席は認めません。また、特に、授業中のおしゃべりなど、周りの人の迷惑になることは評価減点の対象とします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	マーケティング講座を始めるにあたって	マーケティングを通して何を学習するかを理解できるようになる。	配布プリント：コミュニケーションとは、タイムマネジメント、チームワークなど
第2回	コミュニケーションの大切さ	相手の立場に立って考え、そして行動することの大切さを理解できるようになる。	配布プリント：マネジメントサイクル、自己成長の場など
第3回	マネジメントサイクルとはなにか	仕事をする理由を理解できるようになる。	配布プリント：当事者意識、化粧品市場など
第4回	全般的化粧品市場について	化粧品市場について、基礎的な知識を習得することができるようになる。	配布プリント：ワン・ツ・ワンマーケティング、顧客志向など
第5回	コスメマーケティングの基本とはなにか	マーケティングの基本概念を理解できるようになる。	配布プリント：パレートの法則、業種から業態など
第6回	製品差別化戦略とはなにか	現状分析に必要な手法を習得できるようになる。	配布プリント：3年目が節目、セルフと対面販売方式など
第7回	優先順位を設定する重要性について	セルフと接客販売方式の目的と違いを理解できるようになる。	配布プリント：見られている意識、是非の判断基準など
第8回	真実の瞬間とは	意思決定する際の判断基準を理解できるようになる。	配布プリント：マーケティング調査、名前を覚える重要性など
第9回	ピータードラッカーについて	経営の父と呼ばれるドラッカーの言葉を理解できるようになる。	配布プリント：小さな心くばり、マーケティングミックス論など
第10回	カスタマサティスファクションとは	小売業で大切なことはなにかを理解できるようになる。	配布プリント：価格競争と非価格競争、ドア・オープンナーなど
第11回	製品戦略、価格戦略について	製品ポートフォリオ分析、ポジショニング、価格設定政策を理解できるようになる。	配布プリント：フラッグシップ戦略、流通機能など
第12回	流通戦略について	流通機能、プッシュ戦略とプル戦略の違いを理解することができるようになる。	配布プリント：AIDMA理論、広告とパブリシティの違いなど
第13回	プロモーション戦略について	ビジュアルマーチャндаイジング、AIDMA理論を理解できるようになる。	配布プリント：売上予算、顧客管理など
第14回	営業戦略について	顧客管理、損益分岐点、CPコンセプトを理解することができるようになる。	配布プリント：トップ・ミドル・ラストノート、消費者クレームなど
第15回	接客戦略について	高級化粧品の条件、接客で注意することを理解できるようになる。	

科目名	プロデュース論		教員名	山口 真紀	
Subject	Theory of Production				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	○	△
科目の概要	科目は、前半にセルフプロデュース、後半は、日本文化を世界にプロデュースすることをテーマとしてブランドプロデュースを行う。セルフプロデュースでは、『美しく生きる力』を形成するための、自己理解と自己プロデュースのプランニングを促す。後半のブランドプロデュースでは、日本文化を世界にプロデュースするプランニングを検討することにより、自国文化を含めた異文化理解の促進と、国際社会における日本の強みを生かしたホスピタリティについて考え、国際性を身に付けることを促進する。				
授業の目標	科目では、マーケティング概論を学びながらプロデュースのプロセスを学び、課題解決のための論理的思考、表現力およびホスピタリティコミュニケーション力を身につけることができる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習：毎回授業の最後に予習箇所を示すので、必要な情報収集または該当する資料の読み込みを行い理解をして授業に参加すること。授業では、理解されていることを前提として実施される。(30分) 復習：各授業における、個人またはグループワークを振り返り、ブラッシュアップしたものを成果物として次回授業で提出すること。(30分)				
教科書・教材	教科書	配布資料			
	教材	なし			
	使用設備・備品	プロジェクター、スクリーン、白板			
	参考文献	なし			
評価方法	下記の条件を満たす者には、原則として単位取得を認める。ただし、総合点が60点を下回る場合には、単位取得を認めない。 ①授業およびグループ討論において積極的な参加姿勢がみられる。 ②グループ最終発表の参加と資料提出。 総合点評価については、平常点30%、個人発表30%、最終発表40%で評価を行う。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	講義は連続性を持って行われるため、原則として欠席は認めない。居眠り、私語、携帯使用などの行為は禁止とする。また、やむを得ず欠席した場合には、欠席した授業に関する対応を必ず教員に確認すること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業オリエンテーション グループ分け	本科目の概要とシラバスを理解する。	
第2回	セルフプロデュース① 理想の自分を描く	10年後、20年後、30年後自分自身のありたい姿を描き表現することができる。	
第3回	セルフプロデュース② 現状の自己分析を行う	ありたい姿と現状を比較し、自分自身の強み弱みを洗い出すことができる。	
第4回	セルフプロデュース③ 未来設計を行う	将来のありたい姿へ向けて、自己プロデュースのための計画を立てられる。	
第5回	セルフプロデュース④ ゲスト講師（フォトグラファ－予定）	一線で活躍するプロフェッショナルから、セルフプロデュースの実例を学ぶ。	
第6回	セルフプロデュース⑤ プレゼンテーションスキル	効果的なプレゼンテーションスキルを習得できる。	
第7回	セルフプロデュース⑥ プレゼンテーション	プロデュースプランを発表することができる。	
第8回	ブランドプロデュース① マーケティング概論	グループワークでプロデュースする対象を決定する	
第9回	ブランドプロデュース② 環境分析（顧客を知る）	市場調査（インタビュー、デスクリサーチなど）による顧客のニーズを捉える手法を習得できる。	
第10回	ブランドプロデュース③ 環境分析（競争環境）	競合状況および自社の強みを理解し、競争状態を把握するフレームを習得できる。	
第11回	ブランドプロデュース④ ターゲットの特定	競争環境を踏まえて、STPの考え方を理解し、設定できるようになる。差別化の概念を理解できる。	
第12回	ブランドプロデュース⑤ マーケティングミクス策定	4Pを理解し、環境分析、STPを踏まえ、プロデュースアプローチを策定できるようになる。	
第13回	ブランドプロデュース⑥ ゲスト講師 世界の中の日本	世界から見た日本の良さ・強みをゲストの講演から聞き取ることができる。	
第14回	最終グループ発表① 前半グループによる企画プレゼンテーション	パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う事ができる。	
第15回	最終グループ発表② 後半グループによる企画プレゼンテーション	パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う事ができる。	

科目名	着装技術Ⅰ		教員名	着装チーム	
Subject	Techniques of Kimono DressingⅠ				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	○	○	◎
科目の概要	日本の伝承美、着装の技術および着物の基本知識を学び、“日本の心を着る”という豊かな感性と人を思いやる心を育て、日本人としての文化教養を身につけます。 また「自分で着る、人に着せる」実習を通して美齢学に通ずる子供から高齢者へ向けた着つけの基本技術を習得し、接客の心得を学びながら美容総合実践として着つけ技術基礎を固めます。さらにこの科目は社会で活躍する自分の姿を常にイメージし、職業実践専門課程に基づくカリキュラムの実践を通し就職、社会事業に沿った学びができます。社会人としての素養を日本人としての資質を一回一回の授業で身につけることで、自分自身の成長を感じることができる科目となります。				
授業の目標	本科目の履修を通して、 ① 生活の中に関わる着物文化と装いを理解し、四季に応じたコーディネートや装いの表現力を養う事が出来る。 ② 山野流美道五大原則に基づいたトータルビューティの習得と美齢学の基礎実践が出来るようになる。 ③ 「自分で着る、人に着せる」の着つけの基本技術を習得する事が出来る。 ④ 社会人となる自分を常にイメージし、就職１年目から社会に貢献できる技術、マナー、日本文化の知識を習得する。				
時間外学習 (予習・復習)	予習・復習共に技術者として接客を意識した生活学習を行う。予習：次回授業対象の範囲につきTVや雑誌ほかSNSなどでTPOやコーディネイトを確認する。復習：学びの経過をSNSに掲載したり各自タブレットに保存するなど技術向上を目で見て確認する。又TVや雑誌、SNSなどからテクニックの相違を確認すること。他、コンテストやイベントの教員指導による時間外予習復習も場合により有り得る。総合で30～40時間以上の予習を見込む				
教科書・教材	教科書	着つけ教本は初回に配布　ほか必要に応じてプリント配布			
	教材	授業に必要な教材を初回に配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル（保管は短大教室内）			
	参考文献	（一財）国際美容協会貯蔵			
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	①個人持参物 /半紙、筆記用具、白ソックス、白タオル5本、ハサミ、名前ペン　女子は前後の衿が大きく開いたシャツ（キャミソール）、7分丈迄のレギンス　男子はVかU字型シャツ、短パン②マナー/ 実習時は髪を一つに束ねる事、素足入室は厳禁				
本科目履修と関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション トータルビューティと美齢学	山野が目指すトータルビューティ及び美齢学の概念を理解する	山野美容芸術短期大学の理念を覚えてくること
第 2 回	浴衣の知識 着付けと帯結び	着付けに必要な小物と着物の名称を覚え、一人で着物を着る事を理解する	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第 3 回	礼装 留袖の知識	礼装の着物を知る	着付けに必要な小物と各部名称について予習復習が必要
第 4 回	着付け前の準備	着付けの備品を覚え、着付け前の準備が出来るようになる	準備の方法につき各自 30 分程度復習すること
第 5 回	外出着の装い	着物の種類を学び、街着の着物について知る。	準備方法の小テストのため 30 分程度の予習が必要
第 6 回	小紋① 着物と名古屋帯	一人で着物が着れるようになる	小紋のについて社会情報を得てくること
第 7 回	小紋②	自分で小紋の着物を着ることができる	テキストを見て復習
第 8 回	一人で着る着物と帯結び	一人で名古屋帯を結ぶ事を理解する	テキストを見て復習
第 9 回	小紋③	一人で着物と名古屋帯を結ぶことが出来る	テキストを見て復習
第 10 回	一人で着る着付け仕上げ 小テスト	一定の時間内に綺麗に着付けと帯結びが出来るようになる	小テストのため事前予習が必要 (テキストでプロセスを確認)
第 11 回	留袖①	礼装にふさわしい、ヘアスタイル着付けのバランス感覚を学ぶ	留袖の TP0 について予習
第 12 回	留袖のヘアメイクと着付けのデモンストレーション	留袖着付けのトータルバランスとイメージを理解する	社会情報から礼装のヘアメイクを予習してくる
第 13 回	留袖②	長襦袢、留袖の着付けのプロセスを理解する	テキストを見て復習
第 14 回	長襦袢と留袖の着付け	長襦袢、着物を上手にたたむ事が出来るようになる	テキストを見て復習
第 15 回	留袖③	留袖の着付けができる(復習) 袋帯の知識を学ぶ	各自学習成果を保存し確認。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 6 回	留袖の着付け帯結び	二重太鼓を結び仕上がりの型が理解する	保存した画像からテキストを比較して復習
第 1 7 回	留袖④	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	美しい着付けのイメージ学習をして くる
第 1 8 回	留袖の着付けと帯結び	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を美しく仕上げる事を理解する	テキストを見て復習
第 1 9 回	留袖⑤	留袖の知識を確認し、着物の格と家紋を学び装いの違いを理解する	テキストを見て復習
第 2 0 回	格式ある席の装い ミセスの礼装	礼装にふさわしい、留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ	
第 2 1 回	留袖⑥	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 2 2 回	留袖の表情と身のこなし	着る人にふさわしい、ヤングミセスから高齢者の装いの表現が出来るようになる	
第 2 3 回	留袖⑦	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 2 4 回	手早く着心地の良い着付け	更に技術を磨き、手早く美しい着つけが出来るようになる	
第 2 5 回	留袖⑧	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 2 6 回	総仕上げ	ミセスの礼装を意識し、品格のある着つけが出来るようになる	
第 2 7 回	留袖⑨	留袖の着付けと袋帯二重太鼓を結ぶ（復習）	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 2 8 回	技術試験	限られた時間に留袖と帯結びの仕上げが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第 2 9 回	知識確認	着物に関する基礎知識を確認	テキストを熟読し前期の学びに関する知識を覚えてくる
第 3 0 回	まとめ	着物に関する知識を総合的かつ理論的に理解できる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要

科目名	メイクアップ I		教員名	ティミー 西村 他	
Subject	Make-up I				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	スキンケアからベーシックメイクアップまでの日常的なメイクアップを中心に実習を行う。道具の使用方法、化粧品の種類や使用方法などメイクアップを学ぶための基本からはじめ、メイクアップの基本技術を毎回１項目ずつ学び、フルメイクアップができるまで育成する。フルメイクアップをマスターした後は、高齢者へのメイクアップ、フォーマルメイクアップの基礎、着物に合わせたメイクアップ等を学び、美容の現場で必要とされるメイクアップ技術と知識を持った技術者を育成する。				
授業の目標	メイクアップの基礎知識（道具名称、日常メイク、アンチエイジングメイク、フォーマルメイクの手順）を理解し、練習の繰り返しにより技術を身につけ実践できるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	入学時に配布されるタブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、及び課題制作に必要な時間数は合計で約３０時間である。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	タオル、ティッシュ、コットン、綿棒			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	実技試験２５％、筆記試験２５％、小課題２５％、授業参加意欲２５％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	メイクアップする意味を学ぶ。	なぜ化粧をするのかを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第2回	メイクアップの歴史を学ぶ。	日本の化粧の歴史を理解する。	講義内容を自宅で復習。タブレット内でのクラスルーム参加作業
第3回	スキンケアの意味を学ぶ。	スキンケアの重要性と肌の美しさを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	スキンケア化粧品の使い方を学ぶ。	何種類ものスキンケア化粧品を使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第5回	ベースメイクアップ化粧品の種類を学ぶ。	ベースメイクアップの重要性と化粧品の種類を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	コントロールカラー、コンシーラーを学ぶ。	コントロールカラーとコンシーラーを使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第7回	ファンデーションを学ぶ。	ファンデーションの種類を理解する。リキッドファンデーションを使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第8回	フェイスパウダーを学ぶ。	フェイスパウダーとそれを使用するための道具を使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第9回	ハイライト、ローライトを学ぶ。	人種による顔の立体感の違いを理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	フェイスプロポーションを学ぶ。	顔の形やパーツの配置を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。顔写真で自身の特徴を分析し課題として提出。
第11回	アイシャドウを学ぶ。	アイメイクアップの意味を理解し、アイシャドウが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第12回	アイライン、マスカラを学ぶ。	アイライン、ビューラー、マスカラが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第13回	アイブロウを描く意味を学ぶ。	アイブロウによって顔の印象が変化することが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第14回	アイブロウの描き方を学ぶ。	アイブロウを描く道具の種類を理解し、描くことができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第15回	リップメイクを学ぶ。	リップメイクの道具種類を理解し、描くことができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 6 回	チークメイクアップを学ぶ。	チークカラーによる印象の変化を理解し、使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第 1 7 回	メイクアップのバランスを学ぶ。	各パーツのバランスがとれたメイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第 1 8 回	カラーハーモニーを学ぶ。	色の調和がとれたメイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第 1 9 回	パーティシーンのベースメイクアップを学ぶ。	クリームファンデーションが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第 2 0 回	パーティシーンのポイントメイクアップを学ぶ。	パール、ラメ、つけまつげ、リップグロスが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第 2 1 回	着物全般に合わせたメイクアップを学ぶ。	洋装と和装のメイクアップの違いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第 2 2 回	留袖のメイクアップを学ぶ。	留袖に合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第 2 3 回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の変化が理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第 2 4 回	アンチエイジングメイクを学ぶ。	若々しく見えるメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第 2 5 回	コンセプトメイクアップの意味を学ぶ。	コンセプトに合わせてメイクアップする意味を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第 2 6 回	コンセプトメイクアップの表現を学ぶ。	コンセプトに合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第 2 7 回	アーティスティックなメイクアップを学ぶ。	アーティスティックなメイクアップを表現するための方法を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第 2 8 回	模写メイクアップを学ぶ。	アーティスティックなメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第 2 9 回	トータルメイクアップを学ぶ。	テーマに合わせたメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。
第 3 0 回	基礎メイクアップ全般の意味を学ぶ。	メイクアップ I で学んだこと全般を統合して理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。

科目名	基礎ネイル技術		教員名	加藤 宏美 他	
Subject	Basic Nail Techniques				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	○	◎
科目の概要	マニキュア技術を習得するために必要な技術理論と基礎テクニックを習得する。 ネイルケア、ハンドマッサージ、カラーリングまでをスムーズに行い、ネイルに関する検定受験を目標に技術のレベルアップを目指す。関連科目としてネイルアートやカラーリングにおいて色彩学、メイクアップⅠの学習が必要である。				
授業の目標	ハンド＆ネイルケアの実践をとおして爪に関する美学を研究し、老若男女問わず健康で美しい爪を維持するための正しい知識と技術を身につける。ネイルケアとカラーリングの基礎的な技術を適正な手順で、他者に施術できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。予習としてテキストの内容を確認する。ネイルケア技術においては1回につき60分～90分程度の復習を行なうことが望ましい。				
教科書・教材	教科書	JNA テクニカルシステム BASIC 発行 NPO 法人日本ネイリスト協会			
	教材	配布教材は別紙参照 * 授業初回で配布します			
	使用設備・備品	美容実習室 水道			
	参考文献				
評価方法	授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。				
本科目履修と関連する資格	資格名	ネイリスト技能検定試験 3 級			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング ネイルの歴史	道具、器具の役割を理解する	復習として、扱う器具の役割と特徴を覚える（60 分程度）
第 2 回	手指消毒 ネイル技術体系 検定受験について	衛生的に道具器具を取り扱えるようになる。	
第 3 回	カウンセリング ポリッシュリムーブ 爪の構造と働き	テーブルセッティング～消毒～ポリッシュリムーブまでを習得する。	復習として爪の構造と働きを覚える（60 分程度）
第 4 回	ファイリング ネイルのための皮膚科学	ファイルの持ち方、動かし方 爪の形状の種類を理解する。	
第 5 回	ファイリング復習 ネイルのための生理解剖学	カウンセリングをし、爪の形状を 10 本揃えられるようになる。	復習として爪の形状を覚え、モデルでファイリングを実践する（60 分程度）
第 6 回	クリーンナップ ネイルのための生理解剖学	道具の正しい動作を理解する	
第 7 回	クリーンナップ復習 爪の病気とトラブル	キューティクル周りの処理がスムーズに行えるようになる。	復習として消毒からファイリングまでの技術をモデルで実践する。（60 分～）
第 8 回	ニッパーの使い方 消毒法	ニッパーの持ち方、動かし方を習得する。	
第 9 回	ネイルケアの手順の確認	これまでの実習内容を理解し手順に従って行えるようになる。	復習としてニッパーの扱い方を覚え、モデルで実践する（120 分～）
第 10 回	ネイルケアの手順の復習	器具を衛生的に扱うことができる	
第 11 回	テーブルセッティング（10 分） ネイルケア（30 分）	時間内に作業を終えることを目標とする	復習としてネイルケアの一連の流れを習得し時間を意識して反復練習を行う。（60 分～）
第 12 回	テーブルセッティング（10 分） ネイルケア（30 分）	時間内に作業を確実に終わることができるようになる	
第 13 回	実技チェック テーブルセッティング～ネイルケアまで	道具、器具を正確に扱える 時間内に作業を終えることができるようになる。	復習として時間に確実に収まるように反復練習を行う（60 分～）
第 14 回	実技チェック テーブルセッティング～ネイルケアまで	正確な手順で施術することができるようになる。	
第 15 回	ハンドマッサージ ハンドマッサージ理論	手の構造を把握し、ハンドマッサージの役割を理解する。	復習としてハンドマッサージの手順を習得する（30 分～）

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ハンドマッサージ	マッサージの手順の習得	ボランティアなどで活用できるように反復練習を行なう（60分程度）
第17回	カラーリング 化粧品学	ポリッシュの持ち方、塗り方を理解する	
第18回	カラーリング 色彩理論	カラーリングから修正まで行うことができる	カラーリングをモデルに実践する（60分程度）
第19回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用してネイルチップにアートを描けるようになる	課題：次回の授業までにネイルアートの図案を考える
第20回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用して人の爪にアートを描けるようになる	
第21回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで60分。アートのテーマは「フラワー」とする。	JNEC3級野内容を把握することができる	消毒～カラーリングまでの技術を時間を意識しながら、反復練習を行う。（60～90分程度）
第22回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで60分。アートはネイルチップを使用する。	JNEC3級に相当する技術を行なうことができる	
第23回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで55分。アートは相モデルで実践する。	時間内に作業を終えることができるようになる。	消毒～カラーリングまでの技術を時間内に収めるように、反復練習を行う。（60～90分程度）
第24回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで55分。アートは相モデルで実践し、15分で仕上げる。	確実に作業を時間内に収めることができるようになる	
第25回	消毒～ネイルケア～カラーリングまで50分。アートは相モデルで実践し、15分以内で仕上げる。	テーブルセッティング、衛生面、技術面においての全てを習得している	
第26回	消毒～ネイルケア～カラーリング～アートまで（70分）	テーブルセッティング、衛生面、技術面においての全てを習得している	
第27回	チップラップ① 自分の爪に装着する	手順を習得し、道具を正しく扱える	復習として材料の役割、扱い方を覚える。（30分～）
第28回	チップラップ② 相モデルで装着する	爪表面、先端を滑らかに整える	
第29回	まとめ 消毒～カラーリングまで	衛生面において不備が無く、正しく扱える	ネイルの基礎知識を含め技術がスムーズに行えるように反復練習を行なう（70分～）
第30回	まとめ 消毒～カラーリングまで	爪の長さ、形が揃えられ、全ての作業がスムーズに行える	

科目名 Subject	フェイシャルエステ Aesthetic Salon Techniques (Facial)		教員名	エステチーム	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	2
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	△	○	○	◎
科目の概要	日本エステティック協会認定フェイシャルエステティシャン資格習得に向け協会の内容に沿って学習する。				
授業の目標	エステティシャンとしての基礎技術、理論を修得し、施術の目的、高齢者への対応などを理解したうえで実践する能力を身に着ける。				
時間外学習 (予習・復習)	エステティック技術、理論を理解し資格取得を目指すため、予習、復習しておく				
教科書・教材	教科書	日本エステティック協会テキスト			
	教材	フェイシャル教材			
	使用設備・備品	フェイシャル室			
	参考文献				
評価方法	平常点 20%（小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む） 試験 80%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は実習室を退出させる場合もある。 ※受験料、問題集は各自購入するものとする。学内での実技試験に合格後、外部にて筆記試験を実施。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	日本エステティック協会認定フェイシャルエステティシャン資格			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ポイントメイククレンジング	目元、口もとのメイクを落とす手順と目的を理解する。	ポイントクレンジングの手順を復習しておく
第2回	ポイントメイククレンジング	目元、口もとのメイクを落とす手順と目的を理解する。	ポイントクレンジングの手順を復習しておく
第3回	ポイントメイククレンジング・スキニアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	顔全体のクレンジング、化粧水の目的、手順を理解する。
第4回	ポイントメイククレンジング・スキニアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	顔全体のクレンジング、化粧水の目的、手順を理解する。
第5回	ポイントメイククレンジング・スキニアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	ポイント、顔全体クレンジング、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第6回	ポイントメイククレンジング・スキニアップ	メイクを落とすことと化粧水を塗布する手順と目的を理解する。	ポイント、顔全体クレンジング、化粧水塗布の手順を復習しておく。
第7回	フェイシャルマッサージ（軽擦法）	軽擦法の目的・効果・手順を理解する。	フェイシャルマッサージ（軽擦法）の目的、効果、手順を復習しておく
第8回	フェイシャルマッサージ（軽擦法）	軽擦法の目的・効果・手順を理解する。	フェイシャルマッサージ（軽擦法）の目的、効果、手順を復習しておく
第9回	フェイシャルマッサージ（強擦法）	強擦法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦法の目的、効果、手順を復習しておく。
第10回	フェイシャルマッサージ（強擦法）	強擦法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦法の目的、効果、手順を復習しておく。
第11回	フェイシャルマッサージ（揉捻法）	揉捻法の目的・効果・手順を理解する。	軽擦、強擦、揉捻法の目的、効果、手順を復習しておく。
第12回	フェイシャルマッサージ（揉捻法）	揉捻法の目的・効果・手順を理解する。	軽擦、強擦、揉捻法の目的、効果、手順を復習しておく。
第13回	フェイシャルマッサージ（打法）	打法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦、揉捻、打法の目的、効果、手順を復習しておく。
第14回	フェイシャルマッサージ（打法）	打法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦、揉捻、打法の目的、効果、手順を復習しておく。
第15回	フェイシャルマッサージ（振動法）	振動法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦、揉捻、打法振動法の目的、効果、手順を復習しておく。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	フェイシャルマッサージ (振動法)	振動法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦、揉捻、打法 振動法の目的、効果、手順を復習しておく。
第17回	フェイシャルマッサージ (圧迫法)	圧迫法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦、揉捻、打法振動、圧迫法の目的、効果手順を復習しておく。
第18回	フェイシャルマッサージ (圧迫法)	圧迫法の目的・効果・手順を理解する	軽擦、強擦、揉捻、打法振動、圧迫法の目的、効果手順を復習しておく。
第19回	フェイシャルパック (肌別対応)	パック塗布の目的・効果・手順を理解する。	パックの(肌別対応)目的、効果、塗布の手順を復をしておく
第20回	フェイシャルパック (肌別対応)	パック塗布の目的・効果・手順を理解する。	パックの(肌別対応)目的、効果、塗布の手順を復をしておく
第21回	拭き取り (スポンジ)	パック拭き取りの目的・効果・手順を理解する。	パックの(肌別対応)ふき取りの目的、効果、手順の復習をしておく。
第22回	拭き取り (スポンジ)	パック拭き取りの目的・効果・手順を理解する。	パックの(肌別対応)ふき取りの目的、効果、手順の復習をしておく。
第23回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージとパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解し、高齢者への対応を学ぶ。	フェイシャル技術の目的、効果、手順を理解し高齢者への対応を復習しておく。
第24回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージとパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解し、高齢者への対応を学ぶ。	フェイシャル技術の目的、効果、手順を理解し高齢者への対応を復習しておく。
第25回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)の目的、効果を把握す
第26回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)の目的、効果を把握す
第27回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	クレンジングから仕上げまでの目的、効果、手順を復習しておく
第28回	フェイシャルマッサージ (復習)	クレンジングとマッサージ(基本6手技全て)とパックと仕上げまでの目的・効果・手順を理解する。	クレンジングから仕上げまでの目的、効果、手順を復習しておく
第29回	技術のまとめ	目的・効果・手順を正しく理解し、資格の合格基準を満たしているか確認する。	フェイシャルエステの知識(目的、効果、手順)を理解し確認。
第30回	技術のまとめ	自分の欠点を見つけ、知識を確実なものとし、実践できるようになる。	フェイシャルエステの知識、技術を正しく理解し実践出来るよう確認する

科目名	国際研究		教員名	内山 仁	
Subject	Study of International Affairs				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	◎	○	○	△
科目の概要	国際的な視野を持つべく、また自分で問いを立て、疑問を抱き、それに対する自分なりの答えを探せるようになる姿勢を養うための科目である。 正解が最初からあるわけではないものに取り組む姿勢を習得し、論理的思考を育んでいく。				
授業の目標	各自が自分で興味あるものを見つけ、分析を行い、仮説を立て、それを論証するという学問の基本姿勢を身につけることができるようになる。 教員が示すものはあくまでサンプルであり、それを鵜呑みにするのではなく、各自でそれが本当に正しいのか判断する方法を知る。 また、現在、国際社会で起こっている時事問題を自身でリサーチし、プレゼンテーションを作成し、発表を行うことが出来る様になることにより、知性を磨き、内面的な美の追求につなげていく。				
時間外学習 (予習・復習)	多様なメディア（TV、ラジオ、インターネット、SNS 等）を利用し、各自のテーマまたは時事問題等に関する情報を収集する。 また、国際時事問題に興味を持つ習慣を身につける。 各授業前予習 1 時間程度とする。				
教科書・教材	教科書	指定無し。			
	教材	各自のリサーチの基く資料とする。			
	使用設備・備品	PC、DVD、iPad 等。			
	参考文献	適宜指示する。			
評価方法	授業参加態度（積極的授業参加）20%、リサーチペーパー40%、プレゼンテーション 40%。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	支給 iPad、USB、筆記用具、を毎回必ず持参すること。 授業中に私語や携帯電話の使用を一切行わないこと。 授業開始から 1 分でも遅れた場合は「遅刻」扱いとなるので要注意。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	授業概要説明 他	国際研究とは何かを理解する。 トピックを決めることができる。	一般教室
第 2 回	Film 1	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	一般教室
第 3 回	リサーチ 1	各自のトピックについて調べ、 リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第 4 回	リサーチ 1	各自のトピックについて調べ、 リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第 5 回	プレゼンテーション 1	各自のトピックについて発表し、 質疑応答ができるようになる。	一般教室
第 6 回	プレゼンテーション 2	各自のトピックについて発表し、 質疑応答ができるようになる。	一般教室
第 7 回	Film 2	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	一般教室
第 8 回	Film 3	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	一般教室
第 9 回	リサーチ 2	各自のトピックについて調べ、 リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第 10 回	リサーチ 3	各自のトピックについて調べ、 リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第 11 回	プレゼンテーション 3	各自のトピックについて発表し、 質疑応答ができるようになる。	一般教室
第 12 回	プレゼンテーション 3	各自のトピックについて発表し、 質疑応答ができるようになる。	一般教室
第 13 回	Film 4	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	PC 室
第 14 回	Film 4	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	PC 室
第 15 回	リサーチ 4	各自のトピックについて調べ、 リサーチペーパーを作成できるようにになる。	一般教室

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	リサーチ 4	各自のトピックについて調べ、リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第17回	プレゼンテーション 4	各自のトピックについて発表し、質疑応答ができるようになる。	一般教室
第18回	プレゼンテーション 4	各自のトピックについて発表し、質疑応答ができるようになる。	一般教室
第19回	Film 5	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	一般教室
第20回	Film 5	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	一般教室
第21回	リサーチ 5	各自のトピックについて調べ、リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第22回	リサーチ 5	各自のトピックについて調べ、リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第23回	プレゼンテーション 5	各自のトピックについて発表し、質疑応答ができるようになる。	一般教室
第24回	プレゼンテーション 5	各自のトピックについて発表し、質疑応答ができるようになる。	一般教室
第25回	Film 6	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	一般教室
第26回	Film 6	DVD を見て諸外国の多様性を理解する。	一般教室
第27回	リサーチ 6	各自のトピックについて調べ、リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第28回	リサーチ 6	各自のトピックについて調べ、リサーチペーパーを作成できるようにになる。	PC 室
第29回	プレゼンテーション 6	各自のトピックについて発表し、質疑応答ができるようになる。	一般教室
第30回	プレゼンテーション 6	各自のトピックについて発表し、質疑応答ができるようになる。	一般教室

科目名	日本事情 I		教員名	日本語チーム	
Subject	Current Japanese Topics I				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	選必	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	本クラスでは、美容を学ぶ留学生が、大学の授業を受けるために必要な日本語（アカデミック・ジャパニーズ）を学習する。具体的には、以下の項目を中心に学んでいく。①講義の聞き方を学ぶ。②ノートの取り方を学ぶ。③文章の書き方を学ぶ。④発表の仕方を学ぶ。特に文章作成では、書き方の学習と並行して実際に短いレポートを書き、学習者相互にピアレスポンスをしながら仕上げていく。書き上げたレポートはクラス内で発表し、相互評価を行うことで、学生一人ひとりの自律性を高める。活動を通して、自分の考えを日本語で表現できることを目指す。				
授業の目標	「講義を聞き、重要な項目をメモすることができる」「文章の書き方を理解し、美容に関するレポートが書ける」「自分の言いたいことを、他者に簡潔に伝えることができる」				
時間外学習 （予習・復習）	次回の授業内容について確認し理解しておくこと。また学習した日本語はできるかぎり忘れないように、練習しておくこと。各回予習 60 分。復習 60 分。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント使用			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『聴解・発表ワークブック』犬飼康弘著、スリーエーネットワーク、2007 年			
評価方法	平常点 30%、課題 20%、レポート 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。	
第 2 回	講義の聞き方（１）スキルを学ぶ。	一般的な講義の特徴について理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第 3 回	講義の聞き方（２）ノートテイキングを学ぶ。	ノートテイキングについて理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第 4 回	講義の聞き方（３）演習①	講義の聞き方の理解を深められる。	復習 60 分、予習 60 分
第 5 回	講義を聞く（４）演習② 文章の書き方（１）文体	講義の聞き方のスキルを上げることができる。文体について理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第 6 回	講義を聞く（５）演習③ 文章の書き方（２）句読点	講義の聞き方のスキルを上げることができる。句読点の打ち方を理解する。	復習 60 分、予習 60 分
第 7 回	講義を聞く（６）発表 文章の書き方（３）段落	講義を聞き、その内容が発表できる。段落の書き方が理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第 8 回	文章の書き方（４）段落相互	段落相互の書き方が理解できる。	復習 60 分、予習 60 分
第 9 回	レポート（１）動機文を書く。	自分とテーマの関係について考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第 10 回	レポート（２）動機文を検討する。	自分とテーマの関係について理解を深めることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第 11 回	レポート（３）本論を書く。	クラスメイトと深い対話ができる。	復習 60 分、予習 60 分
第 12 回	レポート（４）本論を仕上げる。	テーマについて、クリティカルに考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第 13 回	レポート（５）まとめを書く。	一貫した文章が書けるようになる。	復習 60 分、予習 60 分
第 14 回	レポート（６）全体を読み合う。推敲する。	自分が書いた文章を客観的に見ることができる。	復習 60 分、予習 60 分
第 15 回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテーマが内省できる。	復習 60 分、予習 60 分

科目名	日本事情Ⅱ		教員名	日本語チーム	
Subject	Current Japanese TopicsⅡ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	本クラスでは、相手に合わせた待遇コミュニケーションについて学ぶ。具体的には様々な場面における敬語表現を学び、学内やアルバイト先、就職活動における話し方、聞き方を学ぶ。その上で、敬語だけではなく、様々な場面の待遇表現も学び、相手に合わせた話し方聞き方を自分で選択できるようになることを目指す。				
授業の目標	(1) 敬語の基本が習得できる。(2) 様々な場面の待遇表現が習得できる。(3) 社会相手に合わせた話し方が習得できる。(4) ビジネス場面における話し方が理解できる。				
時間外学習 (予習・復習)	次回の授業内容について確認し理解しておくこと。また学習した日本語はできるかぎり忘れないように、練習しておくこと。各回予習 60 分。復習 60 分。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『日本語敬語トレーニング』金子広幸著アスク出版			
評価方法	平常点 20%、期末テスト 50%、提出物 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	一人一人の主体的な態度を求める。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。尊敬語が使える。	復習 90 分。
第 2 回	訪問する	敬語全般について理解できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 3 回	簡単に挨拶する	尊敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 4 回	誘う	敬語を使って誘うことができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 5 回	お願いする	敬語を使ってお願いすることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 6 回	断る	敬語を使って断ることができる	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 7 回	申し出る	敬語を使って申し出ることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 8 回	おわびする	敬語を使ってお詫びができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 9 回	意見を言う	敬語を使って自分の意見を言うことができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 10 回	予約を受ける	仕事先で、敬語を使って電話や店頭で予約を受けることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 11 回	サービスの敬語	仕事先で、敬語を使ってお客から注文を受けることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 12 回	相談を受ける	仕事先で、敬語を使ってお客から相談を受け対応できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 13 回	面接を受ける	面接で、敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 14 回	電話の敬語	社内の者として敬語を使い、電話対応ができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。
第 15 回	まとめ	全体の振り返りができる	全体の復習 90 分。

科目名	日本事情Ⅲ		教員名	日本語チーム	
Subject	Current Japanese TopicsⅢ				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	本クラスでは、就職に必要なビジネス日本語を学習する。主に就職活動に必要な日本語を学んでいく。また、就職後、日本で仕事ができるようになるための日本語も学習していく。授業では、課題達成、問題発見開発能力、異文化理解能力を養うためのタスクをこなしながら、日本語力の向上を目指す。				
授業の目標	1) エントリーシート等の就職のための提出書類を書くことができる。2) 面接で自己アピールができる。3) プレゼンテーションやディスカッションをすることができる。				
時間外学習 (予習・復習)	課題に取り組む時間が必要になる。予習 50 分。復習 50 分。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	教師作成プリント使用			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション』近藤彩他 著、アプリコット出版、2012 年			
評価方法	平常点 30%、課題 20%、レポート 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価について理解できる。	予習として作文課題（90 分）
第 2 回	企業の求める人材を知る (1) 企業ガイダンスについて読み、話す。	企業ガイダンスの語彙と表現が理解できる。	復習 50 分、予習 50 分
第 3 回	企業の求める人材を知る (2) 企業ガイダンス（説明会）の内容を聞く。	企業ガイダンスを聞き、メモが取れる。	復習 50 分、予習 50 分
第 4 回	企業の求める人材を知る (3) 企業概要を読み、メモをする。	企業について、自分で調べることができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 5 回	エントリーシートを書く (1) メモする。	エントリーシートの内容を日本語でメモできる。	復習 50 分、予習 50 分
第 6 回	エントリーシートを書く (2) 全体を書く	エントリーシートの内容を日本語で記述できる。	復習 50 分、予習 50 分
第 7 回	エントリーシートを書く (3) 話し合う	エントリーシートの内容を協働で深められる。	復習 50 分、予習 50 分
第 8 回	エントリーシートを書く (4) 発表する	エントリーシートに書いたことを他者に向けて分かりやすく話すことができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 9 回	E-mail の書き方、敬語表現を学ぶ。	敬語を使って E-mail が書ける。	復習 50 分、予習 50 分
第 10 回	自己アピールをする (1) 自己アピールを聞いて考える。	他者の自己アピールを聞き取ることができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 11 回	自己アピールをする (2) 自己アピール文を書く。	自己アピール文を日本語で書くことができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 12 回	自己アピールをする (3)	自己アピールが話せる。自己評価ができる。	復習 50 分、予習 50 分
第 13 回	自分の作品をプレゼンテーションする (1)	PPT でプレゼンテーションする方法を学ぶ。	復習 50 分、予習 50 分
第 14 回	自分の作品をプレゼンテーションする (2)	自分のプレゼンテーションができるようになる。	復習 50 分、予習 50 分
第 15 回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテーマが内省できる。	復習 50 分、予習 50 分

科目名	日本事情Ⅳ		教員名	日本語チーム	
Subject	Current Japanese TopicsⅣ				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	インフォーマルな会話での丁寧な会話や親近感を与える会話などＴＰＯやノンバーバルな要因も含めたコミュニケーション力を養う。				
授業の目標	友人同士でもフォーマルな話の場合の話し方、親近感を持つためぐち的な話し方など日常生活に欠かせない中級から上級会話ができるようになる				
時間外学習 (予習・復習)	予習復習には 90 分から 120 分かけ、日常生活の中からの場面の理解と整理とメモなどに十分力点をおくこと				
教科書・教材	教科書	ロールプレイで学ぶ「中級から上級への日本語会話」			
	教材				
	使用設備・備品	PC (PowerPoint) を見せる。			
	参考文献				
評価方法	試験 80% 平常点 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中、辞書として携帯使用は認めるが、それ以外で使用した場合は授業の妨害とみなし、内申点のマイナスとする。 テキストを忘れた場合も内申点マイナスとみなす				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業オリエンテーション	授業の内容、守ってほしいマナー、評価の方法などのオリテで15回の授業の把握ができる	
第2回	1課 ロールプレイの前に ユニット1 ロールプレイ①～③を学ぶ	ロールプレイの内容を理解し ロールプレイを作成できること。	
第3回	1課の復習と勉強の方法の再確認	初級で出来るロールプレイ作文とその発表・評価とコメント	
第4回	1課 ユニット1	この課でテーマとトピクスを理解し、ロールプレイ文の作成と発表・	
第5回	2課 ユニット2	ロールプレイを作成できて、会話のディクテーション、文法を学ぶ	
第6回	3課 ユニット3	インフォーマルな会話とフォーマルな会話の違いがわかる	
第7回	4課 ユニット4	インフォーマルな会話とノンバーバルの理解とスキルが分かる	
第8回	5課 ユニット5	インフォーマルな会話の中でも丁寧な言い方へ切り替えができる	
第9回	6課 ユニット6	フォーマルな会話とノンバーバルの理解とスキルがわかる	
第10回	7課 ユニット7	伝えたいことをフォーマルなロールプレイ文で作成、発表と評価・コメント	
第11回	8課 ユニット8	フォーマルな会話の中での親近感を持った会話のロールプレイ文の作成と発表・評価	
第12回	9課 ユニット9	歓迎会などでのあいさつの仕方	
第13回	10課 ユニット10	送別会など送られるときのあいさつができるようになる	
第14回	11課 ユニット11	大勢の前でのスピーチができるようになる	
第15回	まとめ	試験についてまとめておく	試験対策と準備

科目名	日本事情Ⅴ		教員名	日本語チーム	
Subject	Current Japanese TopicsⅤ				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	講義	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	△	○	◎
科目の概要	日本の都市を産業や観光、文化、生活を学習する。				
授業の目標	日本を知ることは、日本語を学習する上でも重要なことで、読解での聴解でも日本の歴史や地理、風俗、習慣を理解していることがカギになることはいうまでなく、その知識をより豊かに身につけられる。				
時間外学習 (予習・復習)	基礎知識からさらに発展させた深い理解や興味をさらに大きくするためには予習に 90 分、復習にも 90 分以上かかえること				
教科書・教材	教科書	授業中にプリントで配布			
	教材				
	使用設備・備品	P Cでレポートを作成し提出することもある			
	参考文献				
評価方法	平常の授業への準備の質の高さ、授業での参画意欲の高さ、プロダクションの質の高さに50%、期末試験での評価に 50%で総合評価し 8 0 以上を A, 70 から 79 を B, 60 から 69 を C、59 以下は不可とします。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	日常の出来事や社会の問題などに興味を持ち、テーマとなりそうなことをメモししらべておくこと				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	日本の地理 概論	ガイダンスとして日本の地理のガイダンス	授業オリエンテーションをする。予習と復習については詳しく話します。各 90 分から 120 分はしてください。
第 2 回	日本の地方と都道府県	地方の呼び方や都道府県について学ぶ	
第 3 回	産業と地理(1)	農業・漁業とその特色	
第 4 回	産業と地理(2)	工業とその特色	
第 5 回	産業と地理(3)	商業とその特色	
第 6 回	産業と地理(4)	観光とその特色	
第 7 回	文化と地理(1)	関西 京都と大阪	
第 8 回	文化と地理(2)	関東 東京と横浜	
第 9 回	文化と地理(3)	関西と関東	
第 10 回	文化と地理(4)	都市と地方	
第 11 回	地理から考える格差(1)	交通・通信	
第 12 回	地理から考える格差(2)	政治・経済	
第 13 回	地理から考える日本社会(1)	社会問題になっていること(1)	
第 14 回	地理から考える日本社会(2)	社会問題の対策 都市と地方	
第 15 回	15 回の総まとめと試験対策	まとめと期末試験対策	この授業で最高の評価を先生にもらえるよう完璧は準備を試験に臨むこと

科目名 Subject	特別活動 Special Activities		教員名	ティミー 西村	
開講年次	1・2	開講時期	通年	単位	2
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	本学が学生にとって意義や必要性があると判断した、特別講師による講演や授業の他、ボランティア活動について随時開講する。学内行事についても特別活動の一環である。行事に参加することによって、大学生としてのマナーや協調性、自主性などを身につける。資格取得のための実力を向上させる。				
授業の目標	平常の授業とは異なる講座等によって、見識を広める 教育目標でもある、自ら考え、行動できるようになる。振り返る力を養う。				
時間外学習 （予習・復習）	授業の性質上、時間内学習と時間外学習との区別が出来ないが、講演レポート作成、ボランティア等時間外学習とを感じる部分も時間内との意識でしっかりと取り組むこと。				
教科書・教材	教科書				
	教材				
	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	受講態度で評価する。課題やレポート提出。 内容により、レポートや提出物がある。全ての内容を勘案して評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の実施については、掲示板を確認すること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名				

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	※学校行事について ①すべて出席をもって評価対象とする。	ホスピタリティ及びコミュニケーション力等の社会人基礎力を養う。	
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回	※特別講師による講演、授業について ①すべて出席をもって評価対象とする。 ②課題・レポート等課された場合 提出物も評価対象とする。	普段の授業では得られない知識経験を 得て、社会人基礎力を養う。	
第9回			
第10回			
第11回	※ボランティア活動について ①原則八王子市から提供されている活動に参加すること。 （地方出身学生については地元での活動を認める場合もある） ②必ず年1回以上参加すること。 ③参加に関しては各個人で申請すること。ただし、通常授業を避け、時間割で空いている時間帯にするか、夏季、冬季、春季休業期間中、土日祝祭日を利用すること。 ④活動終了後は、ボランティア活動報告書にサイン等をもってゼミ担当へ提出すること。	ホスピタリティ及びコミュニケーション力等の社会人基礎力を養う。	
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

科目名	論理的思考法 I		教員名	金子 雅和	
Subject	Logical Thinking I				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	選必	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	△
科目の概要	この授業では、「論理的思考法」の基礎編として、 学生・社会人として必要なスタディスキル （大学や企業で求められる知的生産活動のために必要な基本スキル）を中心に学ぶ。 （後期に行う「論理的思考法Ⅱ」の授業においては応用編として、 論理的思考のスキルを養いコミュニケーション能力を高める。）				
授業の目標	この授業によりノートテイキング、情報の収集・要約、レポート作成等のスタディスキルを身につけ後期の「論理的思考法Ⅱ」の授業と合わせて、社会人としての基礎力を身につけることができる。				
時間外学習 （予習・復習）	・興味を持ったテーマについて書籍、新聞等に目を通し考える機会を持つこと。 ・レポートの準備、作成 ・毎回の復習は概ね60分程度実施すること。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	試験 60%、提出物 20%、受講態度 20%として総合的に評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業中他人の迷惑にならないように気を付けること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	この授業および後期の論理的思考法Ⅱを含めた全体の授業の目標と本授業の進め方を理解する	
第2回	ノートやメモをとる	ノートやメモの概念を知り、工夫をすることができる	
第3回	ノートやメモをとる（マインドマップ）	授業の効率的なノートが取れるようになる。マインドマップによって表現できる	
第4回	情報を集める	資料や口頭で得た情報を過不足なく効率的に記録できるようになる	
第5回	資料を読み、要約する	ある事柄について多岐にわたる内容を簡潔にまとめる力を習得できる	
第6回	要約の練習	文章や書籍の読み方を理解し実行することができる	
第7回	情報を集め、整理する	情報収集を行い、内容を整理することができる	
第8回	様々なリーディング	文章の読み方を理解し、実行することができる	
第9回	ライティング（文章の基本構成を学ぶ）	文章の基本構成を学び、文章を書くことができる	
第10回	ライティングの応用を学ぶ	説得力のある文章を書くことができる	
第11回	レポートの作成（論証型論文を学ぶ）	論証型論文を書くことができる	
第12回	プレゼンテーションの基礎を学ぶ	プレゼンテーションの種類と役割を理解することができる	
第13回	プレゼンテーションの応用を学ぶ	スピーチの基礎を知り、実践することができる	
第14回	プレゼンテーションの実践	説明力のあるプレゼンスキルを身に付けることができる	
第15回	レポートの内容発表	スタディスキルの総合力を活かし、活用することができる	

科目名	論理的思考法Ⅱ		教員名	金子 雅和	
Subject	Logical ThinkingⅡ				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	△
科目の概要	この授業では、「論理的思考法」の応用編として、論理的思考法の学習、討論方法の要領と実践、自己表現力の養成および他者とのコミュニケーションを学ぶ。				
授業の目標	論理的思考力、自己表現力を養い、コミュニケーション能力を高める事によって社会人としての基礎力を身につけることができる				
時間外学習 （予習・復習）	・興味を持ったテーマについて書籍、新聞等に目を通し考える機会を持つこと ・毎回の復習は概ね60分程度実施すること。				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	なし			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	試験 60%、提出物 20%、受講態度 20%として総合的に評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	・授業中他人の迷惑にならないように気を付けること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	この授業の進め方を理解することができる	
第2回	論理的思考のスキルを磨く (演繹法・帰納法を学ぶ)	三角ロジック、帰納・演繹法など理解し、実践することができる	
第3回	論理的思考のスキルを磨く (命題を学ぶ)	命題・対偶等論理的思考法のテクニックを理解し、実践することができる	
第4回	論理的思考のスキルを磨く (フェルミ推定を学ぶ)	論理的思考法のテクニックを学び、実践することができる	
第5回	論理的思考のスキルを磨く (フレームワークを学ぶ)	代表的なフレームワークを学び、考えることができるようになる	
第6回	論理的思考のスキルを磨く (フレームワークを活用)	フレームワークに従い、問題解決を図る考え方が出来るようになる	
第7回	討論を行う (基礎を学ぶ)	討論の要領を学び、グループ討議をすることができる	
第8回	討論を行う (応用を学ぶ)	様々な討論を行い、論理的に結論を出すことができる	
第9回	SPI非言語系問題を解く (論理的に答えを導く・数学)	公式を使い、論理的に答えを導くことができる	
第10回	SPI非言語系問題を解く (論理的に答えを導く・国語)	正確に問題を読み解き、論理的に答えを導くことができる	
第11回	エントリーシートで自己表現を行う (考え方を学ぶ)	特定の企業・業種を想定して自己PRと志望動機等を明確に考えることができる	
第12回	エントリーシートで自己表現を行う (記述法を学ぶ)	自己分析をし、魅力的なエントリーシートが作成できる	
第13回	面接におけるコミュニケーションを考える	「採用面接」におけるコミュニケーションの基本を身に着けることができる	
第14回	面接におけるコミュニケーションを考える (実技)	面接におけるコミュニケーションのポイントを身に着けることができる	
第15回	論理的思考力養成のまとめ	授業を振り返り、総合的な理解を深めることができる。	

科目名	アイデア創発		教員名	大野 淑子	
Subject	Idea Co-create				
開講年次	1 又 2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	△	◎	◎	◎	○
科目の概要	「考える力」を育む様々な手法を用いて、自分の考えや思いを表現したり、チーム発想や個人発想でアイデア創発していくノウハウを身につける。実際に企業等と連携し、アイデアを提案して社会や企業のためになる何かの実践に取り組むプロセスを経験することで、アイデア創発の楽しさや価値を理解する。				
授業の目標	身近にある問題や課題に対して、理由を考えたり意見を述べる習慣を身につける。ディプロマポリシーに掲げている、思考力、判断力、表現力、主体的行動力等をトータルに鍛え、社会に出てアイデア創発や提案ができる力を身につける。				
時間外学習 （予習・復習）	新聞やネットニュースなどを毎日意識して読む。様々な社会情勢や社会問題だけでなく身近な問題に対しても考えを持つよう心がけ、意見したり書き留めることを習慣づける。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	教員作成資料・レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材他			
	使用設備・備品	P C等			
	参考文献	「アイデア・スイッチ」 石井力重、日本実業出版社、2009			
評価方法	平常点 30%、各回課題 50%、レポート 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	テーマにより担当教員（ファシリテーター）が変わる可能性がある。グループワークが多くなるため協力的かつ積極的に取り組んで欲しい。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容を理解する	新聞やネットニュースなどを意識して読む。様々な社会問題や身近な問題に対して意見を持つよう意識する
第 2 回	レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材を使用して課題に取り組む	チームビルディング	新聞やネットニュースなどを意識して読んで考えをまとめる
第 3 回	レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材を使用して課題に取り組む（個人作品）	自分の考えや思いを表現する	新聞やネットニュースなどを意識して読んで考えをまとめる
第 4 回	レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材を使用して課題に取り組む（共有モデル）	意見を共有しながら自分の考えや思いを表現する	新聞やネットニュースなどを意識して読んで考えをまとめる
第 5 回	レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材を使用して課題に取り組む（イメージネーションゲーム）	超高齢社会に向けて誰もが美しく齢を重ねられる美齢の視点で新商品を考える	新聞やネットニュースなどで高齢者に関する記事を読み、自分にできることをまとめる
第 6 回	リフレクションカードを使用して課題に取り組む	自分の考えや生き方を振り返り自己分析する	自己分析をして授業に望み、自己理解を深めて自己PRの文章にまとめる。
第 7 回	アイデアワークショップ① 発想の特性について学ぶ	アイデアの出し方がわかる	新聞やネットニュースなどを意識して読んで考えをまとめる
第 8 回	アイデアワークショップ② ブレインストーミングについて学ぶ	ブレインストーミングができる	新聞やネットニュースなどを意識して読んで考えをまとめる
第 9 回	アイデアワークショップ③ アイデアスケッチを学ぶ	アイデアスケッチができる	新聞やネットニュースなどを意識して読んで考えをまとめる
第 10 回	アイデアワークショップ④ Teaming を学ぶ	チームを作ってアイデアの軌道修正ができる	新聞やネットニュースなどを意識して読んで考えをまとめる
第 11 回	企業連携の可能性について考える	企業を研究し特徴を共有する	対象の業界について調べ感想や関心をまとめる
第 12 回	アイデアワークショップ⑤ 企業連携をテーマにアイデア創発を行う	実現可能なアイデアを選ぶ	新聞やネットニュースなどをから自分のアイデアに近いものを調べまとめる
第 13 回	アイデアの実践準備	目的に向けて必要なことを皆で協力して準備する	新聞やネットニュースなどを意識して読む。アイデアの実践の流れや役割を確認する。
第 14 回	アイデアの実践	皆で目標を定めモチベーションを持って取り組む	新聞やネットニュースなどを意識して読む。実践報告をまとめる。
第 15 回	まとめとふりかえり	アイデアの実践をふりかえり評価して今後につなげる	授業で学んだことや実践を今後にどのように活かせるか整理する

科目名	ジェロントロジー（USC）		教員名	五十嵐 靖博	
Subject	Gerontology（USC）				
開講年次	1	開講時期	通年	単位	1
必修／選択	選必	授業形態	講義	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	○	△	○
科目の概要	超高齢化社会を豊かに生きるために、個人レベルの加齢の問題だけでなく、社会構造の変化や諸問題まで幅広く学ぶ。その知見を美容の諸領域と結びつけ、美齢学へと発展させる基礎を築く。南カルフォルニア大学ジェロントロジー学部による e-learning を用いた遠隔授業である。				
授業の目標	高齢者に限らず、あらゆる年齢層の人を加齢と美容の視点から理解する。美容を通して超高齢化社会において個人と公共の発展と福祉の向上に貢献する意識をもつ。美容とジェロントロジーを融合して美齢学の基礎を習得し、職業生活に活かす知識を習得するとともにあらゆる年齢層の人をより深く理解する。				
時間外学習（予習・復習）	繰り返しビデオプログラムを視聴し、深く学ぶ。 各回の復習時間は60分程度を想定します。				
教科書・教材	教科書	特に指定しない。			
	教材	USC ジェロントロジー・プログラム			
	使用設備・備品	e-learning によって受講するため、iPad やインターネットにアクセスできる環境が必要である。			
	参考文献	山野正義著『生き方の革命：ますます輝く人生を』IN 通信社 R. C. アッチェリー・A. S. パルシェ著『ジェロントロジー：加齢の価値と社会の力学』きんざい			
評価方法	全てのレッスンを受講し Q&A に正答する必要がある。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	自発的に受講する姿勢が必要である。繰り返しビデオプログラムを視聴し、深く学んでほしい。				
本科目履修と関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ジェロントロジーとは何か	ジェロントロジーとは何か説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること。
第2回	エージングに関する固定概念	エージングにかかわる諸問題を自分の言葉で説明できる。	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第3回	ライフコースの展望	ライフコースの観段階について説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第4回	介護と社会支援	介護と社会支援の必要性和現在、直面している諸問題を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第5回	エージングの社会学的理論	加齢を説明する主な社会学理論を自分の言葉で要約できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第6回	エージングにともなうパーソナリティーの変化	加齢とともにパーソナリティーがどう変わるか説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第7回	高齢者の人口動態	日本と世界の高齢者の人口動態の特徴を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第8回	加齢の生物学的理論	生物学が加齢をどのように説明するか、概略を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第9回	記憶と認知能力	加齢にともなう記憶と認知能力の変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第10回	視覚と聴覚	加齢にともなう視覚と聴覚の変化と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第11回	加齢による変化と病気の違いを理解する	加齢による変化と病気の違いを説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第12回	加齢による高齢者の心身の機能的変化と効果的な支援	加齢による高齢者の心身の機能的変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第13回	加齢にともなう慢性疾患	加齢にともなう主な慢性疾患を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第14回	高齢者の抑うつ	高齢者の抑うつの特徴と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第15回	死と死にゆく過程	死にゆく過程を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	老化と皮膚	加齢による皮膚の変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第17回	エージングと口腔衛生	高齢者の口腔ケアの効果について説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第18回	高齢者のカウンセリング	高齢者にとってのカウンセリングの効能と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第19回	ゲームの効果と記憶	高齢者の記憶を維持増進する方法について説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第20回	エクササイズによる骨粗鬆症の予防	エクササイズの重要性を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第21回	エージングとアンチエージング	アンチエージングの考え方を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第22回	ストレスと老化	ストレスが加齢に与える影響を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第23回	高齢者の転倒予防	転倒予防の方法を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第24回	加齢と人間工学的デザイン	加齢にかかわる諸問題に人間工学的デザインがどう役立つか、説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第25回	ユニバーサルデザインとバリアフリー	ユニバーサルデザインとバリアフリーとは何かを説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第26回	高齢者に関する法的、倫理的諸問題と家族関係	相続など法的、倫理的問題や家族関係の問題を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第27回	高齢者の虐待	高齢者虐待の問題と対策を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第28回	日常性のストレスと加齢	ストレスがもたらす影響を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第29回	フリーラジカルとホルモンの影響	加齢にフリーラジカルとホルモンが与える影響を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること
第30回	ジェロントロジーと美齢学	ジェロントロジーと美しい生活の関係を自分で考え説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰り返し視聴すること

科目名	インターンシップ		教員名	鈴木　ひろ子	
Subject	Internship				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	インターンシップの意味や目的、社会常識やコミュニケーションスキルについて事前準備を行い、実践に臨みます。 一定期間、企業等で仕事を体験することにより、社会人として働くとはどういうことか、社会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。				
授業の目標	一定期間、企業等で就業体験を行う。 就業体験を通して、業種・職種・企業を理解する。また、自分の適性や将来について考える。 そして、社会人として必要な知識・能力・コミュニケーション力を知り、養う。 インターンシップ先の幅広い年代層の顧客に対応する力を養う。				
時間外学習 (予習・復習)	事前訪問・インターンシップ（現場体験）及び期間中の日々の記録・まとめ				
教科書・教材	教科書	プリント			
	教材	プリント			
	使用設備・備品	P C他（報告会対象者）			
	参考文献	長谷川文代編著「インターンシップリテラシー」西文社			
評価方法	授業や研修への取組み姿勢等とインターンシップ先の評価をもとにします。事前教育課題 10%、日誌 20%、レポート 20%、インターンシップ先の評価 30%、報告会等での発表 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	インターンシップは企業別に希望者を募り、選抜面接を行います。 合同ゼミで成果発表をしてもらう場合があります。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	事前教育 1	インターンシップを理解する	参考文献を読み授業の目的を把握する
第 2 回	事前教育 2	社会人常識を学ぶ	配布資料を読みインターンシップ先で困らないための準備を行う
第 3 回	事前教育 3	社会人常識を学ぶ	企業研究を行いインターンシップ先で困らないための準備を行う
第 4 回	事前訪問	事前に企業研究を行い、インターンシップ先について理解する。	企業研究を行いインターンシップ先で困らないための準備を行う
第 5 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 6 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 7 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 8 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 9 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 1 0 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 1 1 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 1 2 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第 1 3 回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務に取り組み、仕事の理解を深める	日誌を書いてふりかえる 担当教員に報告
第 1 4 回	御礼状を書き、インターンシップのまとめを行う	経験したことを再度確認・精査し、今後の学習に活かすことが出来る部分を知る。	学習の成果の確認 担当教員に報告
第 1 5 回	インターンシップの成果について報告する	自分の経験を発表することでプレゼンテーション等の知識、技術を学ぶ。	パワーポイント資料を作成し学習の成果の確認

科目名	海外インターンシップ		教員名	大野 淑子	
Subject	Overseas Internship				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	4
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	◎	◎
科目の概要	インターンシップの意味や目的、社会常識や英語も含めたコミュニケーションスキルについて事前準備を行い、実践に臨みます。一定期間、海外の企業やサロンで仕事を体験することにより、海外で働くとはどういうことか、また社会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。行先により時期が異なりますが、7月初旬までに決定し7～8月に説明会及び事前学習を行います。インターンシップは8月末～9月末までの間で1週間程度の実施となります。				
授業の目標	海外の企業やサロン等での現場体験を通して社会を知り、グローバルに働くために必要な知識や技術が何か理解できるようになります。日本で経験できない環境の中でチャレンジ精神を持って取り組み、英語を含めたコミュニケーション能力やホスピタリティなど社会人基礎力を身につけ、進路選択のきっかけとします。				
時間外学習 (予習・復習)	企業研究、英語コミュニケーション力の強化など各自自覚を持って準備します。インターンシップ期間は業務内容や学んだことを整理し日々日誌をまとめながら理解を深めます。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	教員作成資料・レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材			
	使用設備・備品	ipad・PC 他			
	参考文献	「インターンシップリテラシー」長谷川文代 西文社 2010			
評価方法	事前教育課題 20%、日誌 40%、レポート 20%、報告会等での発表 20%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	取り組み姿勢、健康状態によっては希望に添えない場合もあります。また海外事情により実施の変更や中止の可能性があります。渡航の注意をよく読んで参加すること。				
本科目履修と関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	事前教育1 インターンシップを理解する	インターンシップの意味や目的を理解する	インターンシップ先について事前に調べ、授業で共有したことをまとめる
第2回	事前教育2 海外渡航について学ぶ	安全に海外でのインターンシップに臨むことができる	海外渡航についての資料を読み、事前に必要な情報や物を手配する
第3回	事前教育3 英語コミュニケーションを学ぶ	海外で英語でのコミュニケーションができる	英語教材による課題をこなし、授業で学んだコミュニケーションを繰り返し練習する
第4回	事前教育4 レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材により目標を明確にする	目標に向かってモチベーションをもって臨むことができる	目標をまとめた上で授業に望み、授業後に改めて整理する
第5回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	スケジュールを把握し、事前に確認の上必要な情報をまとめる 日誌をまとめる
第6回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第7回	インターンシップ	多様な客層に対し美しく年齢を重ねる美齡の視点で関わるることができる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第8回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第9回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第10回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第11回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第12回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第13回	インターンシップ	目標を持って業務に取り組みグローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理解を深める 日誌をまとめる
第14回	インターンシップのまとめ	経験したことを整理しその後の学習に活かすことができる	経験したことをレポートにまとめる
第15回	成果報告	お互いの学びを共有し今後の学習に活かすことができる	自分の体験をプレゼンテーションできるように準備する。友達の発表から共感したものを活用する

科目名	ヘアデザイン		教員名	ヘアチーム	
Subject	Hairstyling Design				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーション力
	◎	○	○	○	○
科目の概要	サロンワークの内容を基とし、その中でも主に、アップスタイリングの技術をモデルウィッグを使用して学ぶ。				
授業の目標	美容の知識・理論に基づいた基礎美容技術を習得し、想像したスタイルをモデルウィッグで表現できるようになる。 実習授業でコミュニケーション能力を身につけるとともに、様々な美容技術に触れ、関心を深める。				
時間外学習 (予習・復習)	予習・制作したいスタイルを考えてくる(第13回) 復習・授業で習得した技術を反復練習し、確実なものにする。(概ね60分)				
教科書・教材	教科書	配布プリント			
	教材	ヘアアクセサリー			
	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度10%、スライド提出10%、コンセプトシート20%、作品制作60%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻・欠席はスキルアップに支障が出るため認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、無断退出等、授業を受ける態度として不適切と判断される場合は、欠席同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション、教材配布 美容道具の説明・使い方	道具の名称、道具の役割・使い方を正しく理解できる。	
第2回	基本技術(逆毛の立て方、ピンの留め方、ゴムの結び方など)	スタイルを作る為の基本技術を身に付けることができる。	復習：どこを止めたら確実に止まるのか、ピンングすべき場所を見極められるように何度も練習すること。
第3回	ブレイド(三つ編み・編み込み・タイトロープ) デモンストレーション・実践	様々な編み方を知り、正しい手つきでブレイド技術を行うことができる。	復習：手つきが自己流にならないよう反復練習し、正しい手つきに慣れること。
第4回	アップスタイル① ブレイド デモンストレーション・実践	ブレイドの技術を使い、スタイルを完成させることができる。	復習：授業で行ったスタイルを、一か所以上アレンジしてスタイルを作ってみる。
第5回	アイロン・ホットカーラー デモンストレーション・実践	アイロン・ホットカーラーの使い方を習得する。	アイロン・ホットカーラー貸し出し
第6回	ヘアアレンジ① ハーフアップスタイル デモンストレーション・実践	ハーフアップスタイルを完成することが出来るようになる。	復習：授業で行ったスタイルを、一か所以上アレンジしてスタイルを作ってみる。
第7回	ヘアアレンジ② 編みおろしスタイル デモンストレーション・実践	編みおろしスタイルを完成することが出来るようになる。	復習：授業で行ったスタイルを、一か所以上アレンジしてスタイルを作ってみる。
第8回	ヘアアレンジ③ フルアップスタイル デモンストレーション・実践	フルアップスタイルを完成することが出来るようになる。	復習：授業で行ったスタイルを、一か所以上アレンジしてスタイルを作ってみる。
第9回	エクステ・WD デモンストレーション・実践	様々な美容の技術に触れ、関心を深める。	
第10回	アップスタイル② 夜会巻き デモンストレーション・実践	合わせ夜会の技術を理解・習得し、スタイルを完成させることができる。	復習：難度な技術の為、すぐに復習し、練習を繰り返すこと。 ・すき毛貸し出し
第11回	サロンアップスタイル 年代別スタイル	年代別のアップスタイルの特徴や注意点を理解し、スタイルを完成させることができる。	予習・復習：様々な年代の方のヘアスタイルを日頃から気にして見てみる。(街中、本、インターネット)
第12回	サロンアップスタイル グループワーク	グループ内でコミュニケーションをとり、一つの作品を完成させることができる。	復習：自分一人で、同じスタイルを作ってみる。
第13回	オリジナルスタイル練習	これまでに学んだ技術を活かしオリジナル作品を考えることで技術を確実に習得することができる。	予習：作りたい作品を考え、必要に応じて資料(画像)を用意してくる。
第14回	オリジナルスタイル作成 コンセプトシート作成	これまでに学んだ技術を活かし、オリジナル作品を完成させることができる	
第15回	作品発表・まとめ ロングウィッグのシャンプー	自分の作品をプレゼンテーションし、考えを表現することができる。	復習：他の作品からヒントを得て、新しいオリジナルスタイルを作ってみる。

科目名	着装技術Ⅱ		教員名	着装チーム	
Subject	Techniques of Kimono DressingⅡ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	○	◎
科目の概要	着装技術Ⅰで学んだ技術と知識をベースに、プロの技術者＝「山野流着装奥伝講師・美容着付師」の資格取得を目的とし、老若男女、健常者、障害者を問わない技術・技能を修得します。実習では七五三、成人式振袖、婚礼列席者の装い等、美容サロンで需要の大きい実践技術を徹底して学ぶ他、ヘアメイクを含むトータルビューティの表現力を磨くことで、“人に着付ける”というプロの立場と”教えさせていただく”という指導者の立場を深く理解していきます。この職業実践専門課程の実施を通じ、美齢学を踏まえ社会に役立つ技術者として就職１年目から現場で貢献できる総合力が確実に習得できます。				
授業の目標	本 科 目 の 履 修 を 通 し て 、 ①就職一年目から美容技術の現場で評価される「美容着付師」の資格を取得する。 ② サロンワークをイメージした実践学習を重ね技術者とお客様の双方の立場を理解し、技術見識共に美容着付けのプロを意識したトータルビューティを表現できる出来るようになる。 ③学内外の国際的なイベントやボランティアに積極的に参加し、日本人として自国の文化や着物の知識を伝えたり授業で学んだ技術を実践することで、社会で活かせる経験を積み技術力を磨く。				
時間外学習 (予習・復習)	プロの着付師をイメージし技術のスキルアップと経験を積むための予習、復習を個人の学習課題とする。●技術者として社会の情報収集を欠かさず行い、自分の技術をリンクさせ見る目を養いながら、伝統文化の基本と時代に即した表現力を研究する。さらに SNS を常識的な範囲内で有効に使用し個人のアピールをする●美容着付師技能審査合格のために課題の練習を随時欠かさず行う。(30 - 40 時間以上を要する)				
教科書・教材	教科書	山野流着装教伝			
	教材	着装技術Ⅰの教材を使用。新たに必要教材を課題ごとに配布			
	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル（保管は短大内）			
	参考文献	（一財）国際美容協会貯蔵			
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト、				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	①個人持参物/筆記用具、半紙、白ソックス、白タオル5本、女子は前後の衿が大きく開いたシャツ(キャミソール)、7分丈までのレギンス、男子はVかU字型シャツ、短パン ② マナー/実習時は髪をひとつに束ねる事、素足入室は厳禁 ③美容着付師申請は別途手続き有り				
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容着付師			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション サロン技術の実践① 体型補正 帯結び：末広太鼓	冠婚葬祭の装いを理解し、年代に対応する技術力を高める	通過儀礼の事前学習を要する（自分と着物の関わりを記録してくる）
第 2 回	助手の心得 喪服・夏の礼装	様々なシーンでの着物の常識を知り、サロンワークのシチュエーションでの技術を学ぶ	テキストを事前に一読してくる
第 3 回	サロン技術の実践② 七五三の女兒・男児	七五三の意味を理解し、子供の着つけの特徴を学び実践する	テキストを事前に一読してくる
第 4 回	付き添いの装い 色無地・訪問着	付き添いの母や祖母の装いとしての着つけと帯結びを知る	テキストを事前に一読してくる
第 5 回	サロン技術の実践③ 振袖のきつけ①	サロン営業の主流となる振袖の着つけを通し着付師の心得を学ぶ	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第 6 回	振袖帯結び：花の舞	振袖に着つけと帯結びのプロセスを理解する	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第 7 回	サロン技術の実践④ 振袖のきつけ②	着付師の心を知り 適切な体型補正を行い着つける	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第 8 回	振袖帯結び：ファンタジー	振袖にふさわしい帯結びのバランスを学ぶ	帯型のプロセスを理解するため、配布したプリントを復習する
第 9 回	サロン技術の実践⑤ 振袖のきつけ③	お客様の体型に合わせた着つけを行い、帯型を選択する	復習として帯型の模範と自分の作品との違いを確認する
第 10 回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート	仕上りを評価シートにより自分の技術を確認する	評価シート判定に向けて技術予習が必要
第 11 回	サロン技術の実践⑥ 振袖のきつけ④	着付師を意識し、スムーズな動きで着つけができるようになる	
第 12 回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識するようになる	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 13 回	サロン技術の実践⑦ 振袖のきつけ⑤	着付師を意識し、着つけと帯結びが出来るようになる	
第 14 回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識するようになる	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 15 回	サロン技術の実践⑧ 振袖のきつけ⑥	着付師を意識し、決められた時間での着つけと帯結びが出来るようになる	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 6 回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	着つけのトータルバランスを意識するようになる	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 1 7 回	サロン技術の実践⑨ 振袖のきつけ⑦	決められた時間に着つけと帯結びが出来るようになる	
第 1 8 回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー 評価シート	評価を通し、振袖と帯結びの技術が着付師のレベルにた事を確認する	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 1 9 回	振袖帯結び：花の舞・ファンタジー	技能審査に向けて、プロのレベルに達する事が出来るようになる	技術自主学習（所要時間は 90 分程度）
第 2 0 回	技術試験 振袖のきつけと帯結び	決められた時間に着つけと帯結びが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合は再試験の予習が必要
第 2 1 回	海外研修	海外研修旅行で短時間での着つけが出来るようになる	海外で着用する着物と帯の事前準備のため、着物が入るバックを持参する
第 2 2 回	自装・他装 アイコー枕使用	早着せ、早着替えの工夫としてアイコー枕での帯結びができるようになる	テキストを見て事前学習をする
第 2 3 回	サロン技術の実践⑩ 卒業式の装い	卒業式で装う女子の袴の着つけが出来るようになる	社会情報の収集を事前に行う
第 2 4 回	女子の袴	袴のための着つけの特徴を知る、袴の扱い方とたたみ方を学ぶ	袴のたたみ方を復習する
第 2 5 回	サロン技術の実践⑪ 卒業式の装い	成人式、婚礼の男子の袴の着つけが出来るよう②なる	社会情報の収集を事前に行う
第 2 6 回	男子の袴	女子袴との違い、着つけの特徴を知り、袴のたたみ方が出来るようになる	袴のたたみ方を復習する
第 2 7 回	サロン技術の実践⑫ 振袖の着つけ	振袖の着つけと帯のバリエーションを増やす	社会情報の収集を事前に行う
第 2 8 回	帯のバリエーション 振袖帯結び：二枚扇	アイコー枕を使用し、振袖の着つけの自装ができるようになる	情報に応じた自分らしいスタイルを考えてくる
第 2 9 回	筆記試験	日本人として老若男女を問わず美しい着つけと着物の知識を理解出来るよう②なる	十分に知識の習得が出来なかった場合は再試験への予習が必要
第 3 0 回	式典での装い 礼装 振袖・男袴	資格取得の認定証授与式にむけて着つけの技術を確認する	自分の装いのコーディネイトを事前に準備し、場合によっては持参する

科目名	メイクアップⅡ		教員名	ティミー 西村 他	
Subject	Make-upⅡ				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	◎	○	◎
科目の概要	「メイクアップⅠ」で学んだベーシックな知識を発展させたメイクアップの応用を学ぶ。施術を行う対象者の個性に合わせ、どのような技術を施せば似合うのかを、学生自らが考え実践する。美しくメイクアップを仕上げる技術者の育成のみならず、化粧品の紹介や販売にも必要な知識を学ぶ。また写真撮影、動画撮影、舞台、ファッションショー、婚礼、高齢者へのメイクアップ等、の日常とは異なる現場でのメイクアップ技術・知識も学ぶ。デモンストレーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。				
授業の目標	様々な顔立ち、肌色にあわせたメイクアップができるようになる。一つの表現をするのにはさまざま方法があることを理解し、何種類かの方法の中から学生が主体的に手法を選択し、臨機応変に対応できるようになる。施術される側の 顔の立体感、陰影、各パーツの特徴、性格や好み、ライフスタイルを理解し、似合うメイクアップを提供できる知識、技術、経験を身につけ、メイクアップを通じて施術を受ける側の満足感を提供できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作品制作準備に必要な時間数は合計で約30時間である。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒。			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	作品制作25%、筆記試験25%、小課題25%、授業参加意欲25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	顔型や年齢によるメイクアップ応用の知識を学ぶ。	顔の形の違いや、美齢学に基づいた年齢による顔の違いを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第2回	顔型や年齢によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	顔の違いによって提供する技術が違うことを理解する。	講義内容を自宅で復習。
第3回	肌色によるメイクアップ応用の知識を学ぶ。	肌の色になぜ違いが生まれるか理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	肌色によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	肌の色によって提供する技術が違うことを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第5回	立体分析の意味を学ぶ。	顔の立体的な構造を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	自身の顔の立体を学ぶ。	自身の顔の立体感を正しく理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第7回	立体分析の個人差を学ぶ。	顔の立体感に個人差があることを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第8回	他者の顔の立体を学ぶ。	個人差のある顔の立体感に適切なベースメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第9回	骨格分析の意味を学ぶ。	頭蓋骨の基本的な構造を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	自身の顔の骨格を学ぶ。	自身の骨格をメイクアップで表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第11回	演劇ステージメイクアップの知識を学ぶ。	日常のメイクアップとの違いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第12回	演劇ステージメイクアップの技術を学ぶ。	演劇ステージメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第13回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の筋肉や肌色の变化を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第14回	老化による顔の変化をメイクアップで表現する。	老化した顔をメイクアップで表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第15回	1930年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	1930年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	1930年代のメイクアップを表現する。	1930年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第17回	1950年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	1950年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第18回	1950年代のメイクアップを表現する。	1950年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第19回	1960年代のメイクアップトレンドを学ぶ。	1960年代のファッションやメイクアップのトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第20回	1960年代のメイクアップを表現する。	1960年代のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第21回	洋装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	ブライダルの現場で求められる知識や振る舞いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第22回	洋装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	洋装のブライダルメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第23回	和装のブライダルシーンの知識を学ぶ。	洋装ブライダルメイクアップとの違いが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第24回	和装のブライダルメイクアップの技術を学ぶ。	和装花嫁のメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第25回	海外の秋冬メイクアップトレンドを学ぶ。	パリ、ロンドン、NY等のメイクアップトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第26回	海外のファッションショーでトレンドになった秋冬メイクアップスタイルを模写する。	海外でのファッションショーに必要な技術を習得する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第27回	写真撮影のメイクアップに関する知識を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に必要な知識が理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第28回	写真撮影のメイクアップに関する技術を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に求められる技術を表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第29回	作品制作のリハーサルを行う。	作品制作に向けチーム内で意見を出し合い、メイクアップに反映できる。	チーム内で作品の方向性を話し合い、共同作業が円滑に進むよう調整する。
第30回	作品コンセプトの発表を行う。	チームごとに作品のコンセプトを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。

科目名	メイクアップⅢ		教員名	ティミー 西村 他	
Subject	Make-upⅢ				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	◎	○	◎
科目の概要	専門的なプロのメイクアップ技術・知識を学ぶ。ファッションショー、映像撮影、化粧品販売、等の現場で使えるテクニックを各専門分野の教員が指導し、常に新しい技術と情報を取り入れた授業内容を展開する。デモンストレーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。				
授業の目標	プロフェッショナルなメイクアップアーティストが様々な現場で求められるテクニックと知識を身につける。全ての年代の女性を美しく見せるメイクアップが表現できる。目指すイメージを具体的にメイクアップで表現できる。その人の性格や好み、生活を理解し、その人に似合うメイクアップを提供できる知識、技術、経験を身につける。				
時間外学習 (予習・復習)	タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作品制作準備に必要な時間数は合計で約１５時間である。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒。			
	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	作品制作３５％、小課題３５％、授業参加意欲３０％				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	動画撮影のメイクアップに関する知識を学ぶ。	写真撮影との手法の違いを理解できる。	講義内容を自宅で復習。
第2回	動画撮影のメイクアップに関する技術を学ぶ。	プロモーションビデオ用のメイクアップを表現できる。	講義内容を自宅で復習。
第3回	ライブステージ用メイクアップの知識を学ぶ。	コンサート、ミュージカル等、バックステージでのメイクアップに必要な知識を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第4回	ライブステージ用メイクアップの技術を学ぶ。	コンサート、ミュージカルのメイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第5回	海外の春夏メイクアップトレンドを学ぶ。	パリ、ロンドン、NY等のメイクアップトレンドが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第6回	海外のファッションショーでトレンドになった春夏メイクアップスタイルを模写する。	海外でのファッションショーで必要な技術を習得できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第7回	モンスターの特殊メイクアップの手法を学ぶ。	映画撮影などで求められるメイクアップ知識を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第8回	ゾンビの特殊メイクアップの手法を学ぶ。	ゾンビの特殊メイクアップを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第9回	あざ、傷の特殊メイクアップの手法を学ぶ。	特殊メイクに必要な道具を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第10回	火傷の特殊メイクアップの手法を学ぶ。	様々な特殊メイクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第11回	化粧品業界について学ぶ。	化粧品会社でのメイクアップアーティスト、美容部員の役割について理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。
第12回	化粧品のトレンドについて学ぶ。	最新の化粧品を使いこなすことが出来るようになる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第13回	作品制作のリハーサルを行う。	作品制作に向けチーム内で意見を出し合い、メイクアップに反映できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。
第14回	作品コンセプトの発表を行う。	チームごとに作品のコンセプトを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。
第15回	作品制作を行う。	学内のスタジオで撮影できる高度な作品制作の技術を表現できる。	撮影した写真をデジタルポートフォリオとして保存する。

科目名	応用ネイル技術		教員名	加藤 宏美 他	
Subject	Applied Nail Techniques				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	選択	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	◎	◎	○	◎
科目の概要	ネイルケア・カラーリングの応用を学ぶ。より高いレベルの検定を目指す。 ネイルサロンに就職する際、基礎部分において即戦力となりうる人材を育成する。 また、ネイルサロンにおいて8割を占める技術であるソークオフジェルについても深く学ぶ。関連科目としてコミュニケーション能力を養うために接客・接遇法、その他、色彩学やトータルの美を追求するためにメイクアップⅡを学ぶことが望ましい。				
授業の目標	ネイルの器具、用具を正しく扱うことができ、技術理論に基づいた作業を行うことができるようになる。年齢を問わずお客様に合わせたネイル技術を提供できるようになることを目標とする。爪を健やかに保つために、加齢による爪の病気などを見極め、お客さまに適切なアドバイスを行うことができる。時間内に作業を終了し、接客を意識して施術することができる。				
時間外学習 (予習・復習)	ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。技術においては1回につき60分～90分程度の復習を行なうことが望ましい。				
教科書・教材	教科書	JNA テクニカルシステム BASIC 発行 NPO 法人日本ネイリスト協会			
	教材	配布教材は別紙参照 * 授業初回で配布します			
	使用設備・備品	美容実習室・水道			
	参考文献	ネイル・プロフェッショナル 第4版 発行 株) インターメディカル			
評価方法	授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。 * 基礎ネイル技術単位取得が履修条件です。				
本科目履修と関連する資格	資格名	ネイリスト技能検定試験 2級			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング	道具、器具、マニキュア化粧品 の成分を理解する	
第 2 回	ネイルケア・カラーリングの タイム計測 ・チップラップ を自分の爪で練習する	前期の技術を手順どおりに施 術することができる。チップラ ップ技術の手順を覚える。	
第 3 回	チップラップを相モデルで練 習する	材料の特長、使用方法を理解す ることができる	
第 4 回	シェラック① ハイブリッドネイルケアシス テムを学ぶ	材料の特長、使用方法を理解す ることができる	次週までにアートのデザインを考 えてくる
第 5 回	シェラック② 自分の爪で練習する	アート用の素材を使用しデザ インすることができる	検定受験者グループはタイム計測 を実施する
第 6 回	シェラック③ 作品制作	バランスを考えてネイルチッ プにデザインすることができる	次週のアートのデッサンを考えて くる。その他、必要に応じて装飾品 を持参する。
第 7 回	ハロウィンアート制作	色彩と共にテーマに沿ったア ートを描くことができる。	検定受験者グループはタイム計測 を実施する
第 8 回	ハロウィンアート制作	装飾品を使用して作品を作る ことができる	検定受験者グループはタイム計測 を実施する
第 9 回	スカルプチュアネイル① 理論 筆の扱い方 フォームの装着	人工爪の理論、製品の特長を理 解することができる	
第 10 回	スカルプチュアネイル② 材料の特長と技法を学ぶ	自分の爪に施術することがで き技法を理解することができる	
第 11 回	スカルプチュアネイル③ 実技	全ての技術工程において手順 通りに施術することができる。	
第 12 回	スカルプチュアネイル④ 材料の特長と技法を学ぶ	全ての技術工程においての時 間を意識して施術することが できる。	
第 13 回	チップオーバーレイ	技術の理論と製品の特長を理 解することができる	
第 14 回	チップオーバーレイ	正しく製品を扱い、自分の爪に 施術することができる	
第 15 回	3D、エンボスアート① 技術	材料の特長を理解することが できる	

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	3D、エンボスアート② アート制作の練習	指定されたテーマを考えて作ることができる	次週のアートのデッサンを考えてくる。その他、必要に応じて装飾品を持参する。
第17回	「クリスマス」又は「和」をテーマにした作品制作	色彩と共にテーマに沿ったアートを描くことができる。	
第18回	「クリスマス」又は「和」をテーマにした作品制作	装飾品を使用して作品を作ることができる	
第19回	ジェルネイル① 理論	材料の理論と使用法を理解することができる	
第20回	ジェルネイル② フローター オフの方法	材料の使用法を理解し、自分の爪に施術することができる	
第21回	ジェルスカルプチュア①	材料の理論と使用法を理解することができる	
第22回	ジェルスカルプチュア② 実技	相モデルで実践し、手順どおりに施術することができる	
第23回	ジェルネイル③ 相モデルに施術する	爪の形状を10指揃えて、手順通りに施術することができる	
第24回	ジェルネイル④相モデルを交替して行う	爪の形状を含め、相手の要望どおりにデザインすることができる。	
第25回	人工爪とアート①	スカルプチュアネイルとエンボスアートを行なうことができる	
第26回	人工爪とアート② 技術の復習	スカルプチュアネイルとエンボスアートを時間内に行なうことができる	
第27回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカルプチュア・3Dを取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。	
第28回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカルプチュア・3Dを取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。	
第29回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がりまでの時間を意識して施術することができる。	
第30回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がりまでの時間を意識して施術することができる。	

科目名	セカンドランゲージスピーチ		教員名	英語チーム/日本語チーム	
Subject	Second Language Speech				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	○	○	◎	◎	○
科目の概要	語学科目のひとつとして、日本人は英語、留学生は日本語によるスピーチの作成、発表を行い、語学力の到達点の確認と向上を目指す。				
授業の目標	各人にて英語もしくは日本語スピーチの課題を設定することにより、課題発見を行うことが出来るようになる。課題スピーチ作成を行うことにより、理論的思考力を育て、また英語作文、日本語作文能力を向上することが出来る。英語での発表を行うことによりマルチリンガル能力・スピーチスキルの向上を行う。				
時間外学習 (予習・復習)	予習：テーマに対する事前調査を行い、資料収集を行う。(60 分程度) 復習：レビューを行い、次回までの修正点の修正を行う。(20 分程度)				
教科書・教材	教科書	なし			
	教材	必要に応じて資料配布、閲覧を行う			
	使用設備・備品	演壇、マイク、スピーカ、ホワイトボード、DVD、プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	授業参加意欲 20%、授業態度 20%、実技演習による習得度判定 60%により評価します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	私語、居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション	15 回で何を学んでいくかを理解する	復習：各自テーマ設定のための情報・資料収集を行う
第 2 回	テーマ設定 1	テーマの設定を行い、概要の設定を行う	概要を作成し提示出来るようにしておく
第 3 回	テーマ設定 2	テーマのレビュー、修正を行う	概要を作成し提示出来るようにしておく
第 4 回	原稿案を作成する（邦文） 1	初回案の作成	推敲し、提示できるようにする
第 5 回	原稿案を作成する（邦文） 2	レビューを行い修正を行う	推敲し、提示できるようにする
第 6 回	原稿案を作成する（日本人は英文、留学生は邦文） 1	英文案の作成	推敲し、提示できるようにする
第 7 回	原稿案を作成する（日本人は英文、留学生は邦文） 2	レビューを行い修正を行う	推敲し、提示できるようにする
第 8 回	原稿案を作成する（日本人は英文、留学生は邦文） 3	レビューを行い修正を行う	推敲し、提示できるようにする
第 9 回	原稿案を作成する（日本人は英文、留学生は邦文） 4	レビューを行い修正を行う	推敲し、提示できるようにする
第 10 回	スピーチリハーサル 1	原稿を見ずにスピーチ出来るようになる	内容を把握し、練習を行う
第 11 回	スピーチリハーサル 2	原稿を見ずにスピーチ出来るようになる	内容を把握し、練習を行う
第 12 回	スピーチリハーサル 3	原稿を見ずにスピーチ出来るようになる	内容を把握し、練習を行う
第 13 回	スピーチ実施	表現方法、発音等を確認し、手法を習得する 他者の意見に傾聴し、意見を述べられるようになる	相互評価の結果をまとめておく
第 14 回	スピーチ実施	表現方法、発音等を確認し、手法を習得する 他者の意見に傾聴し、意見を述べられるようになる	相互評価の結果をまとめておく
第 15 回	まとめ 15 回の振り返りを行う	優秀者の選抜・発表を行う	意見交換出来るように整理しておく

科目名	総合ブライダル学		教員名	佐藤 美奈子	
Subject	General Study of Bridal Ceremony				
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	◎	◎	◎
科目の概要	日本の婚礼は伝統的、民族的背景を持ち、地方の風習や影響を受けながら形成されてきました。ここでは、多様化する現代のブライダルの状況をふまえ、基礎知識と時代のニーズに則したブライダルのスタイルを幅広く総合的に学びます。欧米やアジアとの婚礼の違い、人生の中で最も輝く日の演出、現代の流行を意識した花嫁姿など婚礼の成り立ちや美容との関連性を理解することで、健康者・高齢者を問わないブライダルの非日常的要素の高い場面を具体的にイメージできる力を養います。				
授業の目標	婚礼（ウエディング、ブライダル）への漠然としたイメージを業務内容や形式を通し細分化して学ぶことで、ウエディング、ブライダルをより明確に把握し、婚礼の意義や美容との関わりを理解することができる。また将来婚礼業務に関わることを想定し、接客のマナーやホスピタリティを自然に身に付け、適齢期から高齢化した婚礼においても美容の視点でお客様のための建設的な企画提案ができるようになる。				
時間外学習 （予習・復習）	予習・復習／テキストの黙読・SNS 等の予備知識収集など合わせて 15 時間程度の予習復習補習／アシスタントブライダルコーディネーター検定のための事前勉強 1 回、検定 1 回				
教科書・教材	教科書	テキスト有			
	教材	テキストおよび、他プリントなど必要に応じて配布			
	使用設備・備品	筆記用具、ipad、総合ブライダル学専用のノートを用意すること			
	参考文献				
評価方法	筆記試験 60% レポート 30% 授業態度 10%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	課外「ブライダルビューティアカデミー」の受講者は本科目を必ず選択、履修してください。また ABC 検定を受験することが前提です。（試験料別途）				
本科目履修と関連する資格	資格名	①アシスタントブライダルコーディネーター（任意） ②ブライダルアーティスト（課外授業とリンク） ③パーソナルカラーアドバイザー（課外授業とリンク）			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション (日本の結婚式の歴史と婚禮ビジネスを学ぶ)	結婚式の歴史を確認。婚禮に関わる業務のチームワークを知る	
第2回	ウエディングのスタイル① 日本の婚礼形式とその装い	神前式の形式とその意味を知り、その装いを理解する	テキストを一読してくる
第3回	ウエディングのスタイル② 欧米の婚礼形式とその装い	キリスト教婚礼の形式を知り、その装いを理解する	テキストを一読してくる
第4回	ブライダルトレンド	ブライダルのトレンドについて、ホテルブライダルの美容を軸に考える	雑誌などで自分の好きなトレンドを探して写メしてくる
第5回	パーソナルカラーベーシック1 (色彩の基本)	色の組み合わせを学び、似合う色を理解できるようになる	
第6回	パーソナルカラーベーシック2 (パーソナルカラーシステム)	お客様に似合う色を選べるようになる	自分の似合う色を意識したメイクや服装をした画像を撮る
第7回	ブライダルのキャリア	就職に向けたブライダル業界の最新情報を知る	ブライダル業界の会社を数社ピックアップしておく
第8回	フォーマルファッション ブライドとグルームの装い	ファッションを軸に、ウエディングドレスやメンズのコーディネイトを理解する	洋装、和装の新婦の画像をみつめてくる
第9回	アジアブライダルサミット	アジアの婚礼を通して、伝統文化と婚礼のつながりを考える	自国の婚礼とアジアの関連をレポートする
第10回	結納とプランニング	挙式のプランニングができるようになる	
第11回	レセプションの企画	コーディネイターになってレセプションを企画してみる	前回の授業を活かし、自分なりのウエディングスタイルをイメージしてく
第12回	ブライダルの専門用語	ブライダルに関わる知識を学び専門用語を理解する	接客用語で会話をしてみる
第13回	ABC 検定対策	ABC 検定受験にのりための練習問題を通しブライダルに関する知識力をつける	配布されたプリント問題を解き、理解していない箇所は復習する
第14回	テキスト総まとめ	知識として理論的に全体を確認する	テキストを熟読してくる
第15回	まとめ	婚礼を知識として理解できたかどうかを総合的に確認する。	テキストだけでは無く、授業内で出たワードについても復習して臨むこと

科目名	フォトシューティング		教員名	西 将隆 浦川 良将	
Subject	Photo Shooting				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	◎	○	△
科目の概要	一眼レフカメラを使用し、ビューティ、ファッション、ポートレート等の撮影を行い、作品を作成します。屋外での撮影や、スタジオでの撮影方法を学びます。				
授業の目標	一眼レフカメラの操作、ライティングの技術を身につける。ヘアメイクのスキルを生かし、個人での撮影、チームでの撮影を経験し、作品を作りポートフォリオを制作します。ポートフォリオは、A4 サイズのプリントを制作します。就職活動にも、役に立てて下さい。				
時間外学習 (予習・復習)	各授業ごとに、復習の内容を説明します。				
教科書・教材	教科書	オリジナルプリントを配布			
	教材	プリント、資料を授業事に用意します。			
	使用設備・備品	一眼レフカメラ、撮影照明機材、プロジェクター、写真室スタジオ			
	参考文献	図書館にある本全般。			
評価方法	個人課題 50% グループ課題 25% 授業参加意欲 25%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	SD カード（16G 以上を推奨）を各自持参して下さい。（第 1 回目の授業で説明します。）				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション 講師自己紹介、授業内容紹介	授業、評価の内容を把握する。	授業で必要になるものの 説明 SD カード
第 2 回	カメラの仕組み 絞りとシャッタースピード ピントを合わせる練習	絞りとシャッタースピードを 理解する。ピントを合わせられ ようになる。	カメラ操作の復習。プリント参照。
第 3 回	カメラの操作① 絞りを変えて撮る	絞りを変えることで写真がど う変化するか理解する。	カメラ操作の復習。プリント参照。
第 4 回	カメラの操作② シャッタースピードを変えて 撮る。	シャッタースピードを変えて 写真がどう変化するか理解す る。	カメラ操作の復習。プリント参照。
第 5 回	カメラの操作③ M モード・マニュアル撮影	絞り、シャッターの組み合わせ で マニュアル撮影が出来る。	カメラ操作の復習。プリント参照。 バストアップ写真を予習。
第 6 回	バストアップの撮影	ヘアメイクをして、自然光をい かした作品をつくる。	課題①
第 7 回	課題①の作品提出と総評	他の人の写真を見て勉強する。	ライティングを予習。
第 8 回	ライティング実習① アイランプ基礎編	アイランプで効果的なライテ ィングを考え撮影する。	ライティングを復習。
第 9 回	ライティング実習② アイランプ応用編	逆光やバウンス光を利用した ライティングを考える。	ライティングを復習。
第 10 回	ライティング実習③ ストロボ 基礎編	ストロボの特性を理解する。	ライティングを復習。
第 11 回	ライティング実習④ ストロボ応用編	逆光やバウンス光を利用した ライティングを考える。	作品撮りのアイデア調査、チームの 編成。
第 12 回	作品撮り企画会議	グループに分かれテーマを企 画する。	モデル、撮影イメージを決める。必 要なものを確認。
第 13 回	修了制作 作品撮り	チーム一丸となり、1 枚の写真 作品を作る。	課題③
第 14 回	修了制作 作品撮り	チーム一丸となり、1 枚の写真 作品を作る。	課題③
第 15 回	修了制作 作品撮り	作品撮りプリントアウト ポートフォリオ完成。	

科目名	ファッショントレンド演習		教員名	大野 淑子	
Subject	Fashion Trend Practice				
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	△	◎	○	△
科目の概要	人の美を演出するためには美容だけでなくファッションの役割も重要である。トレンドはその時代の傾向や流行を示すものであり、美容やファッションを通して表現されるものである。この授業ではファッションの基礎的な知識や、トレンドが生まれる背景やプロセスを学び、ファッショントレンドの現状や問題点について考える。また最新のコレクションにも触れながら演習を通して自己表現を楽しむ。				
授業の目標	ファッションの基礎的な知識やファッショントレンドの成り立ち、ファッション業界について学び、自分のファッションがどのようなプロセスを経て商品となっているか理解できる。また作品作りやブランド作りを通してファッションの楽しさを感じることができる。				
時間外学習 (予習・復習)	商業施設や文化施設等でファッショントレンドを観察し、生活者の意識や価値観を探る。また雑誌やインターネットの情報を参考にしてファッション分析をする。				
教科書・教材	教科書	教員作成資料			
	教材	教員作成資料・ファッション雑誌等			
	使用設備・備品	PC 等			
	参考文献	「ファッションビジネスの世界」日本衣料管理協会 2011 年他			
評価方法	平常点 30%、演習課題 40%、確認テスト 30%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	好きな雑誌があれば持ってくる。意欲的に取り組んで欲しい。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	特になし			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション	トレンドの基礎概念を理解する	好きな雑誌等でトレンドを意識し、配布資料で自分のファッションを評価する
第2回	ファッションの知識1 テキスタイルについて学ぶ	テキスタイルを理解する	自分のファッションの素材を確認し特徴を調べまとめる
第3回	ファッションの知識2 アイテムについて学ぶ	アイテムやディティールを理解する	自分の好きなアイテムやディティールをまとめ、特徴を理解する
第4回	ファッションの知識3 ファッションイメージについて学ぶ	ファッションイメージを理解する	好きな雑誌等で好みのファッションの傾向を分析し、特徴を理解する
第5回	ファッショントレンドについて学ぶ	トレンドの成り立ちを理解する	好きな雑誌等でトレンドを意識し成り立ちについて理解したことを振り返る
第6回	コレクションについて学ぶ	ラグジュアリーブランドを理解する	雑誌や映像でコレクションに触れる
第7回	アパレル業界について学ぶ ファストファッション	ファストファッションを理解する	ファストファッションのブランドのホームページを確認したりや店舗に足を運び特徴をまとめる
第8回	アパレル業界について学ぶ ファストファッション	ファストファッションの問題を理解する	ファストファッションのブランドのホームページを確認したりや店舗に足を運び問題点を整理する
第9回	アパレル業界について学ぶ エシカルファッション	エシカル概念を学ぶ	インターネットでエシカルファッションの事例を調べまとめる
第10回	アパレル業界について学ぶ セレクトショップ	セレクトショップを調査し特徴を理解する	インターネットでセレクトショップの事例を調べまとめる
第11回	ユニバーサルファッションについて学ぶ	美齡(年齢に関係なくおしゃれをすることの大切さ)の視点を持つ	インターネットや店舗に足を運んでユニバーサルファッションについて調べる
第12回	ファッションディレクション 好きなブランドについて学ぶ	好みのブランドについて分析する	インターネットで好みのブランドを調べまとめる
第13回	ファッションディレクション ブランドコンセプトについて学ぶ	自分ブランドを考える	インターネットで好みのブランドについて調べまとめる
第14回	ファッションディレクション ブランドを作る方法を学ぶ	自分ブランドのターゲットや展開方法を考える	インターネットや店舗に足を運んでユニバーサルファッションについて調べる
第15回	発表とまとめ	自分ブランドをアピールし可能性を探る、学んだことをまとめる	プレゼンテーションの準備とふりかえり

科目名	チャイルドケア演習		教員名	河崎 峰子	
Subject	Childcare Practice				
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修／選択	選択	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーション力
	◎	○	○	○	◎
科目の概要	幸福の追求に「物の豊かさ」よりも「心の豊かさ」に価値観が変化していく現在、家族の持つ存在意義が確立され、今企業は、お子様とお子様連れのお客様へのサービスの質の向上が求められています。お子様とお子様連れのお客様に喜んでいただけるサービスを提供できる人は、企業はもとより、社会が求める人像なのです。お子様とそこご家族に安心、快適さ、より高い満足を提供するための知識と技術を、授業を通して習得します。また美歳学において幼少期の成長も学びます。				
授業の目標	サービス産業に携わる者として、お子様とお子様連れのお客様の対応も大切なスキルの一つです。良いコミュニケーションを実践することで、お客様の満足度を引き上げ、サービス産業の活性化に役立つ基礎知識を習得します。授業では、お子様の発達や心理、事故防止策や体調管理等お子様に関する知識は勿論のこと、お子様のご家族様への対応をも学びます。具体的には「チャイルドケアオブザーバー」の資格取得を目標とします。				
時間外学習 (予習・復習)	各回授業の大まかの内容の予習、授業のポイントとなる内容の復習を行って下さい。また復習として作品制作も行います。具体的な例として手遊び歌を調べたり、習ったことをスムーズに実践できるように反復練習します。加えて「チャイルドケアオブザーバー」の資格取得のための予習復習も励行し、知識習得確認テストを授業内で数回行いますので準備してください。時間外学習は概ね 60 分から 90 分を見込みますが時間に捉われず、理解を深めることに重視してください。				
教科書・教材	教科書	「チャイルドケアオブザーバー」の教科書			
	教材	必要に応じてプリントを配布します。			
	使用設備・備品	CD、DVD、ビデオ再生機。			
	参考文献	必要に応じて提示します。			
評価方法	授業参加意欲 30%、子供を楽しませる実践テクニックの作品制作 15%、筆記試験 55%の結果等を総合的に評価します。授業態度は重視します。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあります。				
本科目履修と関連する資格	資格名	「チャイルドケアオブザーバー」			

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	オリエンテーション チャイルドケアオブザーバー とは何かを学ぶ。	授業の進め方を周知し、 この授業の全体像を把握する。	テキストを一通り読む。P2～P187 (60 分以上)
第 2 回	チャイルドケアオブザーバー の基本理念を学ぶ。	基本理念・役割・実践力を高める 3 ステップを理解する。	教科書 P2～P11 を復習し、「3 ステッ プ」の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読み込む。
第 3 回	チャイルドケアオブザーバー 誕生の社会的背景を学ぶ。	国民の価値観の変化を学ぶ。	教科書 P13～P25 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読む。
第 4 回	チャイルドケアオブザーバー 誕生の社会的背景を理解し、 社会環境の変化を学ぶ。	社会環境の変化にはどのような ことがあるか理解する。	教科書 P13～P25 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読む。
第 5 回	子どもの発達と心理を学ぶ。	からだと心の発達、栄養と食事 を理解する。	教科書 P27～P50 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読む。
第 6 回	子どもの発達と心理から、人 間の欲求を学ぶ。	睡眠・排泄、身体的発達、児童 の成長を理解する。	教科書 P51～P59 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読む。
第 7 回	子どもの事故防止を学ぶ。	事故への誘因、傾向、防止を理 解し、事例研究をする。	教科書 P61～P79 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読む。
第 8 回	子どもの怪我への対応と応急 手当を学ぶ。	万が一に備える知識と実践を 学ぶ。	教科書 P81～P93 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読む。
第 9 回	体調の悪いお子様への対応、 子どものアレルギーとはどの 様なものかを学ぶ。	対応と対処法を学び、アレルギー の知識も習得する。	教科書 P95～P113 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの為 の学習をする。次回単元の教科書を 読む。
第 10 回	子どもの心をつかむコミュニ ケーション術を学ぶ。	3 つのポイントを学び、子供の 行動を理解する。	教科書 P115～P135 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの 為の学習をする。次回単元の教科書 を読む。
第 11 回	子どもを楽しませる実践テク ニックを学ぶ。	手遊び、折り紙等で遊びを実践 する。	教科書 P137～P140 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの 為の学習をする。次回単元の教科書 を読む。
第 12 回	子どもの困った場面での対応 を学ぶ。	子供の与えられた状況を好転 させるテクニックを学ぶ。	教科書 P141～P150 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの 為の学習をする。次回単元の教科書 を読む。
第 13 回	子どもの安全な介助法とは何 かを学ぶ。	赤ちゃんの抱っこ、ベビーカー の取り扱い等を習得する。	教科書 P151～P161 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの 為の学習をする。次回単元の教科書 を読む。
第 14 回	ご家族への理解と接遇とマナ ーを学ぶ。	親の心理や社会環境等を理解 する。	教科書 P163～P187 を復習し、習った 内容の理解を深め、確認テストの 為の学習をする。
第 15 回	まとめ	チャイルドケアオブザーバー 全体を振り返り、習熟度を確認 する。	全体的な復習をし、理解度を深め る。(60 分)